

### 土坑 SK3019 (第164図)

01年度2区の北西部、W-2, X-2グリッドで検出された比較的大型の遺構である。長軸340cm, 短軸270cm, 深さ38cmを測り、平面形が不整形状を呈する。埋土は炭化物を含む灰黄色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルト、灰オリーブシルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、鉄器等であり、多くの遺物が出土した。実測できたものも多かった。

### 出土遺物 (第165図)

433は土師器皿である。口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面に赤色塗彩が施されている。

434, 435, 438は土師器甕である。435は口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は尖りぎみにおさめ、上方にやや拡張する。434は口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は尖りぎみにおさめ

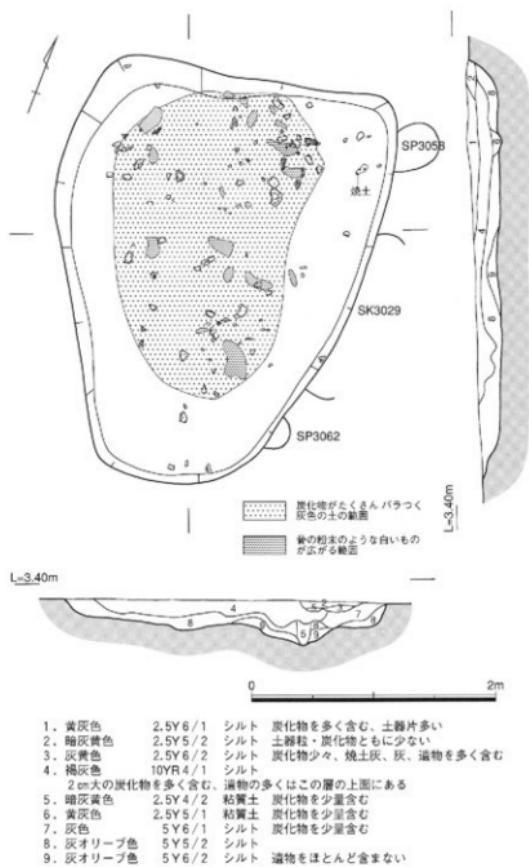
る。438は口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は尖りぎみにおさめ、やや上下に拡張する。いずれの甕も内外面ハケ調整である。

436は土師器甕である。外面はハケ調整で、口縁部は平坦で、やや内面に拡張する。

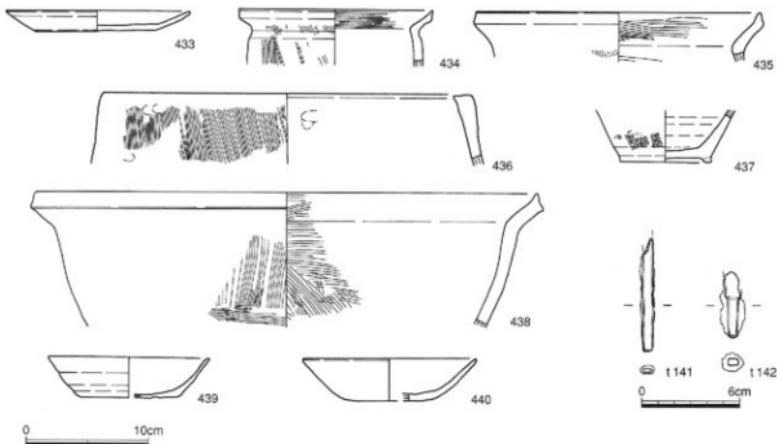
439, 440は須恵器杯である。439は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端丸くおさめる。440は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。いずれも底部は回転ヘラ切である。

437は須恵器高台付壺である。体部外上方に直線的に立ち上がる。断面逆台形状の高台が貼り付けられている。外面に格子状タキが施されている。

t 141, t 142は鉄器である。器種はいずれも鐵鎌である。t 141の長さは68.0mmである。



第164図 SK3019実測図



第165図 SK3019出土遺物実測図

#### 土坑 SK3030 (第166図)

01年度3区の北東部、J-9グリッドで検出された遺構である。長軸260cm、短軸150cm、深さ30cmを測り、平面形が不整形状を呈する。埋土は灰オリーブシルト、灰色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、黒色土器等で、非常に多くの遺物が出土した。実測できた物もたいへん多かった。

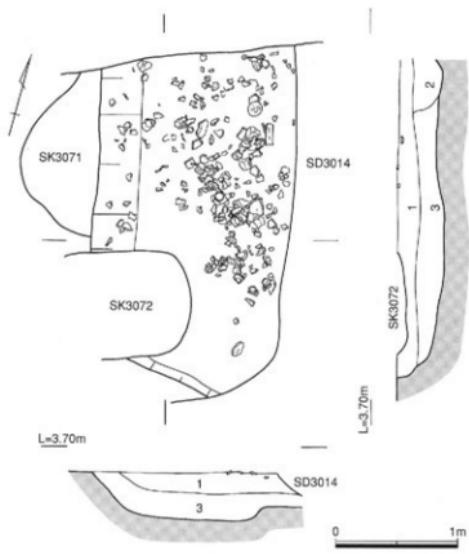
#### 出土遺物 (第167~168図)

441~488は土師器杯である。

441, 443, 444, 448, 450~452, 457, 461~463, 465~471, 473, 475~477, 479~482, 484は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめるタイプの形状である。

446, 449, 454~456, 464, 478, 483, 485, 487, 488は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめるタイプの形状である。

442, 447, 458, 474は口縁部内彎ぎ



第166図 SK3030実測図

みに立ち上がり、端部丸くおさめるタイプである。(442は端部尖りぎみ)

445, 453, 459, 460, 472, 486は口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめるタイプである。(472は端部尖りぎみ)

441, 443~445, 447~449, 453, 454, 457, 460, 464, 467, 469, 470, 474, 475, 478, 480, 484~486は、内外面に赤色塗彩が施されている。これらの杯は、一部を除けばいずれも口径が12~13cm前後、器高が3~4cm前後、底径6~8cm前後のものである。内外面の調整は回転台ナデで、底部は回転ヘラ切、または回転ヘラ切後ナデである。

489は土師器高台付杯である。体部外上方に立ち上がる。断面U字形状の高めの高台が貼り付けられている。内外面に赤色塗彩が施されている。

490~505は土師器皿である。形態としては491, 493, 494, 497, 501のように口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり端部丸くおさめるものと、490, 492, 495, 496, 498~500, 502~505のように口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部近くでやや外反し先端丸くおさめるものとがある。底部は回転ヘラ切または回転ヘラ切後ナデである。498~500のように内面、505のように内外面に赤色塗彩が施されているものもある。

506~508は土師器碗である。形態としては、口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端丸くおさめるものと、口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端丸くおさめるものがある。508は内外面ミガキ調整であるが、それ以外は回転台ナデ調整のものが多い。

509は土師器羽釜である。口径22.0cm、鈎の径28.0cmを測り、口縁部直線的に立ち上がり端部上方にやや拡張し尖りぎみにおさめる。口縁直下に断面方形状でやや上方に拡張した鈎がめぐる。外面はハケ調整である。

510~516は土師器甕(510のみ小型甕)である。一般的な形態としては、口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。そして、端部上方に拡張し先端は尖りぎみにおさめるものが多いが、510のように先端が丸くおさめるものもある。ほとんどの甕は内外面ハケ調整である。口径24cm前後のものが多い。

518~520, 522は墨色土器A類擁である。「ハ」の字形で断面U字形状の高台が貼り付けられているものが多い。内面はすべてミガキ調整である。519は口縁部や内彎ぎみに立ち上がり、端部近くで僅かに外反し先端丸くおさめる。内面はミガキ調整である。

521は黒色土器A類鉢である。口縁部や内彎ぎみに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反し端部は丸くおさめる。外面はタタキ、内面はミガキ調整である。

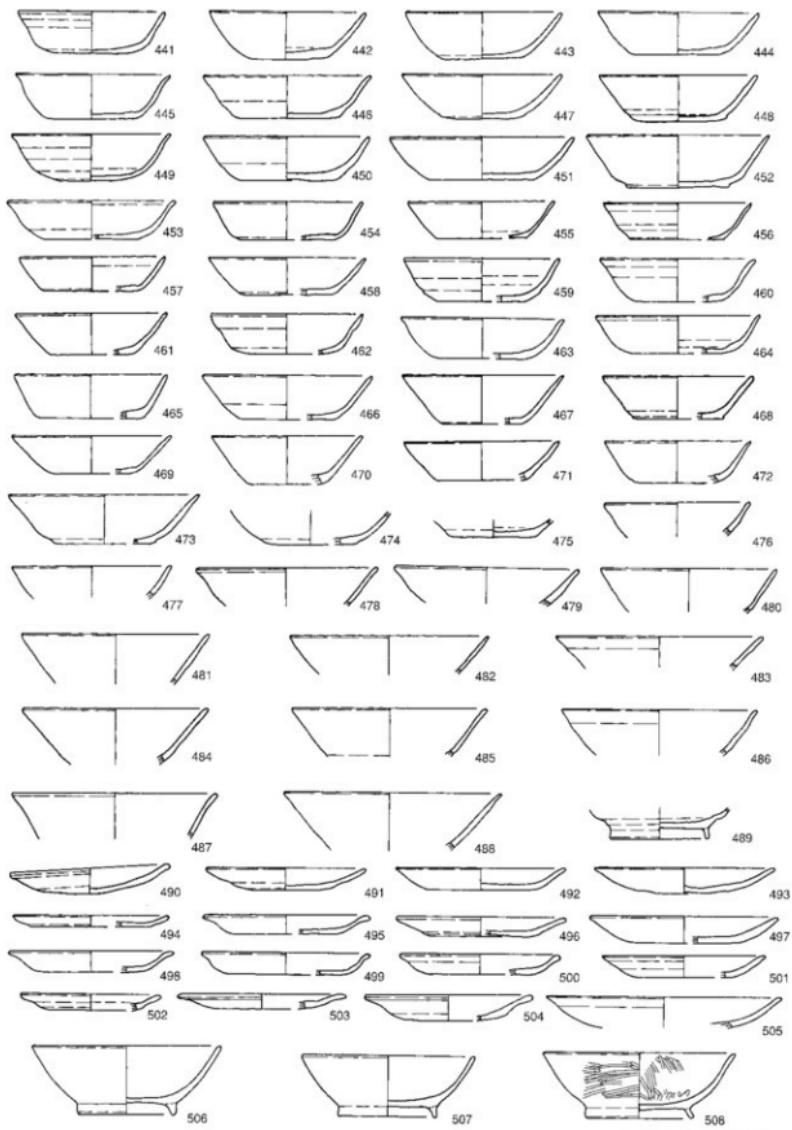
523は須恵器高台付杯である。高台部径9.8cmで体部外上方に内彎ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形で断面方形状の高台が貼り付けられている。

525, 526は須恵器盃である。525は口径9.8cmで口縁部内向して立ち上がり、端部付近で外反し先端は丸くおさめる。断面方形状の橋状の把手がつく。526は体部外上方に内彎して立ち上がる。外面にハケ条の模様がある。

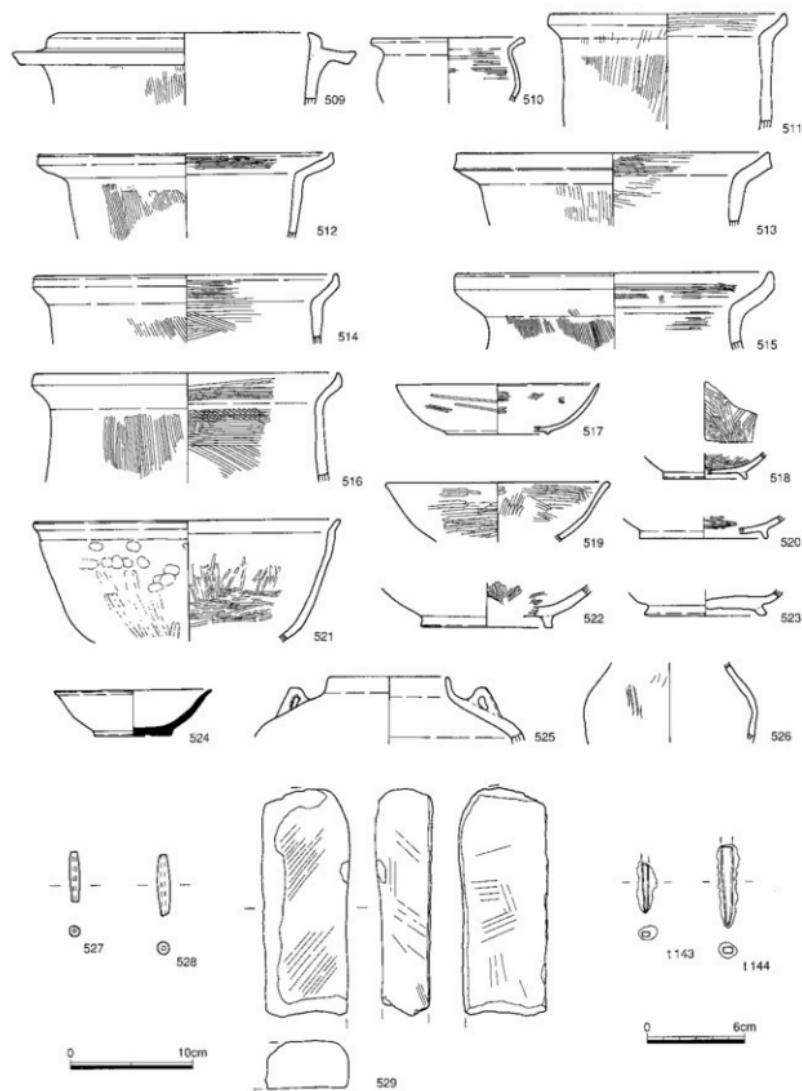
527と528は土師質の紡錘状土錘で、穿孔径は527が2mm, 528が3.5mmである。

529は石器で、砥石である。残存長18.6cmで石材は砂岩である。

t143, t144は鉄器である。器種はいずれも釘であり、t144は残存長49.0mmである。



第167図 SK3030出土遺物実測図(1)



第168図 SK3030出土遺物実測図(2)

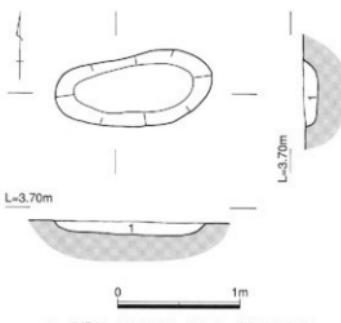
### 土坑 SK3032 (第169図)

01年度3区の北部、J-8グリッドで検出された遺構である。長軸130cm、短軸60cm、深さ12cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器であるが、実測可能なものは2点のみであった。

#### 出土遺物 (第170図)

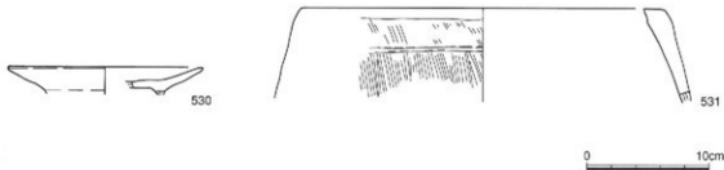
530は土師器高台付皿である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。削り出し高台がつく。

531は土師器甕である。端部は方形状で平坦であり、外面はハケ調整である。



1. 黄褐色 2.5Y5/3 シルト 炭化物を含む

第169図 SK3032実測図



第170図 SK3032出土遺物実測図

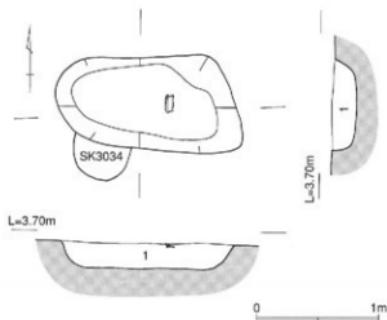
### 土坑 SK3033 (第171図)

01年度3区の北部、J-8グリッドで検出された遺構である。長軸160cm、短軸76cm、深さ20cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、鉄器である。

#### 出土遺物 (第173図)

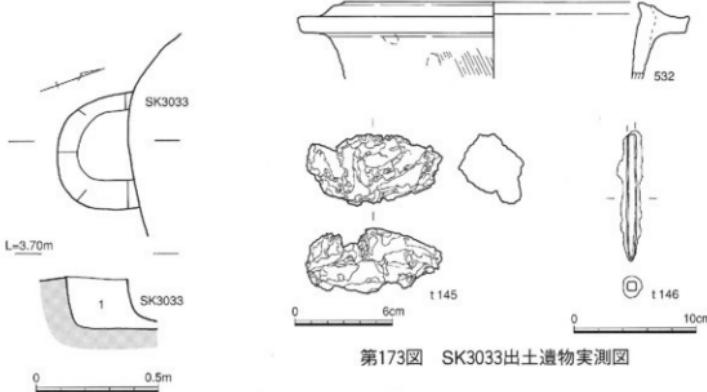
532は土師器羽釜である。口縁部直線的に立ち上がり、端部は凹面状である。口縁真横に断面方形でやや上方に拡張した鉗がめぐる。外面はハケ調整である。

t146は鉄器である。器種は釘である。t145は鉄滓・スラッグで、幅84.0mmある。



1. 黄褐色 2.5Y5/4 シルト 炭化物・土師器を含む

第171図 SK3033実測図



第173図 SK3033出土遺物実測図

1. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト  
炭化物を含む

第172図 SK3034実測図



第174図 SK3034出土遺物実測図

#### 土坑 SK3034（第172図）

01年度3区の北部、I-8, J-8グリッドで検出された遺構である。長軸46cm、短軸30cm、深さ22cmを測り、平面形が半梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト1層のみである。

出土遺物は土師器、土製品であるが、実測可能なものは土師質の土錘1点のみであった。

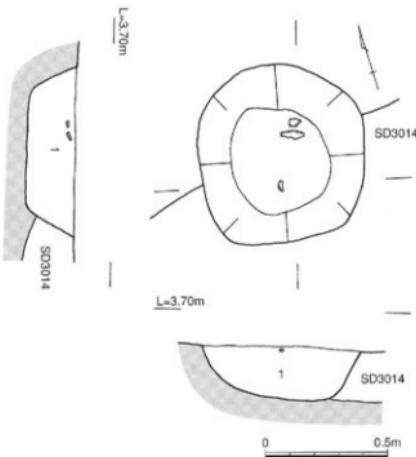
#### 出土遺物（第174図）

533は土師質の鉢鍊状土錘で、穿孔径は3.5mmである。

#### 土坑 SK3035（第175図）

01年度3区の北部、I-8, J-8グリッドで検出された遺構である。長軸72cm、短軸68cm、深さ20cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含む褐色シルト1層のみである。

出土遺物は土師器、鐵器であるが、実測可能なものは多くなかった。



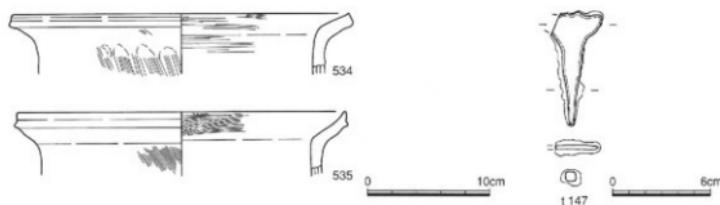
1. 褐色 10YR 4 / 4 シルト  
5~10mm大の炭化物を含む、土器片・鐵製品含む

第175図 SK3035実測図

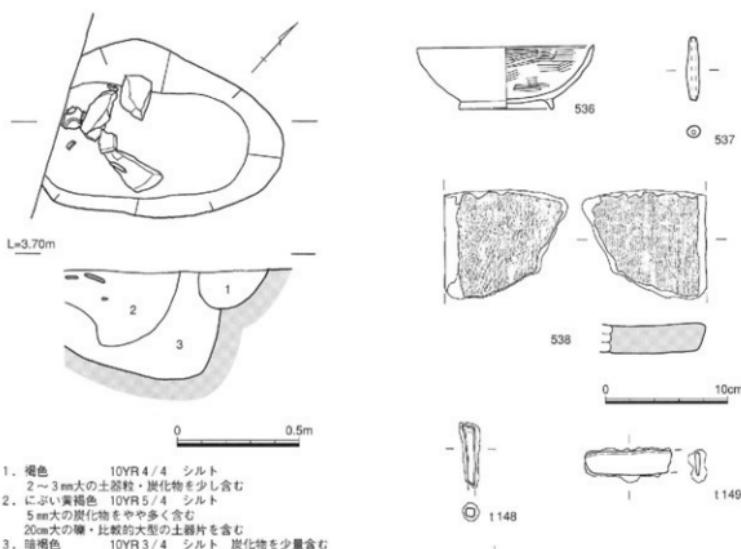
出土遺物（第176図）

534, 535は土器壺である。形態はともに口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部や上方に拡張し先端は凹面状である。535は端部に凹線が巡る。どちらも内外面ハケ調整である。

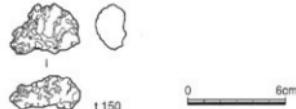
t 147は鉄器である。器種は鉄鎌で、長さ69.0mm, 基幅6.5mmである。



第176図 SK3035出土遺物実測図



第177図 SK3037実測図



第178図 SK3037出土遺物実測図

### 土坑 SK3037 (第177図)

01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸100cm、短軸70cm、深さ44cmを測り、平面形が橢円形状を呈する。埋土は炭化物を含む褐色シルト、炭化物、礫を含むびい黄褐色シルト、炭化物を含む暗褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦、鉄器、土製品等である。

### 出土遺物 (第178図)

536は黒色土器A類碗である。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。断面U字形状の高台が貼り付けられている。内面はミガキ調整である。

537は土師質の紡錘状土錐で、穿孔径は3.0mmである。

538は須恵質平瓦である。凸面は純席文タタキで、凹面は布目痕である。

### 土坑 SK3038 (第179図)

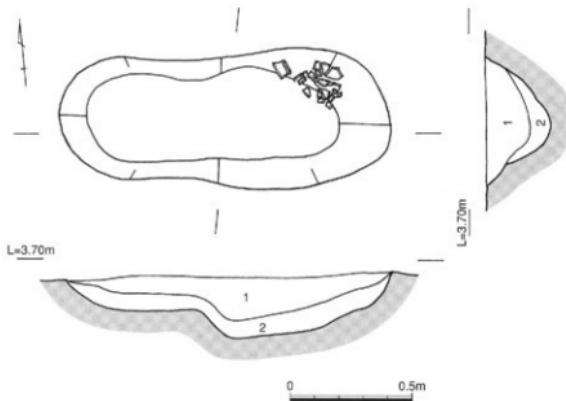
01年度3区の北西部、I-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸136cm、短軸56cm、深さ26cmを測り、平面形が橢円形状を呈する。埋土は炭化物を多く含む暗灰黄色シルト、炭化物を含むオリーブ褐色シルトの2層である。出土遺物は土師器、須恵器である。

### 出土遺物 (第180図)

539は土師器高台付杯である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめる。断面逆台形状の高台が貼り付けられている。

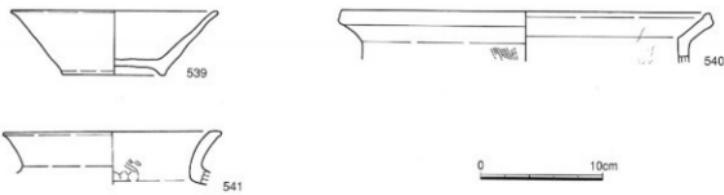
540は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部やや上方に拡張し先端は丸くおさめる。内外面ハケ調整である。

541は須恵器壺である。口縁部外反して立ち上がり、端部は平坦におさめる。



1. 暗灰黄色 2.5Y 4/2 シルト 2~3cm大の遺物を多く含む、炭化物を多く含む  
2. オリーブ褐色 2.5Y 4/3 シルト 炭化物を微量に含む

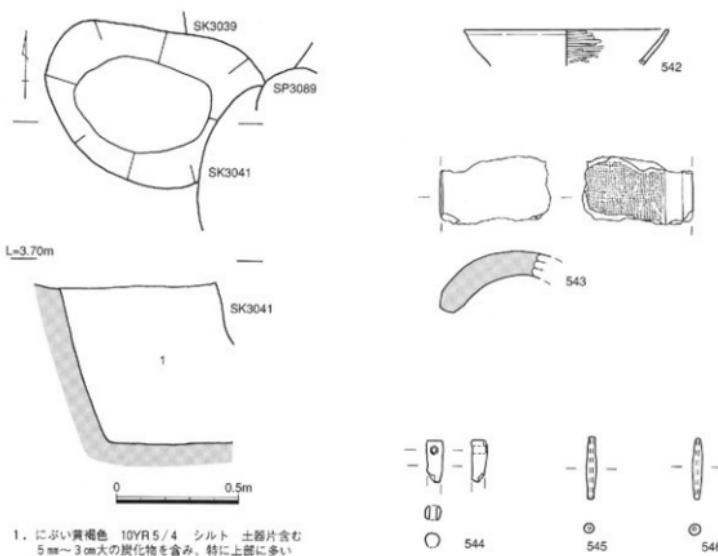
第179図 SK3038実測図



第180図 SK3038出土遺物実測図

土坑 SK3040 (第181図)

01年度3区の北部、I-8グリッドで検出された遺構である。SK3041によって切られ、長軸72cm、短軸62cm、深さ64cmを測り、平面形が半梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、黒色土器、瓦等である。



1. にぶい黄褐色 10YR 5/4 シルト 土器片含む  
5mm~3cm大の炭化物を含み、特に上部に多い

第181図 SK3040実測図

第182図 SK3040出土遺物実測図

#### 出土遺物（第182図）

542は黒色土器A類椀である。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部付近で僅かに外反し、先端丸くおさめる。内面はミガキ調整である。

543は須恵質丸瓦である。凹面は布目痕である。544は土師質の有孔土錘で、穿孔径は5.0mmである。

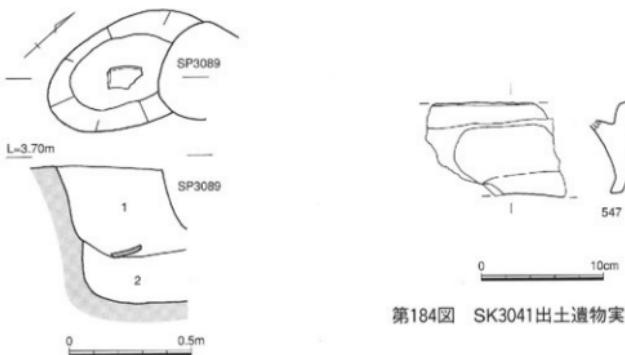
545, 546は土師質の紡錘状土錘で、穿孔径は2.0mmおよび2.5mmである。

#### 土坑SK3041（第183図）

01年度3区の北部、I-8グリッドで検出された遺構である。SP3089が上に重なり、長軸70cm、短軸40cm、深さ56cmを測り、平面形が半梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルトの2層である。出土遺物は土師器であるが、実測可能なものは土師器竈1点のみであった。

#### 出土遺物（第184図）

547は土師器竈である。口縁端部は平坦であり、焚き口の上に鰐が巡る。



第184図 SK3041出土遺物実測図

第183図 SK3041実測図

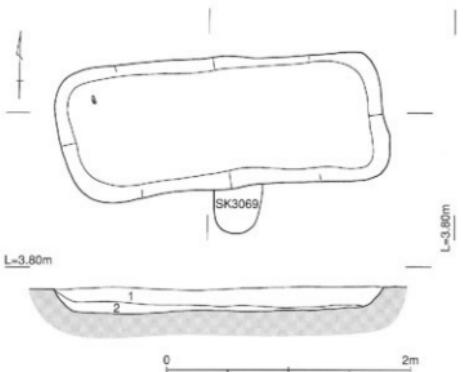
#### 土坑SK3042（第185図）

01年度3区の北西部、H-7・8, I-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸270cm、短軸114cm、深さ22cmを測り、平面形が長方形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調としている。

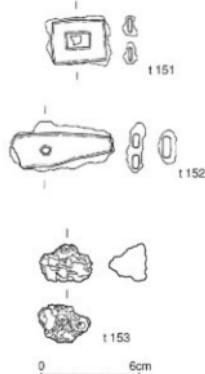
出土遺物は鉄器が数点であった。

#### 出土遺物（第186図）

t 152～t 153は鉄器である。器種は、t 151は帯の飾りで、長さは26.0mmである。t 152は刀または剣であると思われる。長さは61.5mmである。t 153が鉄滓・スラッグである。



第185図 SK3042 実測図



第186図 SK3042  
出土遺物実測図

#### 土坑 SK3044（第187図）

01年度3区の中央西部、H-7グリッドで検出された遺構である。長軸180cm、短軸120cm、深さ20cmを測り、西端は調査区外にかかる。平面形は半長方形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを中心とした2層である。出土遺物は鉄器であるが、実測可能なものは1点のみである。

#### 出土遺物（第188図）

t154は鉄器である。器種は釘であり、長さは39.0mmである。



第187図 SK3044 実測図

第188図 SK3044出土遺物実測図

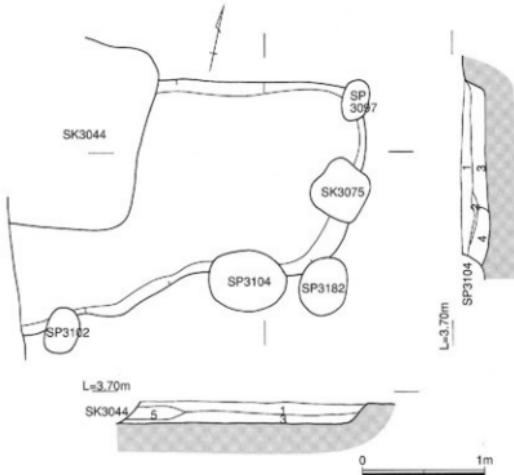
### 土坑 SK3045 (第189図)

01年度3区の中央西部、H-7・8グリッドで検出された遺構である。SK3044、SK3075、SP3097等が上に重なる。長軸270cm、短軸160cm、深さ24cmを測り、平面形が不整形を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト、炭化物、焼土を含むにぶい黄褐色シルト、炭化物・焼土を含む暗灰黄色シルト等の5層である。出土遺物は土師器、須恵器であるが、実測可能なものは多くなかった。

#### 出土遺物 (第190図)

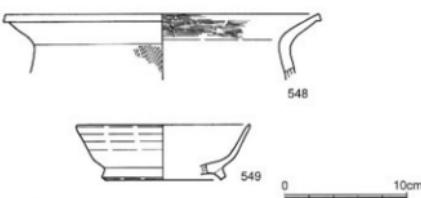
548は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部下方に拡張し先端はやや尖りぎみである。内外面ハケ調整である。

549は須恵器高台付杯である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。「ハ」の字形で断面方形状の高台が貼り付けられている。



- |           |            |                           |
|-----------|------------|---------------------------|
| 1. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 3 | シルト 炭化物・土器片を含む            |
| 2. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 4 | シルト 5mm~1cmの炭化物を含み、大部分が焼土 |
| 3. にぶい黄褐色 | 10YH 5 / 3 | シルト 炭化物・焼土を含む             |
| 4. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 4 | シルト 2cm大の炭化物・土器片を含む       |
| 5. 暗灰黄色   | 2.5Y 5 / 2 | シルト 焼土・炭化物を全面に含む          |

第189図 SK3045実測図



第190図 SK3045出土遺物実測図

### 土坑 SK3047 (第191図)

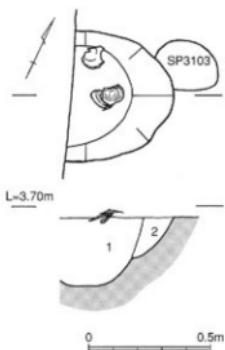
01年度3区の中央西部、G-7グリッドで検出された遺構である。長軸52cm、短軸34cm、深さ28cmを測り、平面形が半椭円形状を呈する。埋土は炭化物を含むオリーブ褐色シルト、にぶい黄褐色シルトの2層である。

出土遺物は土師器であるが、実測可能なものは2点のみであった。

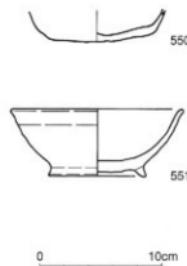
#### 出土遺物 (第192図)

550は土師器杯である。体部外上方に直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切である。

551は土師器碗である。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめる。断面U字形状の高台が貼り付けられている。



第191図 SK3047実測図  
1. オリーブ褐色 2.5Y 4/3 シルト  
遺物・炭化物を含む  
2. にぶい黄褐色 10YR 5/4 シルト

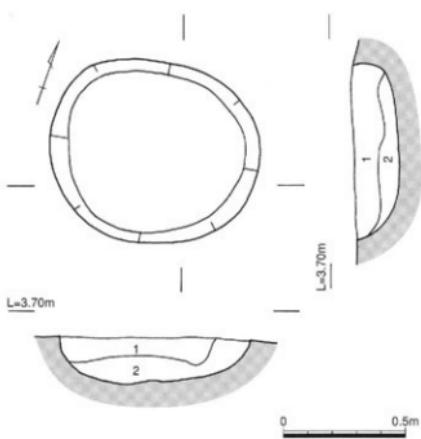


第192図 SK3047出土遺物実測図

第191図 SK3047実測図

#### 土坑 SK3050（第193図）

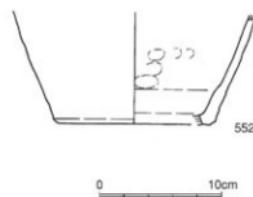
01年度3区の中央西部、G-8グリッドで検出された遺構である。長軸84cm、短軸74cm、深さ20cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調とした2層である。出土遺物は須恵器であるが、実測可能なものは1点のみであった。



第193図 SK3050実測図  
1. にぶい黄褐色 10YR 5/3 シルト 土器片・炭化物を含む  
2. にぶい黄褐色 10YR 4/3 シルト

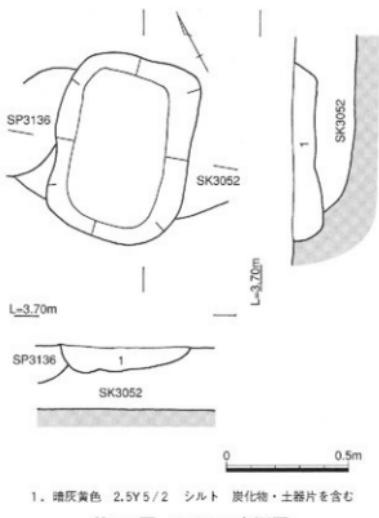
#### 出土遺物（第194図）

552は須恵器壺である。底径12.4cmで、形態は体部外上方に直線的に立ち上がる。内外面回転台ナデ調整で、内面にユビオサエがみられる。



第194図 SK3050出土遺物実測図

第193図 SK3050実測図



第195図 SK3051実測図

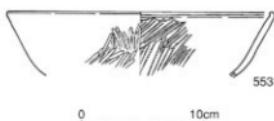
### 土坑 SK3051 (第195図)

01年度3区の中央部、H-8・9グリッドで検出された遺構である。長軸76cm、短軸54cm、深さ12cmを測り、平面形が隅丸長方形形状を呈する。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルトの1層のみである。

出土遺物は土師器等であるが、実測可能なものは土師器碗1点のみであった。

### 出土遺物 (第196図)

553は土師器碗である。口縁部外上方に直線的に立ち上がる。口縁内部に凹線があり、内外面ミガキ調整で、内面は斜行暗文の2段である。7世紀後半頃のものであると考えられる。



第196図 SK3051出土遺物実測図

### 土坑 SK3052 (第197図)

01年度3区の中央部、H-8・9グリッドで検出された遺構である。比較的大型の土坑で、長軸114cm、短軸84cm、深さ20cmを測り、平面形が橢円形形状を呈する。SD3017によって切られ、SK3043、SP3184等が上に重なっている。埋土は暗灰黄色シルト、炭化物を含むにぶい黄褐色シルト等の3層である。出土遺物は土師器、黒色土器、鉄器等である。多くの遺物が出土した。

### 出土遺物 (第198図)

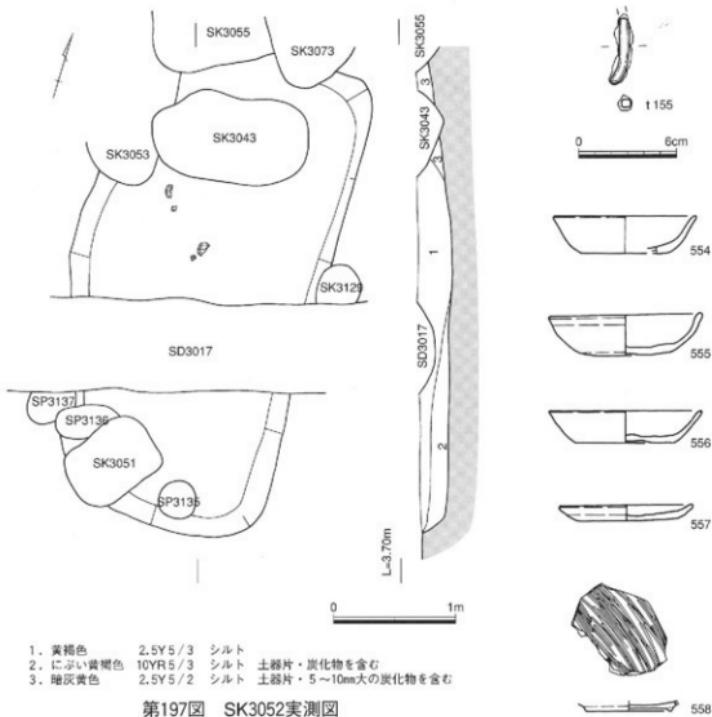
554～556は土師器杯である。555は口縁部内寄りに立ち上がり端部丸くおさめる。554と556は縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。いずれも口径は12cm前後であり、底部は回転ヘラ切である。

557は土師器皿である。口径10.8cm、底径8cmで口縁部ゆるやかに立ち上がり端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

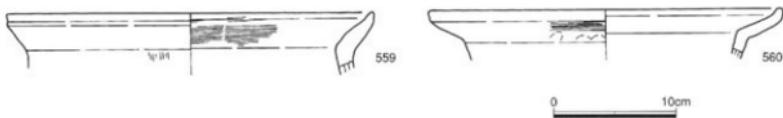
559、560は土師器壺である。形態はいずれも口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部上方に拡張し先端は丸くおさめる。560は外面にスヌが付着し、559の内面、560の外面はハケ調整である。

558は黒色土器A類高台付皿である。高台部径は7.8cmで体部外上方に立ち上がり、断面逆三角形状の高台が貼り付けられている。内面は幅1.2mmのミガキ調整である。

t 155は鉄器である。器種は釘であり、長さは39.5mmである。



第197図 SK3052実測図



第198図 SK3052出土遺物実測図

#### 土坑 SK3055 (第199図)

01年度3区の中央部、H-8・9, I-8・9グリッドで検出された造構である。長軸140cm, 短軸130cm, 深さ32cmを測り、平面形が隅丸長方形状を呈する。SK3073が上に重なる。埋土は炭化物を含むにぶい黄色シルトを中心とした2層である。

出土遺物は土師器、黒色土器、須恵器、土製品、鉄器等であり、多くの遺物が出土した。実測できたものも多かった。

### 出土遺物（第200図）

561～571は土師器杯である。形態としては、564, 566, 571のように口縁部は直線的に立ち上がるも、563, 568のように口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめるもの、562のように口縁部やや内彎きみに立ち上がり、端部丸くおさめるもの、561, 565, 567, 569, 570, 572のように口縁部やや内彎きみに立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端は丸くおさめるもの等がある。いずれも口径は11～13cm、器高3～4cm、底径6～8cm前後であり、似かよった大きさである。570は内外面に赤色塗彩が施されている。

572は土師器高台付杯である。

口縁部内彎きみに立ち上がり端部

付近で外反し先端丸くおさめる。断面U字形状の高台が貼り付けられている。底部に製作台板目痕が残る。内面に赤色塗彩が施されている。

573～575は土師器皿である。573は口縁部やや内彎きみに立ち上がり、端部丸くおさめる。574, 575は口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部はいずれも回転ヘラ切である。

576は土師器甕である。口縁部、端部手前で「く」の字状に外反する。端部先端は上方に拡張し丸くおさめる。内面はハケ調整である。

577は土師器羽釜である。口径24.4cmで口縁部直線的に立ち上がり、端部は平坦でやや内面に拡張する。鈍は欠損で、痕跡が残る。外側はハケ調整である。

578は黒色土器A類皿である。底径7.8cmで体部外方に直線的に立ち上がる。内面はミガキ調整で底部は回転ヘラ切である。579は黒色土器A類高台付皿である。内面はミガキ調整である。

581, 584は黒色土器A類椀である。いずれも、体部やや内彎きみに立ち上がり、断面逆三角形状の高台が貼り付けられている。内面はミガキ調整である。582, 583は黒色土器A類壺である。583は口縁部内向して立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は丸くおさめる。内面はミガキ調整である。582は口縁部内彎きみに立ち上がり、端部付近で大きく外反し先端丸くおさめる。

580は黒色土器B類椀である。口縁部やや内彎きみに立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端は尖りぎみにおさめる。内面はミガキ調整である。

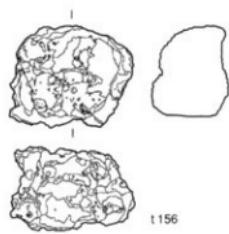
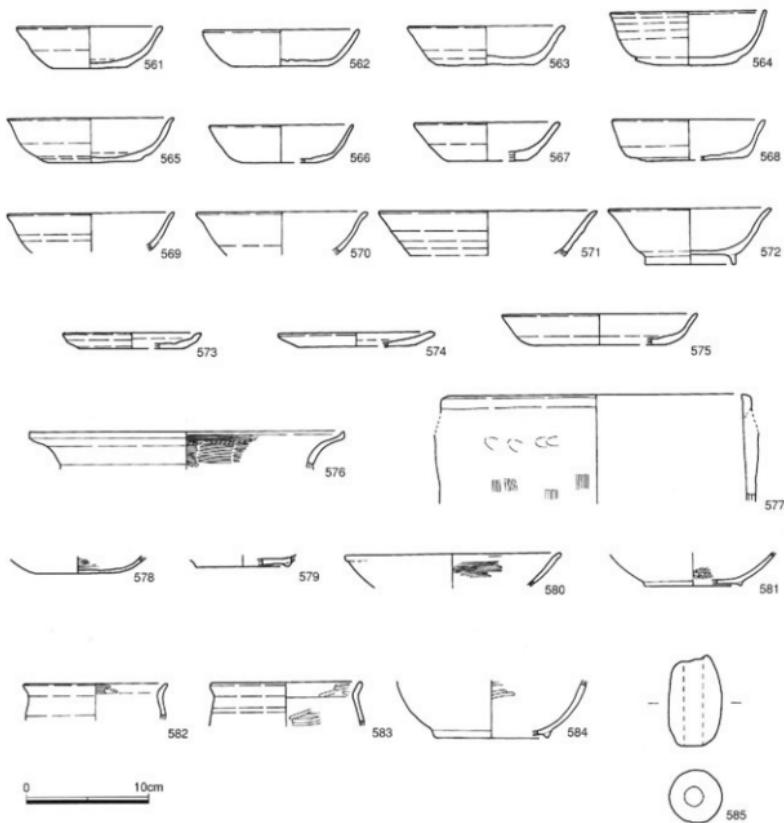
585は土師質の完形紡錘状土錐で、穿孔径は16.0mmである。

t 156, t157はいずれも鉄滓・スラッグである。t 156は幅72.0mmである。

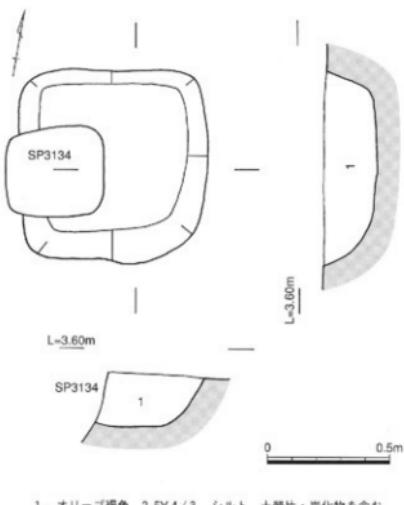


第199図 SK3055実測図

1. にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト 土器片・炭化物を含む
2. にぶい黄色 10YR 5/3 シルト



第200図 SK3055出土遺物実測図



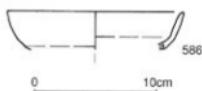
第201図 SK3059実測図

#### 土坑 SK3059 (第201図)

01年度3区の中央南部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸80cm、短軸80cm、深さ22cmを測り、平面形が隅丸長方形状を呈する。埋土は炭化物を含むオリーブ褐色シルト1層のみである。出土遺物は須恵器等であるが、実測可能なものは須恵器杯1点であった。

#### 出土遺物 (第202図)

586は須恵器杯である。口径14.4cm、器高3.2cm、底径11.2cmで口縁部内凹ぎみに立ち上がり、端部付近で僅かに外反し先端丸くおさめる。



第202図 SK3059出土遺物実測図

#### 土坑 SK3060 (第203図)

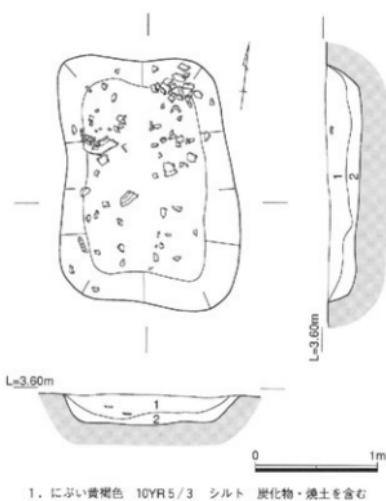
01年度3区の中央南部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸200cm、短軸148cm、深さ30cmを測り、平面形が隅丸長方形状を呈する。埋土は炭化物、焼土を含むにぶい黄褐色シルト、オリーブ褐色シルトの2層である。

出土遺物は土師器、須恵器、土製品等である。多くの遺物が出土した。実測できたものも多かった。

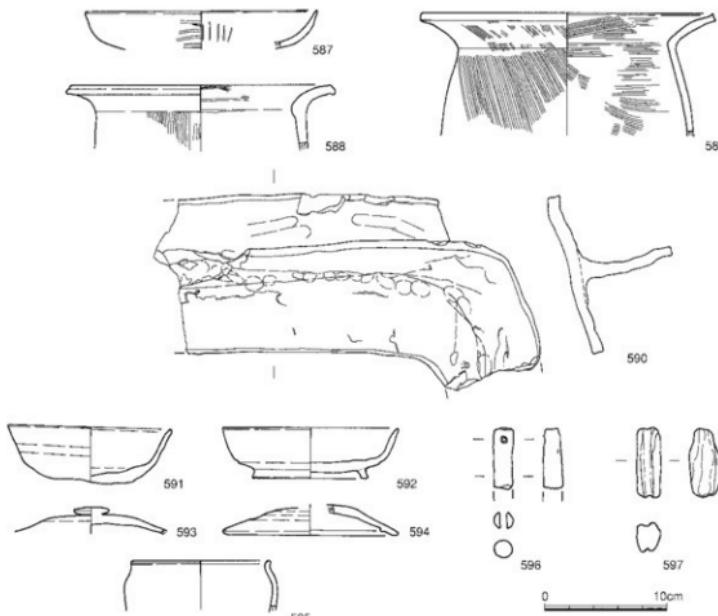
#### 出土遺物 (第204図)

587は土師器杯である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部やや尖りぎみにおさめる。内外面ミガキ調整で、内面は幅1mmの斜行暗文である。

588、589は土師器壺である。588は口縁部、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は四面状で先端丸くおさめる。589は口縁部、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は四面状で先端やや尖りぎみにおさめる。内外面ハケ調整である。



第203図 SK3060実測図



第204図 SK3060出土遺物実測図

590は土師器底である。口縁部は方形状で、焚き口の上に断面方形状の鋸が巡る。

591は須恵器杯である。内外面回転台ナデ調整で口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。

592は須恵器高台付杯である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部やや尖りぎみにおさめる。「ハ」の字形で断面U字形状の高台が貼り付けられている。593、594は須恵器杯蓋である。593は天井部平坦で口縁部下方に若干屈曲し、断面偏平な逆台形状のつまみがつく。594は天井部平坦で口縁部下方に若干屈曲し、端部丸くおさめる。

595は須恵器鉢である。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部で外反し先端丸くおさめる。

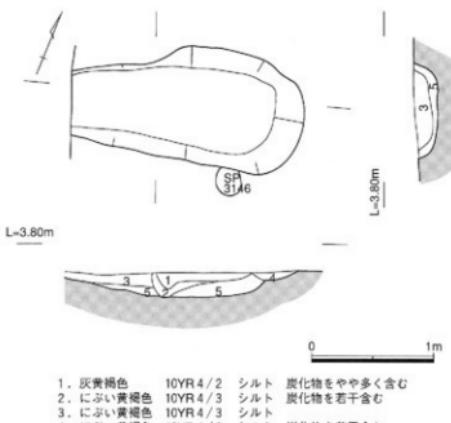
596は土師質の有孔土錘で、穿孔径は5.5mmである。597は土師質の有溝土錘で、長さは5.6cmである。

#### 土坑 SK3062（第205図）

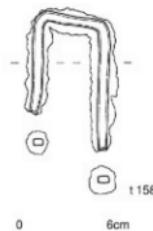
01年度3区の南西部、F-8、G-8グリッドで検出された遺構である。長軸190cm、短軸96cm、深さ20cmを測り、平面形が半楕円形状を呈する。西端は調査区外に延びる。埋土は炭化物を含む灰黄褐色シルト、炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は鉄器である。

#### 出土遺物（第206図）

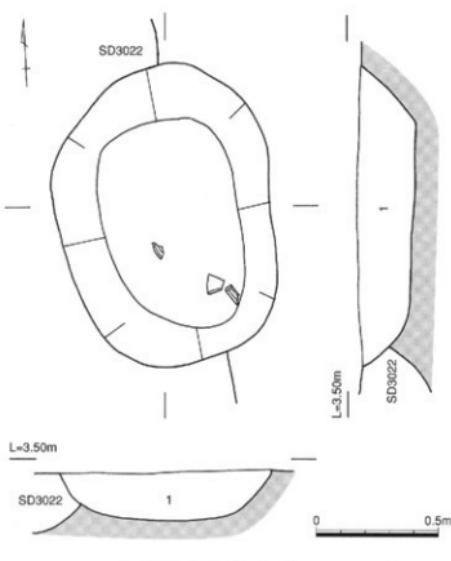
t 158は鉄器である。器種は鏡前で、長さは85.0mmである。



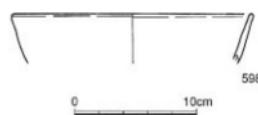
第205図 SK3062実測図



第206図 SK3062出土遺物実測図



第207図 SK3063実測図



第208図 SK3063出土遺物実測図

#### 土坑 SK3063 (第207図)

01年度3区の南東部、G-10グリッドで検出された遺構である。長軸120cm、短軸90cm、深さ24cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。

出土遺物は土師器であるが、実測可能なものは土師器杯のみであった。

#### 出土遺物 (第208図)

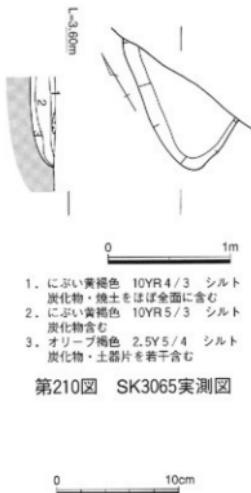
598は土師器杯である。口径19.8cmで口縁部や内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。

### 土坑 SK3065 (第210図)

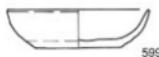
01年度3区の南東部、F-10・11グリッドで検出された遺構である。東端は調査区外にかかり、長軸120cm、短軸60cm、深さ20cmを測り、平面形が半楕円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト、炭化物を含むオリーブ褐色シルトである。出土遺物は須恵器である。

### 出土遺物 (第209図)

599は須恵器杯である。口径10.5cmで口縁部や内彎ぎみに立ち上がり、端部尖りぎみに丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。600は須恵器高台付杯である。高台部径8.4cmで体部内彎ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形で断面方形状の高台が貼り付けられている。底部は回転ヘラ切である。



第210図 SK3065実測図



599



600

第209図 SK3065出土遺物実測図

### 土坑 SK3066 (第211図)

01年度3区の南東部、F-10グリッドで検出された遺構である。SD3020を切り、南端は調査区外にかかる。長軸150cm、短軸120cm、深さ22cmを測り、平面形が半長方形状を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器である。

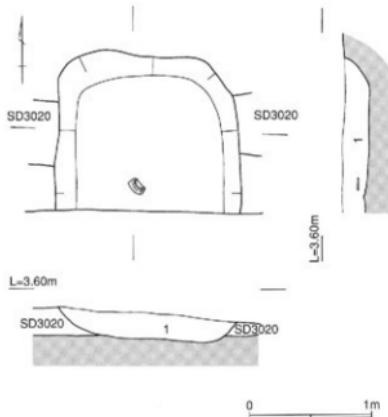
### 出土遺物 (第212図)

602は土師器皿である。口径15.5cmで口縁部や内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内面はハケ調整である。605は口縁部や外反ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面ハケ調整である。上向きの把手がつく。

604、605は土師器壺である。604は口縁部や外反ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内面はハケ調整である。605は口縁部や外反ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面ハケ調整である。上向きの把手がつく。

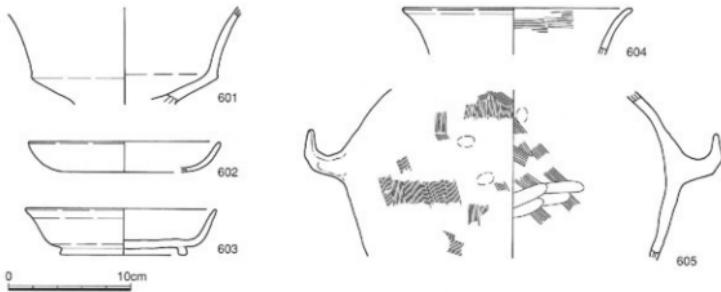
601は土師器高杯である。体部外上方に直線的に立ち上がり、「く」の字形に内向する。時代的にはやや古いものであろうと思われる。

603は須恵器高台付杯である。口径15.5cmで口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。「ハ」の字形で断面方形状の高台が貼り付けられている。

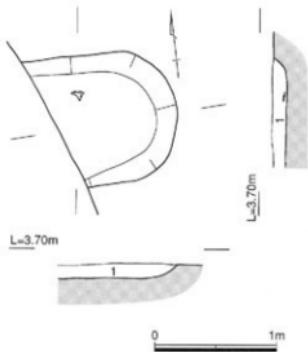


1. にぶい黄褐色 10YR 5/4 シルト

第211図 SK3066実測図

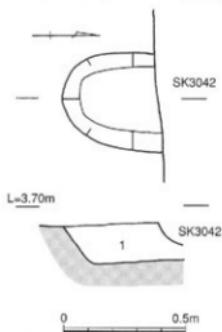


第212図 SK3066出土遺物実測図



1. 灰黄褐色 10YR 4 / 2 シルト 土器片を含む

第213図 SK3067実測図



第214図 SK3067出土遺物実測図

土坑 SK3069 (第215図)

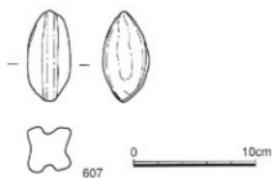
01年度3区の中央西部、H-7グリッドで検出された遺構である。長軸38cm、短軸30cm、深さ16cmを測り、平面形が不整形状を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトの1層のみである。

出土遺物は土製品であった。

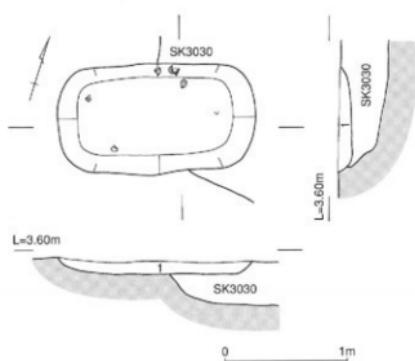
出土遺物 (第216図)

607は土師質の有溝土錘である。長さは7.4cm、幅3.7cm、厚さ3.5cmである。

第215図 SK3069実測図



第216図 SK3069出土遺物実測図



1. にびい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト 炭化物・土器片を含む

第217図 SK3072実測図

#### 土坑 SK3072 (第217図)

01年度3区の北東部、J-8・9グリッドで検出された遺構である。長軸160cm、短軸90cm、深さ10cmを測り、平面形が橢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むにびい黄褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、鉄器である。

#### 出土遺物 (第218図)

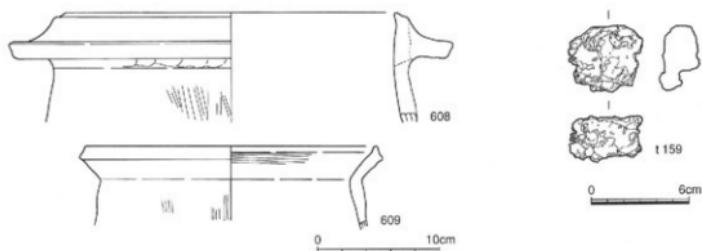
608は土師器羽釜である。口縁部直線的に立ち上がり、端部は凹面状で上方に拡張する。口縁直下に断面方形形状の鉄がめぐる。外面ハケ調整である。

609は土師器甕である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部上方に拡張し先端は丸くおさめる。内外面ハケ調整である。

t 159は鉄滓・スラッグである。幅は45.0mmである。

#### 土坑 SK3080 (第219図)

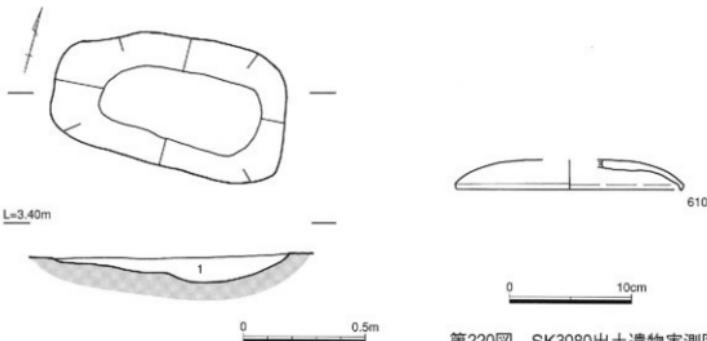
01年度4区の北部、D-10グリッドで検出された遺構である。長軸100cm、短軸50cm、深さ12cmを測り、平面形が橢円形状を呈する。埋土は炭化物を含むオリーブ褐色シルトの1層のみである。出土遺物は須恵器であるが、実測可能なものは1点のみであった。



第218図 SK3072出土遺物実測図

#### 出土遺物 (第220図)

610は須恵器杯蓋である。口径18.4cmで、天井部平坦で口縁部下方に若干屈曲し、端部下方に拡張し丸くおさめる。



第220図 SK3080出土遺物実測図

1. オリーブ褐色 2.5Y4/3 シルト 炭化物・焼土や多く含む

第219図 SK3080実測図

#### 柱穴

##### 柱穴 SP3027 (第221図)

01年度2区の中央西部、X-2グリッドで検出された遺構である。長軸40cm、短軸30cm、深さ18cmを測り、平面形が半椭円形を呈する。埋土は灰オリーブシルト1層のみで、土師器、須恵器が出土している。

##### 出土遺物 (第222図)

611は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部上方に拡張し先端は丸くおさめる。内外面ハケ調整である。内面にスヌが付着する。

##### 柱穴 SP3062 (第223図)

01年度2区の中央西部、X-2グリッドで検出された遺構である。長軸25cm、短軸15cm、深さ10cmを測り、平面形が半円形を呈する。埋土は灰オリーブシルト1層のみで、土師器が出土している。

##### 出土遺物 (第224図)

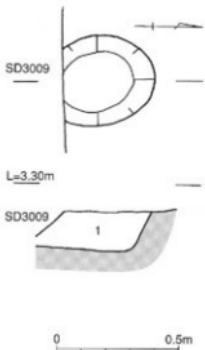
612は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部上方に拡張し先端は丸くおさめる。内外面ハケ調整である。

##### 柱穴 SP3069 (第225図)

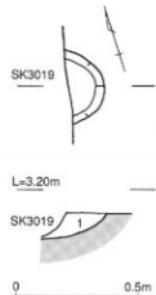
01年度2区の北東部、AB-3グリッドで検出された遺構である。長軸45cm、短軸25cm、深さ34cmを測り、平面形が半円形を呈する。埋土は炭化物を含む灰オリーブシルト1層のみで、土師器が出土している。

##### 出土遺物 (第226図)

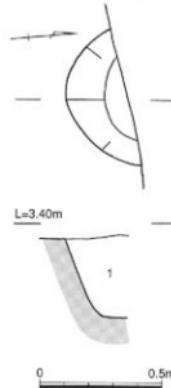
613は土師器羽釜である。口縁部直線的に立ち上がり、端部は平坦な凹面状である。口縁直下に断面方形状の鶴がめぐる。外面はハケ調整である。



第221図 SP3027実測図  
1. 灰オリーブ色 5Y5/2 シルト

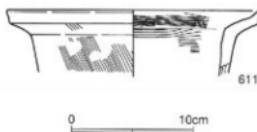


第223図 SP3062実測図  
1. 灰オリーブ色 5Y5/2 シルト

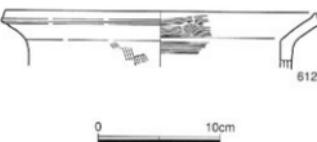
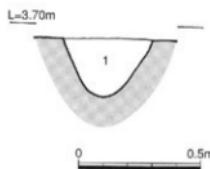
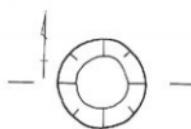


1. 灰オリーブ色 5Y5/2 シルト  
炭化物・土器片を含む

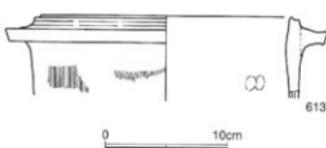
第225図 SP3069実測図



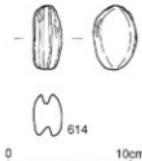
第222図 SP3027出土遺物実測図



第224図 SP3062出土遺物実測図



第226図 SP3069出土遺物実測図



第228図 SP3073出土遺物実測図

#### 柱穴 SP3073 (第227図)

01年度3区の北西部、I-7, J-7グリッドで検出された遺構である。長軸36cm、短軸36cm、深さ24cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト1層のみで、土製品が出土している。

#### 出土遺物 (第228図)

614は完形の土師質有薄土鍤で、長さ5.2cm、幅2.3cmである。

#### 柱穴 SP3080 (第229図)

01年度3区の北端部、J-8グリッドで検出された遺構である。長軸46cm、短軸46cm、深さ68cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含む灰黄褐色シルト、炭化物を含む黄褐色シルトの2層であり、土師器が出土している。

#### 出土遺物 (第230図)

615は土師器杯である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切後ナデである。内外面に赤色塗彩が施されている。

616は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部上方に拡張し先端は丸くおさめる。内外面ハケ調整である。

#### 柱穴 SP3087 (第231図)

01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸66cm、短軸56cm、深さ40cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調とし、土師器、黒色土器、土製品等が出土している。

#### 出土遺物 (第232図)

617は土師器杯である。口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部付近で外反し先端は丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

618は黒色土器B類碗である。体部やや内彎ぎみに立ち上がる。高台が貼り付けられているが形は不明である。内面はミガキ調整である。

619~621は土師質の紡錘状土鍤で、長さは4.6~4.9cm、穿孔径はいずれも3.0mmである。

#### 柱穴 SP3088 (第233図)

01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸32cm、短軸24cm、深さ38cmを測り、平面形が稍円形を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物 (第234図)

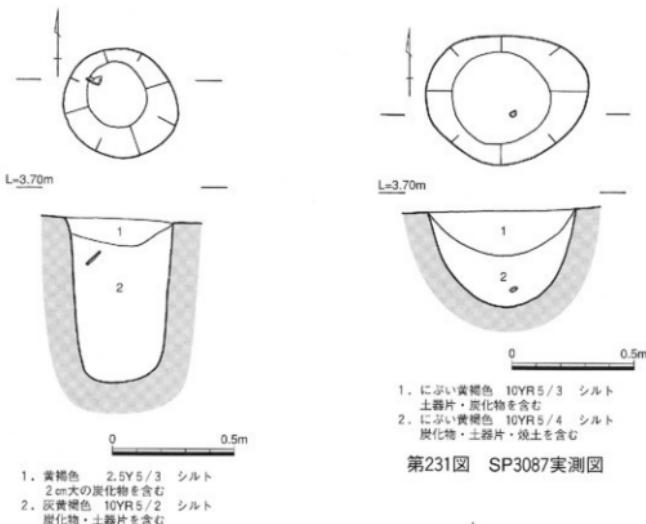
622は土師器杯である。体部外方に直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切である。

#### 柱穴 SP3092 (第235図)

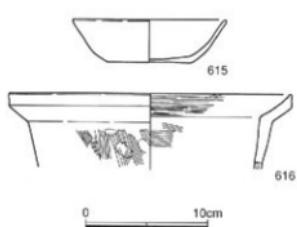
01年度3区の北西部、H-7グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸48cm、深さ50cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含む灰黄褐色シルト1層のみで、土師器、鉄器が出土している。

#### 出土遺物 (第236図)

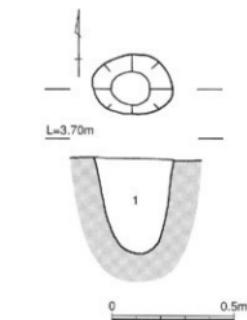
t 160は鉄滓・スラッグである。幅は54.0mmである。



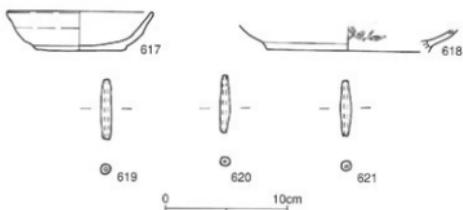
第231図 SP3087実測図



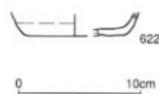
第230図 SP3080出土遺物実測図



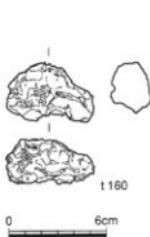
第233図 SP3088実測図



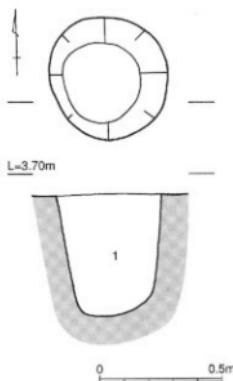
第232図 SP3087出土遺物実測図



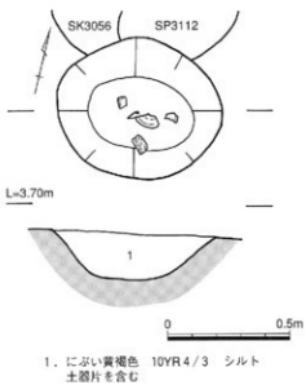
第234図 SP3088出土遺物実測図



第236図 SP3092出土遺物実測図



第235図 SP3092実測図



第237図 SP3113実測図



第238図 SP3113出土遺物実測図

#### 柱穴 SP3113 (第237図)

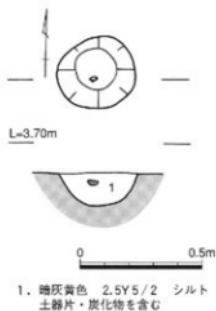
01年度3区の北部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸70cm、短軸58cm、深さ18cmを測り、平面形が梢円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物 (第238図)

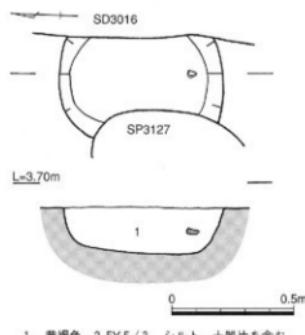
623は土師器皿である。口径12.0cmで、口縁部やや外反ぎみにゆるやかに立ち上がり端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

#### 柱穴 SP3117 (第239図)

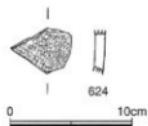
01年度3区の北部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸34cm、短軸30cm、深さ14cmを測り、平面形が梢円形を呈する。埋土は炭化物を含む粘性のない暗灰黄色シルト1層のみで、土師器、須恵器が出土している。



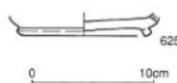
第239図 SP3117実測図



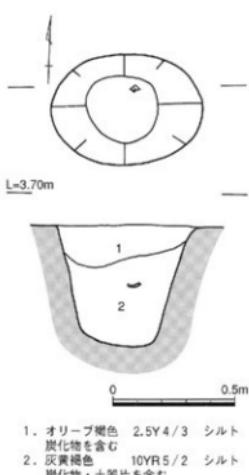
第241図 SP3128実測図



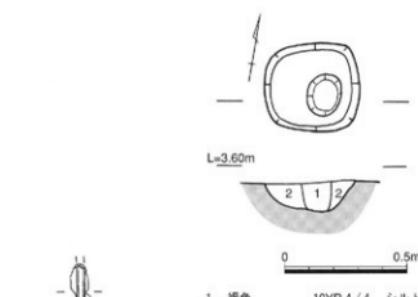
第240図 SP3117出土遺物実測図



第242図 SP3128出土遺物実測図



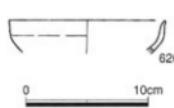
第243図 SP3130実測図



第245図 SP3133実測図



第244図 SP3130  
出土遺物実測図



第246図 SP3133出土遺物実測図

#### 出土遺物（第240図）

624は須恵器甕である。体部直線的に立ち上がる。外面に格子状タタキがある。

#### 柱穴 SP3128（第241図）

01年度3区の北部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸68cm、短軸30cm、深さ20cmを測り、平面形が半梢円形を呈する。一部をSD3016、SP3127に切られる。埋土は黄褐色シルト1層のみで、須恵器が出土している。

#### 出土遺物（第242図）

625は須恵器高台付杯である。体部外上方に立ち上がる。「ハ」の字形で断面方形状の高台が貼り付けられている。

#### 柱穴 SP3130（第243図）

01年度3区の北部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸60cm、短軸46cm、深さ50cmを測り、平面形が梢円形を呈する。埋土は炭化物を含むオリーブ褐色シルト、炭化物を含む灰黄褐色シルトの2層で、鉄器が出土している。

#### 出土遺物（第244図）

t161は鉄器である。器種は鉄鎌で、茎長は33.0mmである。

#### 柱穴 SP3133（第245図）

01年度3区の中央部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸38cm、短軸34cm、深さ12cmを測り、平面形が隅丸長方形を呈する。埋土は褐色シルト、炭化物を含むぶい黄褐色シルトの2層で、須恵器が出土している。

#### 出土遺物（第246図）

626は須恵器杯蓋である。口径は15.6cmで天井部平坦で口縁部下方に若干屈曲し、端部やや尖りぎみをおさめる。

#### 柱穴 SP3142（第247図）

01年度3区の中央西部、G-8グリッドで検出された遺構である。長軸26cm、短軸26cm、深さ10cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を多く含む灰黄褐色シルトの1層で、土師器が出土している。

#### 出土遺物（第248図）

627は土師器皿である。口縁部やや外反ぎみにゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

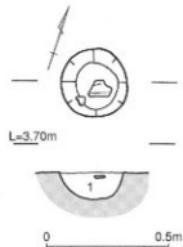
628は土師器甕である。口径37.0cmで口縁部やや内彎し、端部は方形状である。内外面ハケ調整である。内外面に黒斑がある。

#### 柱穴 SP3155（第249図）

01年度3区の中央部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸40cm、短軸32cm、深さ44cmを測り、平面形が梢円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルトを基調とし、須恵器が出土している。

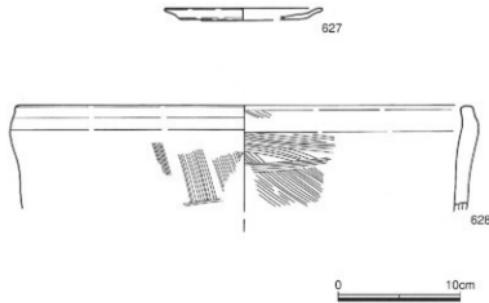
#### 出土遺物（第250図）

629は須恵器杯である。口径は20.4cmで、口縁部内彎ぎみに立ち上がり端部丸くおさめる。内外面回転台ナデである。

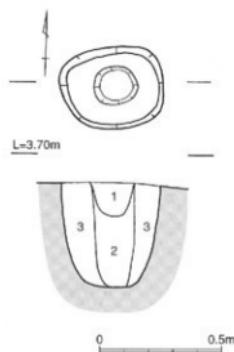


1. 灰黄褐色 10YR 4 / 2 シルト  
炭化物・土器片を含む

第247図 SP3142実測図

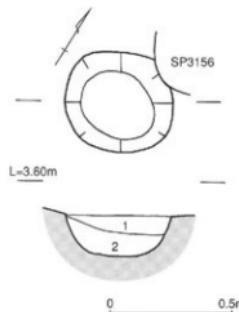


第248図 SP3142出土遺物実測図



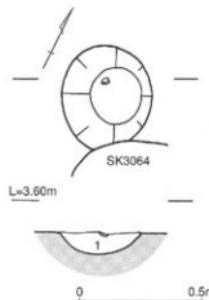
1. にぶい黄褐色 10YR 6 / 4 シルト  
2. にぶい黄褐色 10YR 4 / 3 シルト  
3. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト  
炭化物を含む

第249図 SP3155実測図



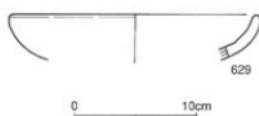
1. にぶい黄褐色 10YR 4 / 3 シルト  
炭土を含む  
2. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト  
炭化物を含む

第251図 SP3157実測図

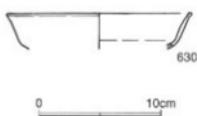


1. にぶい黄褐色 10YR 5 / 4 シルト  
土器片を含む

第253図 SP3165実測図



第250図 SP3155  
出土遺物実測図



第252図 SP3157  
出土遺物実測図



第254図 SP3165  
出土遺物実測図

#### 柱穴 SP3157 (第251図)

01年度3区の中央部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸46cm、深さ18cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調とし、須恵器が出土している。

#### 出土遺物 (第252図)

630は須恵器杯蓋である。天井部平坦で口縁部下方に若干屈曲し、端部先端で外反し丸くおさめる。

#### 柱穴 SP3165 (第253図)

01年度3区の南東部、F-10グリッドで検出された遺構である。長軸40cm、短軸36cm、深さ9cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物 (第254図)

631は土師器杯である。口縁部は直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。端部内面に凹線がある。内面はミガキ調整（斜行暗文）である。時代的にやや古いものと思われる。

#### 柱穴 SP3168 (第255図)

01年度3区の北東部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸34cm、短軸32cm、深さ16cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物 (第256図)

632は土師器羽釜である。口径23.0cmで口縁部直線的に立ち上がり、端部は平坦でやや上方に拡張する。口縁直下に断面方形状で上方に拡張した鉤がめぐる。外面はハケ調整である。

#### 柱穴 SP3169 (第257図)

01年度3区の北東部、G-9、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸40cm、短軸40cm、深さ14cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト1層のみで、須恵器、陶器が出土している。

#### 出土遺物 (第258図)

638は灰釉陶器碗である。高台部径8.4cmで、体部外上方に内彎ぎみに立ち上がる。断面方形状の削り出しの高台がつく。

#### 柱穴 SP3170 (第259図)

01年度3区の中央部、H-8グリッドで検出された遺構である。長軸30cm、短軸30cm、深さ10cmを測り、平面形が円形を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器、土製品、鉄器が出土している。

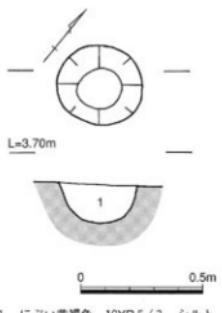
#### 出土遺物 (第260図)

633は土師器杯である。口縁部直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反し先端丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。634は土師器皿である。口縁部は直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

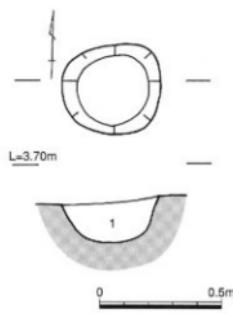
635は土師器釜である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は丸くおさめる。

636は綠釉陶器高台付皿である。高台部径6.6cmで、体部外上方にやや内彎ぎみに立ち上がる。削り出しの高台がつく。あさい黄緑の釉がかかる。

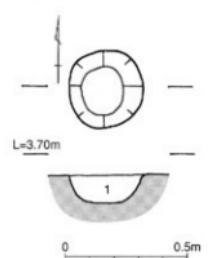
637は土師質の紡錘状土錘で、穿孔径は2.0mmである。t162は鉄器である。器種は板状鉄製品で、長さ72.5mm、幅63.0mmを測る。



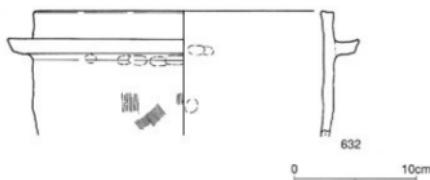
第255図 SP3168実測図



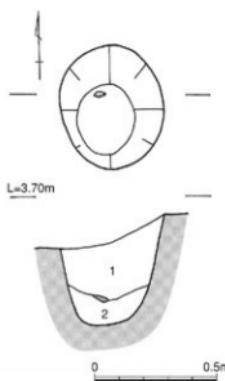
第257図 SP3169実測図



第259図 SP3170実測図

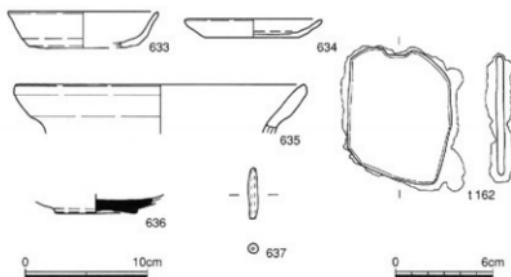


第256図 SP3168出土遺物実測図

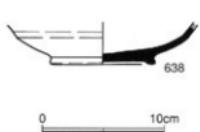


1. にぶい黄褐色 10YR 4 / 3 シルト  
底部に炭土・炭化物・土器片を含む  
2. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト

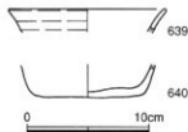
第261図 SP3177実測図



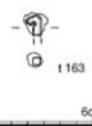
第260図 SP3170出土遺物実測図

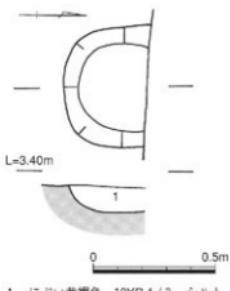


第258図 SP3169出土遺物実測図



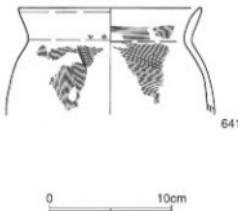
第262図 SP3177出土遺物実測図



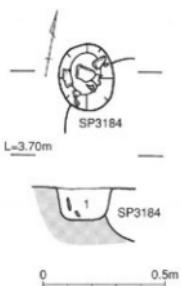


1. にぶい黄褐色 10YR 4 / 3 シルト  
少量の炭化物・焼土を含む

第263図 SP3180実測図

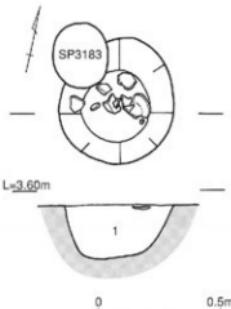


第264図 SP3180出土遺物実測図



1. 脱灰黄色 2.5Y 5 / 2 シルト  
炭化物を含む

第265図 SP3184実測図



1. 暗灰黄色 2.5Y 5 / 2 シルト  
炭化物を含む

第267図 SP3184実測図



第266図 SP3183出土遺物実測図



第268図 SP3184出土遺物実測図

#### 柱穴 SP3177 (第261図)

01年度3区の中央西部、G-7グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸40cm、深さ32cmを測り、平面形が楕円形を呈する。埋土は焼土、炭化物を含むにぶい黄褐色シルトを基調とし、土師器、鉄器が出土している。

#### 出土遺物（第262図）

639, 640は土師器杯である。639は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。640は体部外上方に直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切である。

#### 柱穴 SP3180（第263図）

01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸20cm、深さ36cmを測り、平面形が半梢円形を呈する。SD3015に切られ、埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物（第264図）

641は土師器壺である。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は丸くおさめる。内外面はハケ調整である。

#### 柱穴 SP3183（第265図）

01年度3区の中央部、H-8グリッドで検出された遺構である。長軸26cm、短軸22cm、深さ13cmを測り、平面形が梢円形を呈する。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物（第266図）

642は土師器皿である。口縁部僅かに外反してゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部はナデである。

#### 柱穴 SP3184（第267図）

01年度3区の中央部、H-8グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸46cm、深さ22cmを測り、平面形が梢円形を呈する。SP3183が上に重なる。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルト1層のみで、土師器が出土している。

#### 出土遺物（第268図）

643は土師器壺である。口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は凹面状で先端やや尖りぎみにおさめる。内外面ハケ調整である。

### 自然河川

#### 自然河川 SR3001（第269図）

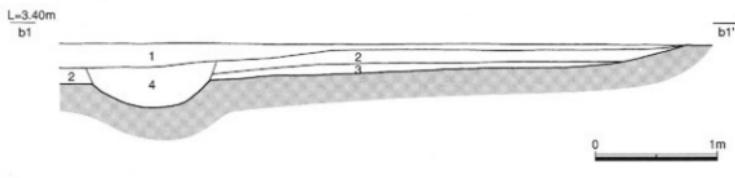
01年度3区の中央部、B-10・11, C-10・11グリッドで検出された遺構である。長軸5.0m、短軸4.84m、深さ2.7mを測り、断面形がレンズ状を呈する。埋土は褐色シルト、褐色砂質土、にぶい黄褐色シルトを基調とし、土師器、黒色土器、須恵器、瓦器、土製品等が出土している。

#### 出土遺物（第270図）

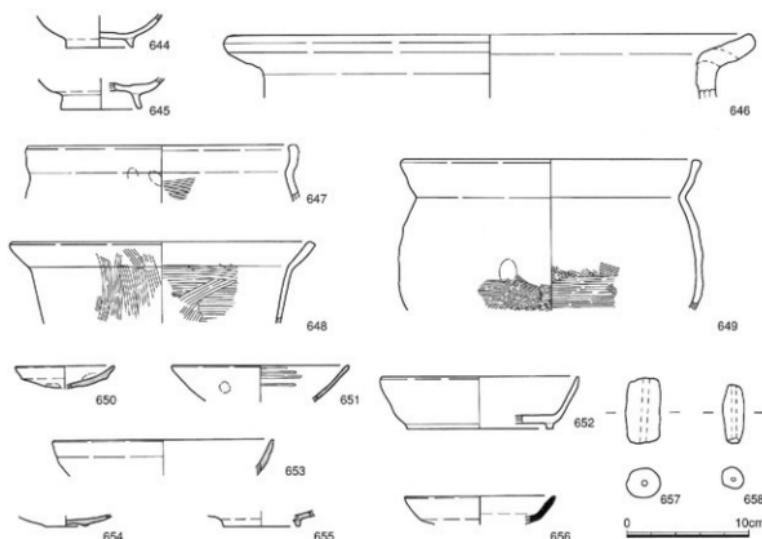
644, 645は土師器椀である。644は体部内彎ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形で断面U字形状の高台が貼り付けられている。645は体部内彎ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形で断面U字形状の高台が貼り付けられている。

646, 649は土師器鍋である。646は口径42.0cmで口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は丸くおさめる。649は口径24.4cmで口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は先端やや厚く、丸くおさめる。内外面ハケ調整である。

647, 648は土師器土鍋である。648は口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。端部は先端やや厚く、平坦におさめる。内外面ハケ調整である。647は口縁部内彎ぎみに立ち上が



第269図 SR3001土層断面実測図



第270図 SR3001出土遺物実測図

り、端部手前で「く」の字状に外反する。そこからさらに内弯し端部は丸くおさめる。外面はハケ調整である。

652は須恵器高台付杯である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。断面方形状の高台が貼り付けられている。

650は瓦器小皿である。口縁部僅かに外反してゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切後ナデである。651, 653~655は瓦器椀である。651, 653は口縁部やや内弯ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。651の内面はミガキ調整である。654は体部やや内弯ぎやみに立ち上がる。断面逆三角状の高台が貼り付けられている。655は体部やや内弯ぎやみに立ち上がる。断面U字形状の高台が貼り付けられている。

656は青磁皿である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。グレイミのオリーブグリーンの釉がかかる。

657, 658は土師質の紡錘状土錘で、657が長さ5.3cm、穿孔径5.0mmであり、658が長さ4.8cm、穿孔径3.0mmである。

### 土壤墓

#### 土壤墓 ST3001 (第271図)

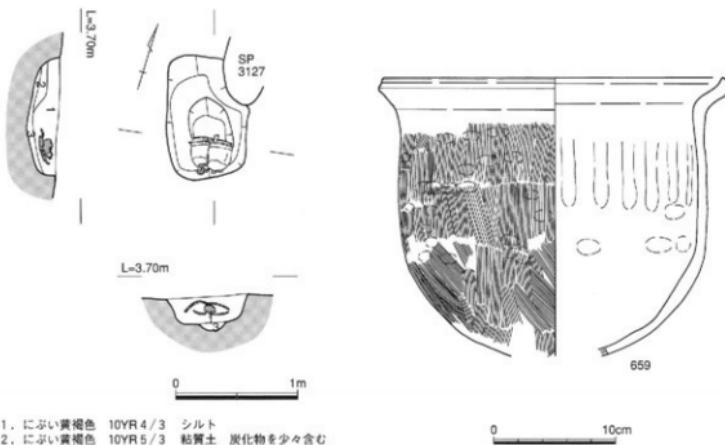
01年度3区の中央部、H-9 グリッドで検出された素掘りの土坑墓である。石開い等の外部表象は見られなかった。規模は長軸100cm、短軸54cm、深さ28cmを測り、平面形が半椭円形を呈する。

遺構内埋土は黄褐色シルトを基調として3層に分けられ、そのうち第2層のみが、炭化物、遺物を含んでいる。この層からは土師器の甕、人骨と思われる骨片等が出土している。その他の層からは遺物は出土していない。

#### 出土遺物 (第272図)

659は土師器甕である。口径は27.6cm、器高22.9cm、体径24.4cmを測り、口縁部内脇ぎみに立ち上がり端部手前で「く」の字状に外反する。

口縁端部は上方に拡張する。外面はハケ（11条／1.2cm）調整であり、ススが付着している。内面はユビオサエ、ユビナデである。



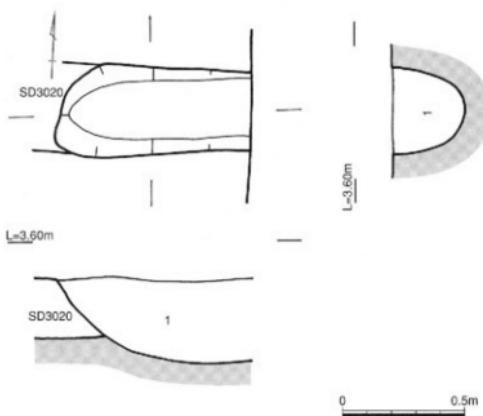
第271図 ST3001実測図

第272図 ST3001出土遺物実測図

### 土壙墓 ST3002（第273図）

01年度3区の南東端部、F-10・11グリッドで検出された素掘りの土坑墓である。石囲い等の外部表象は見られなかった。規模は長軸90cm、短軸56cm、深さ16cmを測り、平面形が半長方形を呈する。東端は調査区外に延びる。

遺構内埋土は、砂まじりのにぶい黄褐色シルト1層のみである。人骨と思われる骨片がわずかに出土しているが、その他の実測可能な遺物はとくに出土していない。



1. にぶい黄褐色 10YR 4/3 シルト

第273図 ST3002実測図

## (2) 鎌倉時代の遺構と遺物

### 掘立柱建物

#### 掘立柱建物 SA2001 (第274図)

01年度3区の北端部に位置し、3基の柱穴から構成される。規模は桁行1間×梁間1間(2.3m×2.2m)、床面積5.06m<sup>2</sup>を測り、棟方向はN-30°-Wである。柱穴は隅丸方形、円形を呈し、直径28~36cm、深さ8~28cmを測り、埋土は暗灰黄色シルト、炭化物を含む黄褐色シルト、黄灰色シルトを基調としている。柱穴からは土師器、須恵器等が出土しているが、実測可能なものはなかった。

#### 掘立柱建物 SA2002 (第275図)

01年度3区の北東部に位置し、6基の柱穴から構成され、規模は桁行2間×梁間2間(3.0m×1.65m)以上、床面積4.95m<sup>2</sup>以上を測り、棟方向はN-30°-Wである。柱穴は隅丸方形、円形を呈し、直径22~40cm、深さ8~26cmを測り、埋土は炭化物を含む黄褐色シルトを基調としている。柱穴内部からは土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器等が出土しているが、実測可能なものはなかった。

#### 掘立柱建物 SA2003 (第276図)

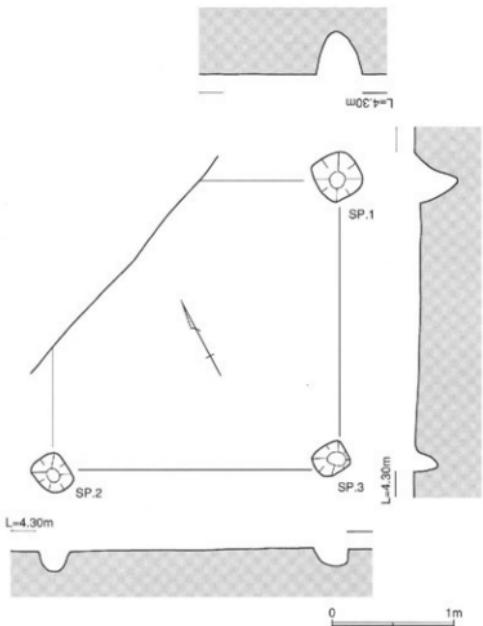
01年度3区の北西部に位置し、4基の柱穴から構成され、規模は桁行2間×梁間1間(3.6m×1.9m)

以上、床面積6.84m<sup>2</sup>以上を測り、棟方向はN-15°-Eである。柱穴は隅丸方形、梢円形、不整形を呈し直径30~54cm、深さ8~16cmを測り、埋土は炭化物を含む黄褐色シルトを基調としている。柱穴内部からは土師器、須恵器、瓦質土器、土製品等が出土しているが、実測可能なものはなかった。

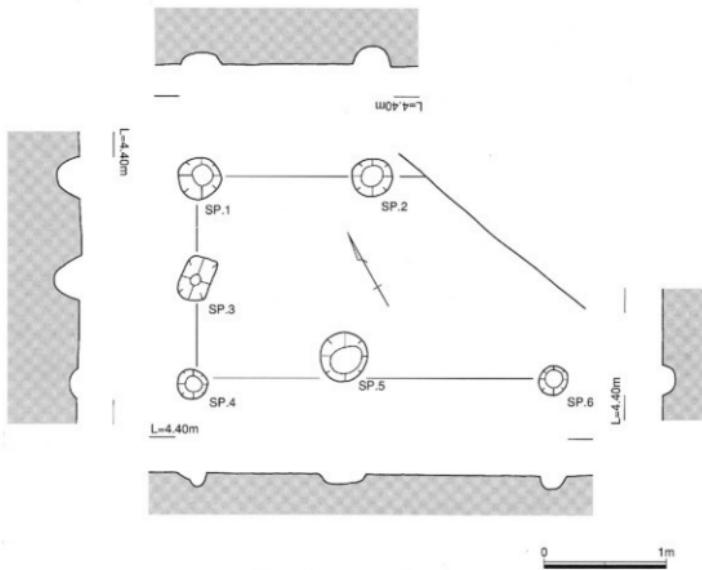
#### 掘立柱建物 SA2004 (第277図)

01年度3区の西部に位置し、3基の柱穴から構成され、規模は桁行2間×梁間1間(1.82m×1.52m)以上、床面積2.77m<sup>2</sup>以上を測り、棟方向はN-25°-Eである。柱穴は隅丸方形、梢円形、不整形を呈し、直径30~54cm、深さ8~16cmを測り、埋土は炭化物を含む黄褐色シルトを基調としている。

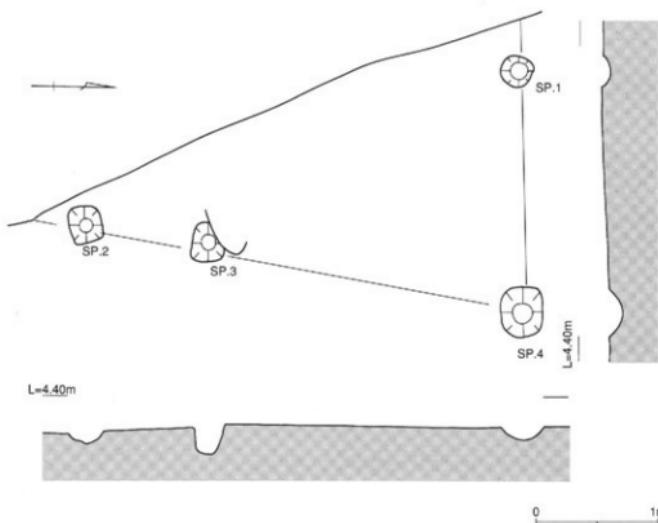
柱穴SP2067より、須恵器碗と瓦器高台付皿が出土している。その他の柱穴内部からも土師器、瓦質土器等が出土しているが、実測可



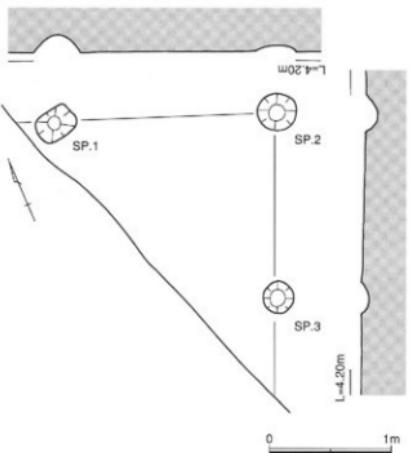
第274図 SA2001実測図



第275図 SA2002実測図



第276図 SA2003実測図



第277図 SA2004実測図

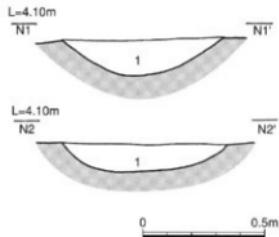


第278図 SA2004柱穴出土遺物実測図

## 溝

### 溝 SD2001 (第279図)

SD2001は01年度2区の第2遺構面南部に位置する、東西方向の溝である。残存長12m、幅50~60cm、深さ14cmを測る。断面はレンズ状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土は黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器であるが、実測可能な遺物はなかった。



1. 黄褐色 2.5Y5/3 シルト

第279図 SD2001土層断面実測図

能なものはなかった。

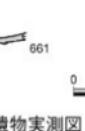
### 出土遺物 (第278図)

660と661はSP2067の出土遺物である。

660は須恵器碗である。口径10.0cmであり、内外面は回転台ナデ調整で、口縁部外上方にはほぼ直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。

661は瓦器高台付皿である。体部外上方にゆるやかに立ち上がる。断面U字形状のごく薄い高台が貼り付けられている。高台部径は4.8cmであり、外面はナデ、内面はナデ後ミガキである。

その他の柱穴内部からは土師器、須恵器、土製品等が出土しているが、実測可能なものはなかった。



1. 黄褐色 2.5Y5/3 シルト

第280図 SD2002土層断面実測図

溝 SD2002 (第280図)

SD2002は01年度2区の第2構面南部に位置する、東西方向の溝である。SD2001の隣で並ぶように走る。残存長11m、幅30~60cm、深さ12cmを測る。断面はレンズ状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土は黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は上部器であるが、実測可能な遺物はなかった。

満 SD2004 (第281回)

01年度3区の第2造構面中央西部に位置する、東西方向の溝である。残存長1.9m、幅30~36cm、深さ10cmを測る。断面はレンズ状であり、西端は調査区外にかかる。埋土は黄褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器である。

### 出土遺物（第282図）

662は須恵器東播系こね鉢である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部上下に拡張し丸くおさめる。内外面は回転台ナデである。

溝 SD2005 (第283図)

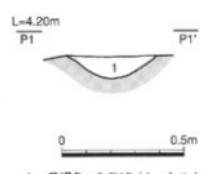
01年度3区の中央部に位置する、南北方向の溝である。残存長2.86m、幅30~44cm、深さ14cmを測る。断面は逆三角形状である。埋土はマンガン粒を含んだオリーブ褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、銅鏡等である。

出土遺物（第281図）

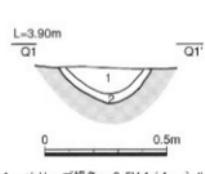
663は土師器椀である。体部外上方に立ち上がる。「ハ」の字形にして断面U字形状の高台が貼り付けられている。†164は鉄達・スラッグである。

表 SD2006 (第285回)

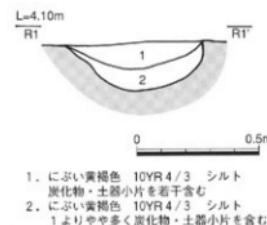
01年度4区の第2遺構面中央部に位置する、東西方向の溝である。残存長5.2m、幅40~110cm、深さ20cmを測る。断面はU字形状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土はオリーブ褐色シルト、炭化物を含むにぶい黄褐色シルトである。審査可能な出土遺物は特になかった。



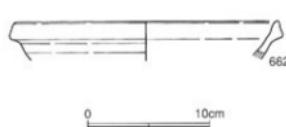
第281図 SD2004  
土層断面実測図



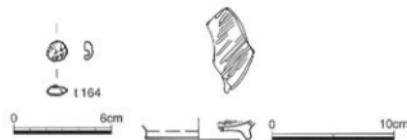
第283図 SD2005  
土壌断面実測図



第285図 SD2006土層断面実測図



第282図 SD2004出土遺物実測図



第284図 SD2005出土遺物実測図

## 土坑

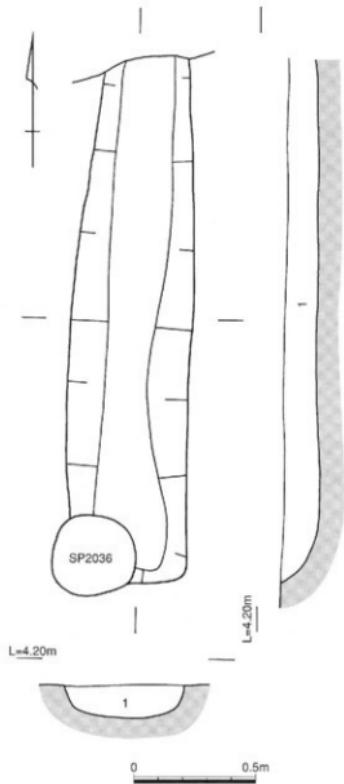
### 土坑 SK2003 (第286図)

01年度3区の北東部、J-9グリッドで検出された遺構である。長軸216cm、短軸50cm、深さ14cmを測り、平面形が長方形状を呈する。埋土は炭化物、マンガン粒を含む黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、黒色土器、瓦質土器等である。

### 出土遺物 (第287図)

664は土師器の羽釜である。内外面は回転台ナデである。口縁部僅かに内向して立ち上がり、端部丸くおさめる。口縁直下に断面U字形状の飼がめぐる。

665は瓦器皿である。底径4.0cmで、体部外上方に僅かに内彎ぎみに立ち上がる。外面はナデ、内面はナデ後ミガキ調整である。



1. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト 炭化物・土器片・マンガン粒を含む

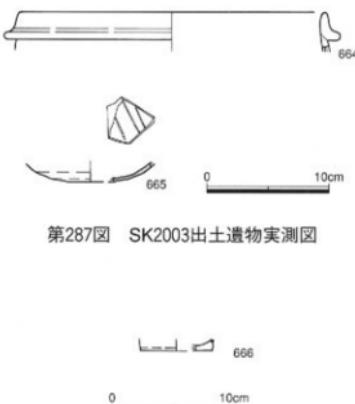
第286図 SK2003実測図

### 土坑 SK2004 (第289図)

01年度3区の北東部、J-9グリッドで検出された遺構である。長軸130cm、短軸80cm、深さ14cmを測り、平面形が長方形状を呈する。埋土はマンガン、炭化物を含む褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器等であるが、実測できるものは1点のみである。

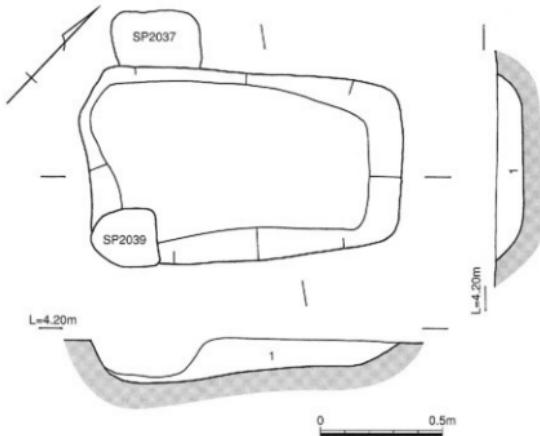
### 出土遺物 (第288図)

666は土師器小皿である。底径は6.0cmで体部は直線的に立ち上がり、内外面ナデ調整である。



第287図 SK2003出土遺物実測図

第288図 SK2004出土遺物実測図



1. 暗色 10YR 4/4 シルト マンガン粒若干含む、遺物・炭化物含む

第289図 SK2004実測図

#### 土坑 SK2007（第290図）

01年度3区の西部、H-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸200cm、短軸84cm、深さ54cmを測り、平面形が長楕円形状を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルト、中央部に暗赤褐色の焼土、オリーブ褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器、金属器等である。

#### 出土遺物（第291図）

667は土師器釜である。口縁部内向して立ち上がり、端部やや尖りぎみに丸くおさめる。口縁直下に断面U字形状の鋲がめぐる。外面にススが付着する。668は土師器擂鉢である。体部外上方に立ち上がり、内外面回転ナデ調整で内面に5条/1.2cmの摺目がある。

669は瓦器皿で、口径9.2cmで口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面回転ナデ調整で内面にユビオサエが見られる。

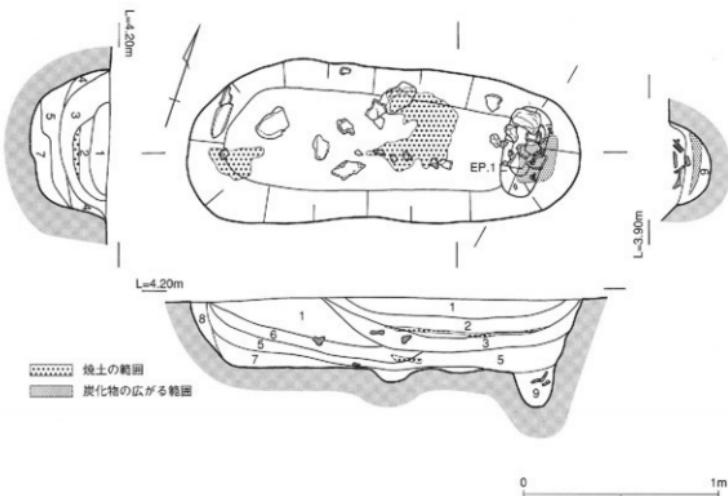
t 165～t 170は鉄器である。器種はt 165、t 168が釘(t 168は長さ31.0mm)、t 166が不明、t 167が楔で、長さは49.0mm、t 169、t 170が鉄滓・スラッグである。

#### 土坑 SK2008（第292図）

01年度3区の西部、H-8グリッドで検出された遺構である。長軸194cm、短軸60cm、深さ28cmを測り、平面形が長方形形状を呈する。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト、にぶい黄色シルト、灰黄色シルトからなる。出土遺物は土師器、瓦質土器、鉄器、土製品等である。

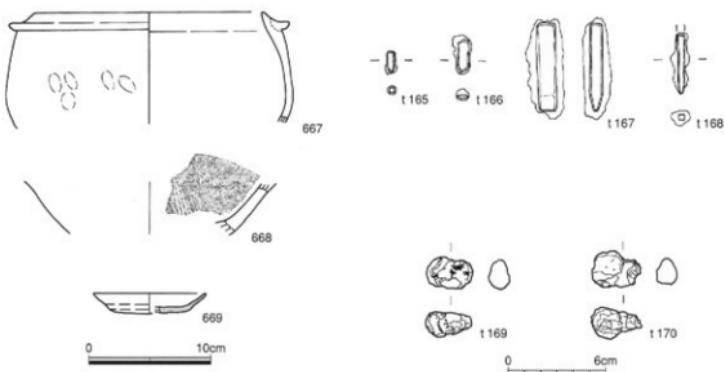
#### 出土遺物（第293図）

670は土師器小皿である。底径は6.0cmで、体部は直線的に立ち上がり、内外面はナデ、底部は回転ヘラ切である。t 171は鉄滓・スラッグである。

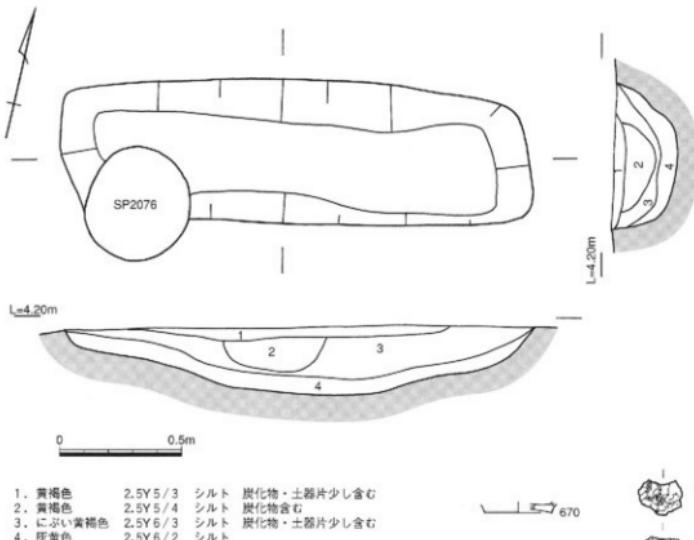


- |           |            |     |   |
|-----------|------------|-----|---|
| 1. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 3 | シルト | 炭化物・土器片・鐵分少し含む  |
| 2. 暗灰黄色   | 2.5Y 5 / 2 | シルト | 炭化物・土器片 底部に多く含む、焼土を帯状に含む                                  |
| 3. 暗灰黄色   | 2.5Y 5 / 2 | シルト | 炭化物全面に含む。土器片少し含む  |
| 4. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 3 | シルト | 土器片含む   |
| 5. 灰黄色    | 2.5Y 5 / 3 | シルト | 炭化物全面、土器片少し含む、中央部に焼土<br>(暗赤褐色 2.5YR 3 / 2 シルト 炭化物含む) が広がる |
| 6. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 3 | シルト |   |
| 7. オリーブ褐色 | 2.5Y 4 / 3 | シルト |   |
| 8. 黄褐色    | 2.5Y 5 / 4 | シルト | 炭化物少し含む   |
| 9. 暗黄褐色   | 2.5Y 5 / 2 | シルト | 炭化物を多量に含む、10cm大の土器片あり                                     |

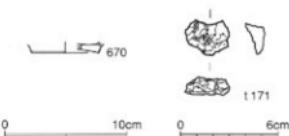
第290図 SK2007実測図



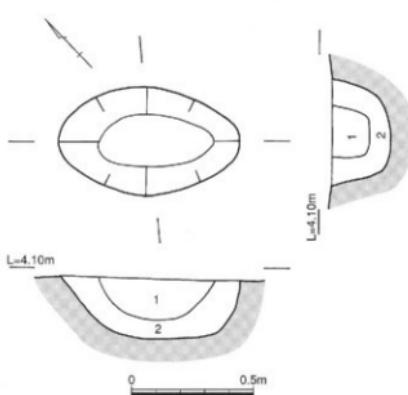
第291図 SK2007出土遺物実測図



第292図 SK2008実測図



第293図 SK2008出土遺物実測図



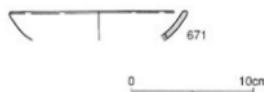
第294図 SK2015実測図

#### 土坑 SK2015（第294図）

01年度3区の西部、H-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸74cm、短軸44cm、深さ24cmを測り、平面形が楕円形状を呈する。埋土は黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、瓦質土器であるが、実測できるものは1点のみである。

#### 出土遺物（第295図）

671は瓦器碗である。口縁部僅かに内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面回転台ナデ調整である。



第295図 SK2015出土遺物実測図

### 土坑 SK2020 (第296図)

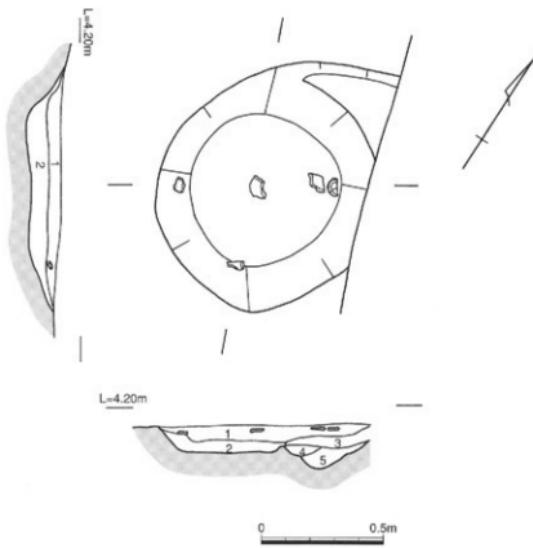
01年度3区の東部、G-10グリッドで検出された遺構である。長軸110cm、短軸90cm、深さ16cmを測り、平面形が半梢円形状を呈する。埋土はオリーブ褐色シルト、鉄を含む黄褐色シルト、炭化物、焼土を含む褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、灰黄色シルトからなる。出土遺物は土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、骨、炭化物等である。実測できるものが多く、とくに瓦器碗が多くを占める。

### 出土遺物 (第299図)

672、673は土師器上鍋である。672は口縁部直線的に立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反し先端丸くおさめる。内外面回転台ナデ調整のあと、ハケを施す。673は口縁部内彎みに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は方形状で、僅かに上方に拡張する。

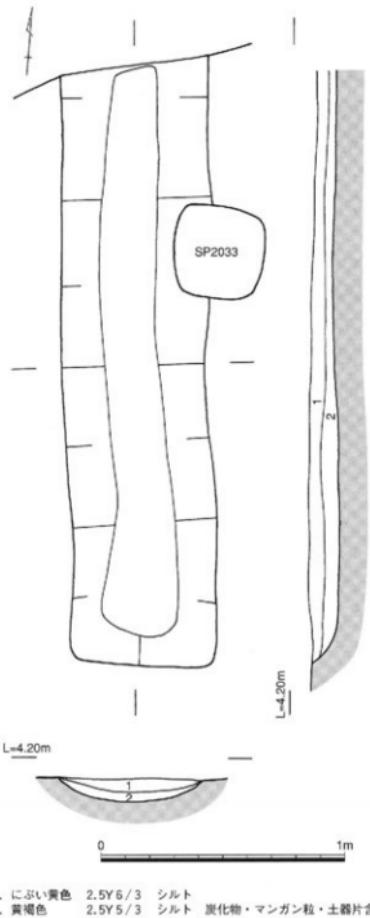
674は須恵器こね鉢である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部は凹面状で下方にやや拡張する。

675～683は瓦器碗である。681は口縁部内彎みに立ち上がり、端部丸くおさめる。680は体部外上方に立ち上がる。「ハ」の字形で断面U字形状の高台が貼り付けられている。675、679は同様に口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。675は完形である。676、678、683は共に口縁部内彎みに立ち上がり、端部丸くおさめる。683は内面ヘラミガキが施される。682も内面にヘラミガキが施されている。677も口縁部内彎みに立ち上がり、端部丸くおさめる。内面がミガキである。



1. オリーブ褐色	2.5Y 4 / 4	2. 黄褐色	2.5Y 5 / 3	3. 褐色	10YR 4 / 4	4. にぶい黄褐色	10YR 5 / 4	5. 灰青色	2.5YR 6 / 2	シルト	シルト	シルト	シルト	シルト
										ほぼ全面に焼土・炭化物・土器片を多量に含む	鉄分若干含む・遺物小片少量含む	上面に炭化物・焼土・遺物含む	遺物小片含む	

第296図 SK2020実測図



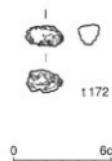
第297図 SK2024実測図

### 土坑 SK2024 (第297図)

01年度3区の北部、J-8グリッドで検出された遺構である。長軸244cm、短軸60cm、深さ10cmを測り、平面形が長方形状を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器であるが、実測できるものは鉄器のみである。

### 出土遺物 (第298図)

t 172は鉄滓・スラッグである。



第298図 SK2024出土遺物実測図

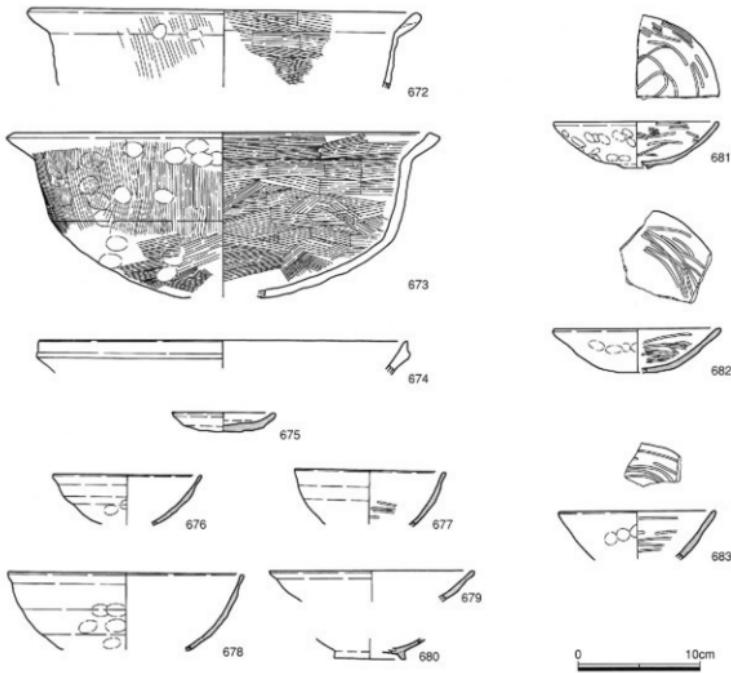
### 土坑 SK2027 (第300図)

01年度4区の北西部、E-9グリッドで検出された遺構である。長軸64cm、短軸40cm、深さ20cmを測り、平面形が半梢円形状を呈する。埋土はにぶい黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器であるが、実測できるものは2点のみである。

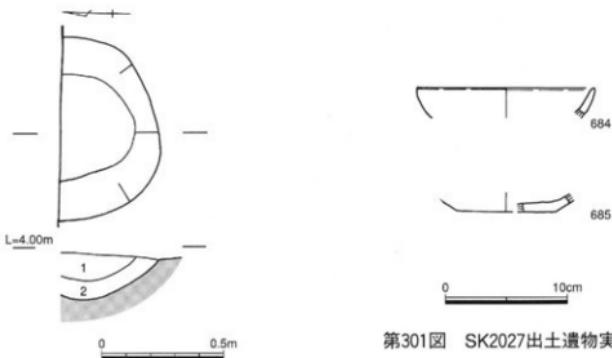
### 出土遺物 (第301図)

684は土師器杯である。口径14.4cmで、口縁部僅かに内彎ぎみに立ち上がり端部丸くおさめる。内外面回転台ナデ調整である。

685は須恵器束縒系こね鉢である。体部外上方にゆるやかに立ち上がり、底部は回転ヘラ切である。色調は外面が暗灰、内面が灰であり、外面に施釉が施されている。



第299図 SK2020出土遺物実測図



第301図 SK2027出土遺物実測図

1. にぶい黄褐色 10YR 4 / 3 シルト  
2. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト

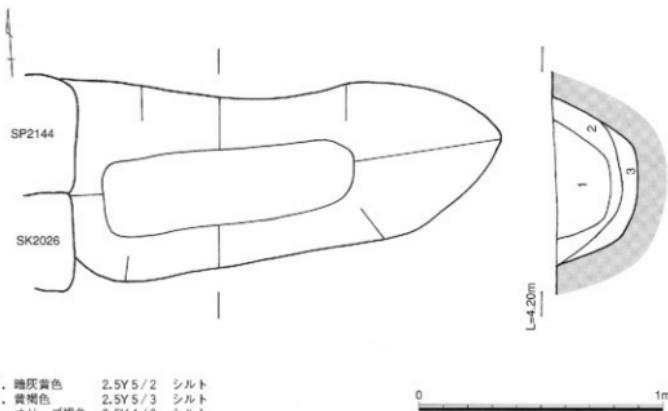
第300図 SK2027実測図

### 土坑 SK2030 (第302図)

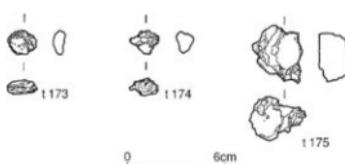
01年度3区の北西部、I-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸180cm、短軸80cm、深さ32cmを測り、平面形が不整形形状を呈する。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルト、黄褐色シルト、オリーブ褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、鐵器である。

### 出土遺物 (第303図)

t 173～t 175はいずれも鐵滓・スラッグである。t 175は幅28.5mmである。



第302図 SK2030実測図



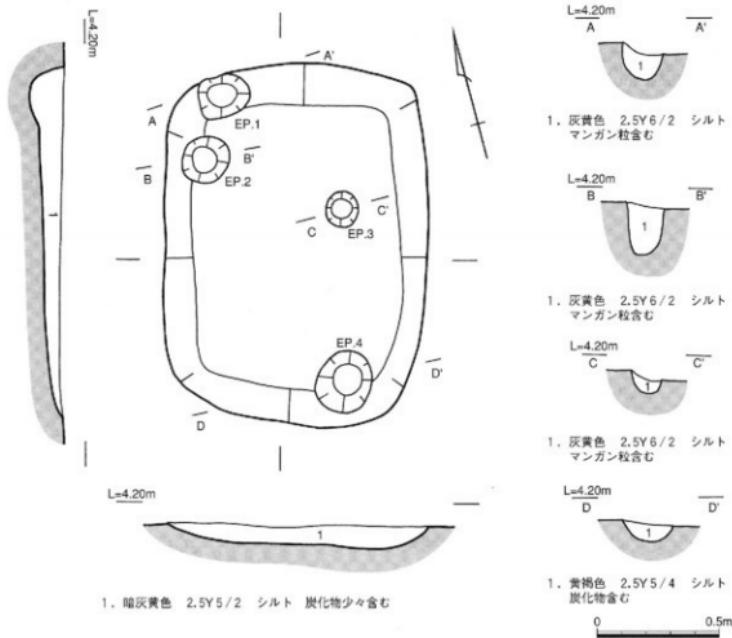
第303図 SK2030出土遺物実測図

### 土坑 SK2032 (第304図)

01年度3区の中央東部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸150cm、短軸110cm、深さ14cmを測り、平面形が隅丸長方形状を呈する。遺構内遺構 EP-1, EP-2, EP-3, EP-4をもつ。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器等であるが、実測できるものはEP-4より出土した青磁碗1点のみである。

### 出土遺物 (第305図)

686は青磁碗である。EP-4より出土した。底径は6.0cmで、体部外上方に僅かに内彎ぎみに立ち上がり、断面方形形状の高台が貼り付けられている。内外面回転台ナデ調整で施釉が施され、底部は回転ヘラ切である。



第304図 SK2032実測図



第305図 SK2032出土遺物実測図

#### 土坑 SK2035（第306図）

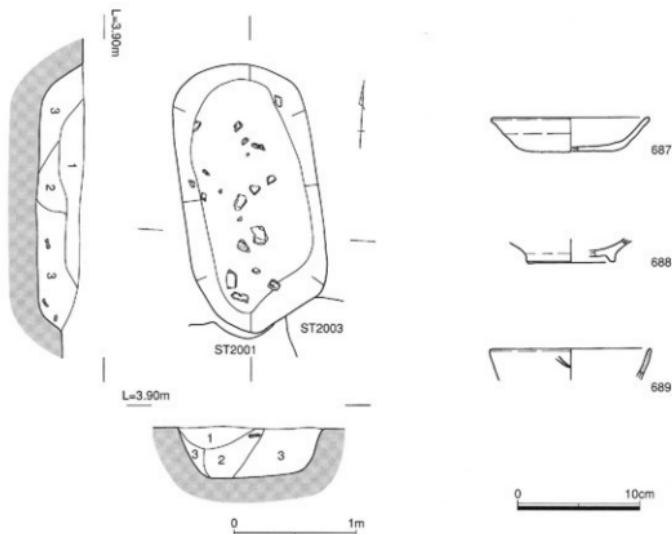
01年度3区の中央東部、H-9グリッドで検出された遺構である。ST2001、ST2002に隣接し、長軸110cm、短軸56cm、深さ18cmを測り、平面形が楕円形状を呈する。埋土は鉄分・炭化物を含む暗灰黄色シルト、炭化物・マンガンを含む灰オリーブ色シルト、炭化物を含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器等であるが、実測できるものは3点のみである。

#### 出土遺物（第307図）

687は土師器杯である。口縁部は直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。

688は黒色土器B類碗である。高台部径は7.1cmであり、体部外上方に立ち上がる。断面U字形状の高台が貼り付けられている。内面はミガキ調整である。

689は瓦質碗である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。



第307図 SK2035出土遺物実測図

1. 暗灰黄色 2.5Y 5/2 シルト  
鉄分が大部分しめる、炭化物少し含む
2. 灰オリーブ色 5Y 5/2 シルト  
土器片・炭化物含む、1~2mmの大マンガン粒含む
3. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
土器片・炭化物含む、1~2mmの大マンガン粒含む、鉄分少し含む

第306図 SK2035実測図

#### 柱穴

##### 柱穴 SP2059 (第308図)

01年度3区の北部、I-8グリッドで検出された遺構である。長軸36cm、短軸24cm、深さ32cmを測り、平面形は楕円形である。埋土は暗灰黄色シルト、炭化物を含む黄褐色シルト等を基調としている。

出土遺物は土師器、須恵器、鐵器等であるが、実測可能なものは鐵器だけであった。

##### 出土遺物 (第309図)

t176は鐵器である。器種は釘である。

##### 柱穴 SP2065 (第310図)

01年度3区の北部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸28cm、短軸28cm、深さ12cmを測り、平面形は円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、陶磁器等である。

##### 出土遺物 (第311図)

690は綠釉陶器碗である。高台部径6.0cmを測り、体部外上方に内彎ぎみに立ち上がる。断面方形状の高台が貼り付けられている。

### 柱穴 SP2067 (第312図)

01年度3区の中央西部、H-7グリッドで検出された遺構である。長軸32cm、短軸24cm、深さ12cmを測り、平面形は隅丸方形である。埋土は黄褐色シルトの1層のみである。出土遺物は土師器、瓦質土器等である。

### 出土遺物 (第313図)

660は須恵器碗である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。

661は瓦器高台付皿である。体部ゆるやかに立ち上がり、断面U字形状のごく薄い高台が貼り付けられている。内面はナデ後ミガキである。

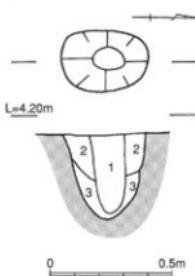
### 柱穴 SP2080 (第314図)

01年度3区の中央部、H-8グリッドで検出された遺構である。長軸30cm、短軸30cm、深さ22cmを測り、平面形は円形である。埋土は炭化物、鉄分を含む黄褐色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器等である。

### 出土遺物 (第315図)

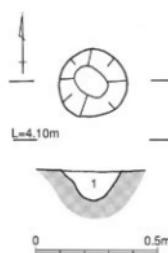
691は須恵器鉢である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部は方形状を呈する。

692は須恵器束縛系こね鉢である。口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部は上下に拡張する。



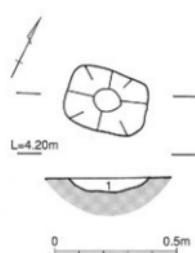
- 1. 暗灰黄色 2.5Y 5 / 2 シルト  
土器片・鉄分含む
- 2. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト  
炭化物含む
- 3. 黄褐色 2.5Y 5 / 4 シルト

第308図 SP2059実測図



- 1. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト  
炭化物・土器片少し含む、  
鉄分含む

第310図 SP2065実測図

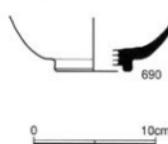


- 1. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト

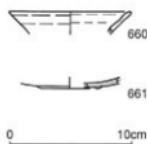
第312図 SP2067実測図



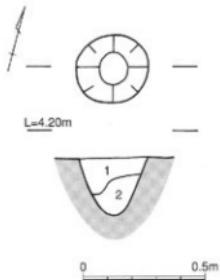
第309図 SP2059  
出土遺物実測図



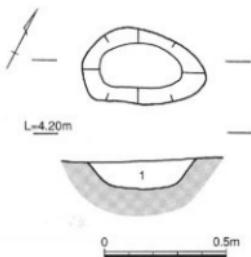
第311図 SP2065  
出土遺物実測図



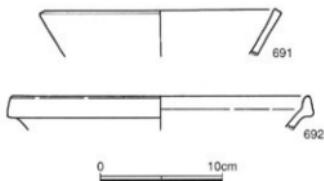
第313図 SP2067  
出土遺物実測図



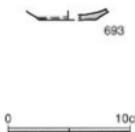
第314図 SP2080実測図



第316図 SP2090実測図



第315図 SP2080出土遺物実測図



第317図 SP2090出土遺物実測図

#### 柱穴 SP2090（第316図）

01年度3区の西部、G-8グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸30cm、深さ10cmを測り、平面形は楕円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、瓦質土器であるが、実測可能なものは1点のみであった。

#### 出土遺物（第317図）

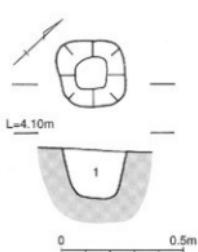
693は瓦器碗である。底径4.8cmで、体部外上方にゆるやかに立ち上がり、ごく薄い高台が貼り付けられている。

#### 柱穴 SP2107（第318図）

01年度3区の中央部、G-9グリッドで検出された遺構である。長軸26cm、短軸26cm、深さ20cmを測り、平面形は隅丸方形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器である。

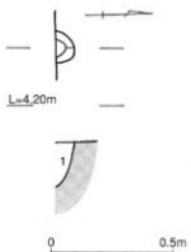
#### 出土遺物（第319図）

694は土師器壺である。内外面は回転台ナデ調整で、口縁部内向ぎみに立ち上がり端部手前で「く」の字状に外反する。先端は丸くおさめる。



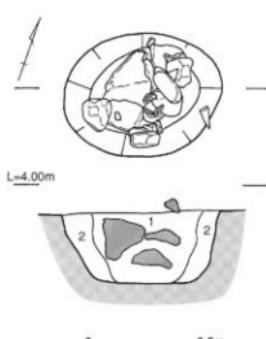
1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
炭化物・土器片含む

第318図 SP2107実測図



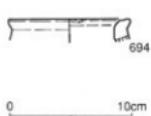
1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
炭化物含む

第320図 SP2114実測図

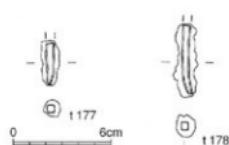


1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
上部に炭化物・土器片を少量含む  
2. 暗灰黄色 2.5Y 5/2 シルト

第322図 SP2124実測図



第319図 SP2107  
出土遺物実測図



第321図 SP2114  
出土遺物実測図

#### 柱穴 SP2114 (第320図)

01年度3区の南西部、F-8グリッドで検出された遺構である。長軸14cm、短軸8cm、深さ20cmを測り、平面形は半円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、鉄器である。

#### 出土遺物 (第321図)

t177, t178は鉄器である。器種はいずれも釘である。

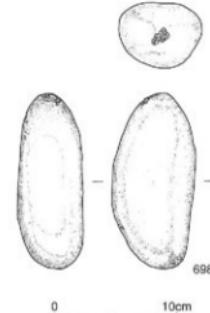
#### 柱穴 SP2124 (第322図)

01年度3区の南東部、F-10グリッドで検出された遺構である。長軸64cm、短軸50cm、深さ28cmを測り、平面形は楕円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト、暗灰黄シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石器等である。

#### 出土遺物 (第323図)

695は瓦器小皿ある。内外面は回転台ナデ調整で内面に後ミニガキがかかる。口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部は丸くおさめる。

696は瓦器椀である。体部外上方にゆるやかに立ち上がり、



0 10cm

第323図 SP2124出土遺物実測図

ごく薄い高台が貼りつけられている。内面は回転台ナデ後ミガキである。

697は青磁碗である。口縁部は直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面施釉で、外面に箋運弁文が施されている。

698は敲石である。石材は砂岩である。

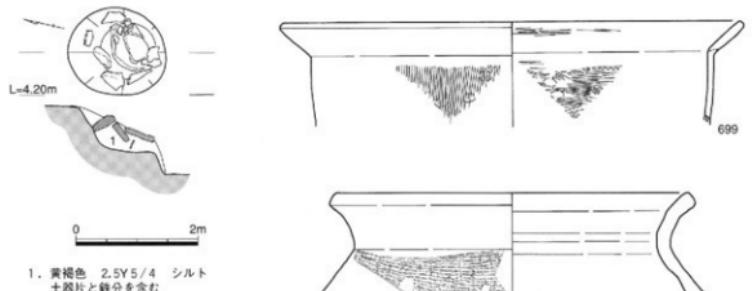
柱穴 SP2146 (第324図)

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸20cm、短軸20cm、深さ10cmを測り、平面形は円形である。埋土は鉄分を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器、炭化物等である。

出土遺物 (第325図)

699は土師器土鍋である。口径37.4cmで、口縁部直立して立ち上がり端部手前で「く」の字状に外反する。先端は方形状を呈する。内外面ハケ調整である。

700は須恵器壺である。口径29.0cm、頸部25.9cm、体径42.4cmを測る。形態は口縁部内向して立ち上がり端部手前で外反し、先端は方形状を呈する。外面は格子状タタキが見られ、内面は板ナデである。



第324図 SP2146実測図



第325図 SP2146出土遺物実測図

#### 柱穴 SP2167 (第326図)

01年度3区の北東部、I-9グリッドで検出された遺構である。長軸26cm、短軸24cm、深さ8cmを測り、平面形は円形である。埋土はにぶい黄色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、黒色土器、瓦質土器、鉄器等であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物 (第327図)

t 179は鉄器である。器種は三角鉄片である。

#### 柱穴 SP2175 (第328図)

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸34cm、短軸30cm、深さ8cmを測り、平面形は円形である。埋土は黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、土製品、鉄器等であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物 (第329図)

t 180は鉄器である。器種は釘であり、長さは31.0mmである。

#### 柱穴 SP2177 (第330図)

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸44cm、短軸30cm、深さ18cmを測り、平面形は隅丸長方形である。埋土は炭化物、鉄分を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器等であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物 (第331図)

t 181は鉄滓・スラッグである。

#### 柱穴 SP2182 (第332図)

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸24cm、短軸24cm、深さ4cmを測り、平面形は円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト1層のみである。出土遺物は土師器、鉄器であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物 (第333図)

t 182は鉄滓・スラッグである。

#### 柱穴 SP2185 (第334図)

01年度3区の中央東部、H-10グリッドで検出された遺構である。長軸46cm、短軸36cm、深さ40cmを測り、平面形は稍円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、黒色土器、須恵器、鉄器、石器等であるが、実測可能なものは鉄器、石器各1点であった。

#### 出土遺物 (第335図)

701は砥石である。石材は凝灰岩である。

t 183は鉄器である。器種は釘である。

#### 柱穴 SP2186 (第336図)

01年度3区の中央東部、H-10グリッドで検出された遺構である。長軸24cm、短軸24cm、深さ18cmを測り、平面形は円形である。埋土は炭化物を含む黄褐色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルトの2層である。

出土遺物は土師器、須恵器、鉄器であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物 (第337図)

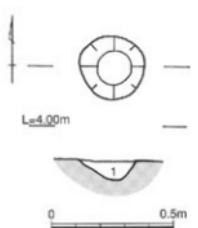
t 184は鉄器である。器種は釘であり、長さは41.0mmである。

柱穴 SP2192 (第338図)

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された遺構である。長軸28cm、短軸24cm、深さ20cmを測り、平面形は長方形である。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルト、炭化物を含む黄褐色シルトの2層である。出土遺物は土師器、黒色土器、須恵器等であるが実測可能なものは土師器のみであった。

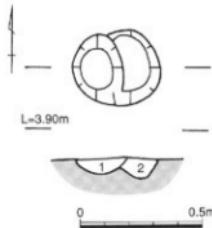
出土遺物 (第339図)

702は土師器杯である。内外面回転台ナデ調整で、体部外上方に直線的に立ち上がる。



1. にぼい黄色 2.5Y 6/3 シルト

第326図 SP2167実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
2. 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト

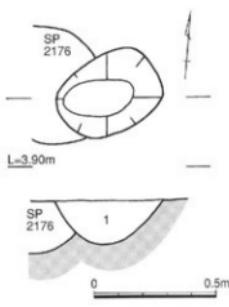
第328図 SP2175実測図



第327図 SP2167出土遺物実測図

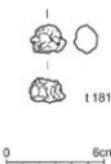


第329図 SP2175出土遺物実測図

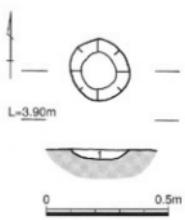


1. 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト  
土器片・炭化物・鉄分を若干含む

第330図 SP2177実測図

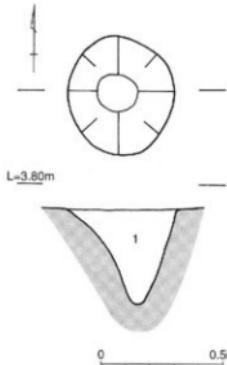


第331図 SP2177出土遺物実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5 / 4 シルト  
炭化物を若干含む

第332図 SP2182実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト  
土器片・炭化物を若干含む

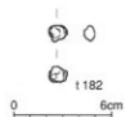
第334図 SP2185実測図



0 10cm

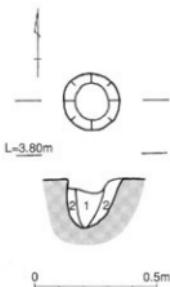


t183



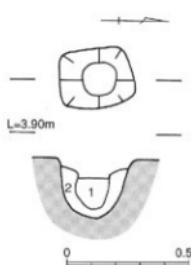
第333図 SP2182出土遺物実測図

第335図 SP2185  
出土遺物実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト 炭化物を含む  
2. 踏灰黄色 2.5Y 5 / 2 シルト 炭化物を含む

第336図 SP2186実測図



1. 踏灰黄色 2.5Y 5 / 2 シルト  
上部に焼土・土器片・炭化物を含む  
2. 黄褐色 2.5Y 5 / 3 シルト  
土器片・炭化物を含む

第338図 SP2192実測図



第337図 SP2186出土遺物実測図



第339図 SP2192出土遺物実測図

## 土壤墓

### 土壤墓 ST2001 (第340~341図)

01年度3工区の中央部、H-9グリッドで検出された土壤墓である。外部表象は見られなかった。規模は長軸120cm、短軸62cm、深さ8cmを測り、平面形が梢円形状を呈する。埋葬形態は北頭位の仰臥屈葬である。下部構造は素掘りで、遺構内埋土は5層に分層され、にぶい黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、陶磁器、鉄器、石器、土製品、骨等であり、被葬者の頭部付近に瓦器椀等が集中して置かれてあった。遺骸は木棺に納められていた可能性があるが、その痕跡を確認することはできなかった。埋葬時期は瓦器椀等から13世紀末~14世紀頃にかけての年代が考えられる。

### 出土遺物 (第342図)

703~707は土師器器杯である。703は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切後ナデである。704は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。端部手前がやや薄くなる。底部は回転ヘラ切である。705は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面は回転台ナデ調整で、底部は回転ヘラ切である。706は同様に口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面は回転台ナデ調整で、底部は回転ヘラ切である。707は体部外上方に直線的に立ち上がる。削り出しの高台がつく。

708~711は土師器小皿である。708、710は口縁部僅かに内彎ぎみにゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。いずれも底部は回転糸切である。709は口縁部や内彎ぎみにゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転糸切後ナデである。711は口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部は回転ヘラ切である。

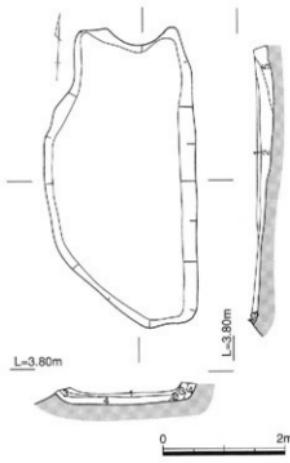
713は須恵器鉢である。内外面は回転台ナデ調整で、口縁端部上方に拡張し丸くおさめる。

712は須恵器こね鉢である。体部外上方に立ち上がる。

714は須恵器甕である。口縁部外反して立ち上がり、端部方形状で下方に拡張する。

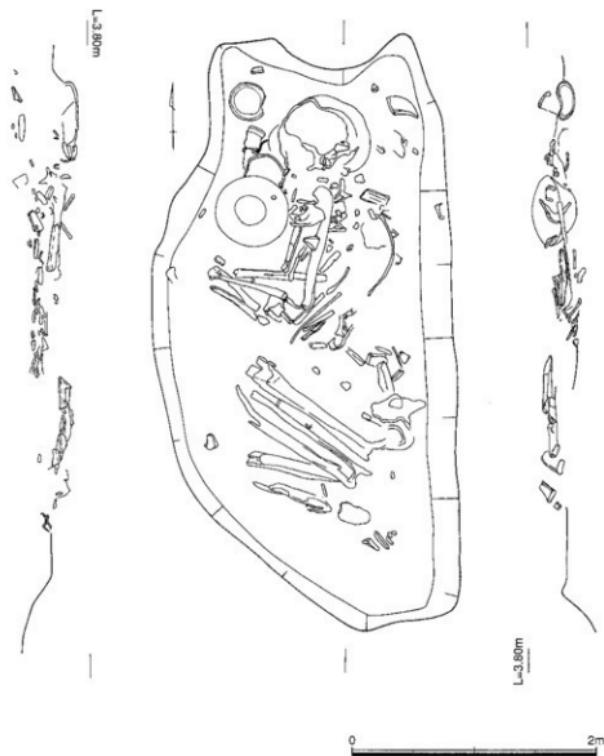
715~718、720は瓦器椀である。715は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。716は口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部尖りぎみに丸くおさめる。717は体部内彎ぎみに立ち上がり、断面方形状の薄い高台が貼り付けられている。718は体部ゆるやかに立ち上がる。高台は薄く、底部は回転ヘラ切後ナデである。720は口縁部ほぼ直線的に立ち上がり端部丸くおさめる。

719、722は青磁碗である。719は口縁部僅かに内彎ぎみに立ち上がり、端部近くで僅かに外反し先端丸くおさめる。722は体部内彎ぎみに立ち上がり、断面方形状の削り出し高台がつく。底部内面に四角の押印がある。



1. にぶい黄褐色 10YR 6 / 3 シルト
2. 棕色 10YR 4 / 4 シルト
3. 棕灰色 10YR 4 / 1 シルト
4. にぶい黄褐色 10YR 5 / 3 シルト
5. 暗灰色 2.5Y 5 / 2 シルト

第340図 ST2001実測図(1)



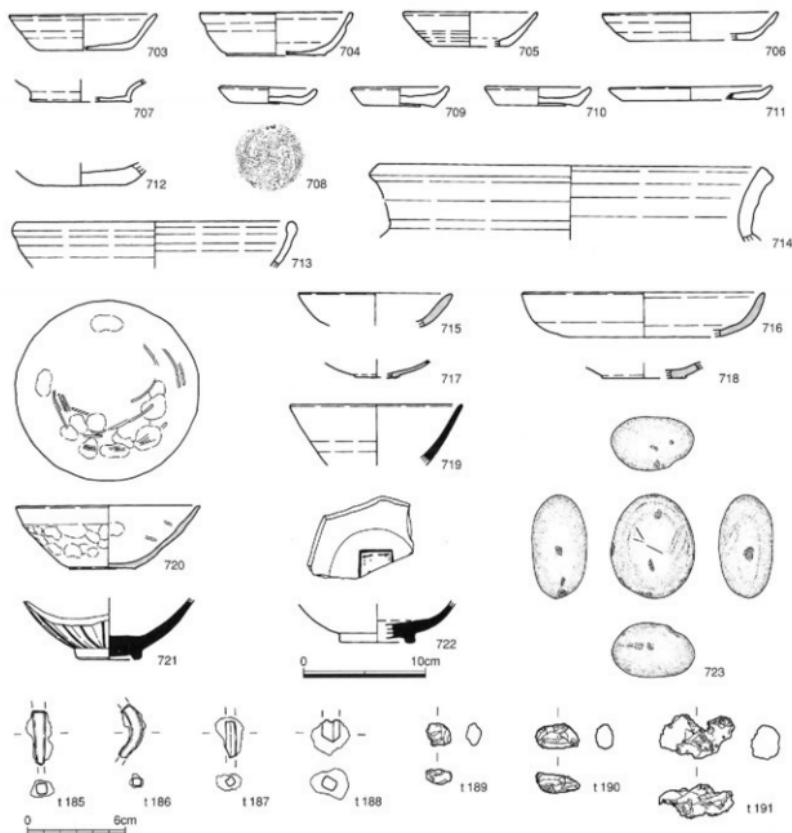
第341図 ST2001実測図(2)

ST2001の遺構内埋土中より瓦器壺が5点、そのほかに土師器杯が5点、土師器小皿が4点、青磁碗が2点、須恵器甕、須恵器こね鉢が各1点出土している。瓦器壺については、薄手であり口縁部内側に立ち上がり、外上方に延びる。

人骨についての所見であるが、高齢（60歳ぐらい）の男性で、自然死したものと推測される。また、骨より算定した身長は153～155cm前後であり、きれいな歯ではなく、生存中にはほとんどの歯は脱落していしたものと思われる。

723は蔽石である。全長8.5cm、石材は砂岩である。

t 185~t 191は鉄器である。器種はt 185~t 187が釘、t 189~t 191は鉄滓・スラッグである。t 188は不明である。



第342図 ST2001出土遺物実測図

#### 土壤墓 ST2002（第344図）

01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された土壤墓である。規模は長軸344cm、短軸120cm、深さ16cmを測り、平面形が楕円形状を呈する。遺構内埋土は褐色シルト1層のみである。

出土遺物は土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、鉄器等であるが、実測可能なものは2点のみであった。

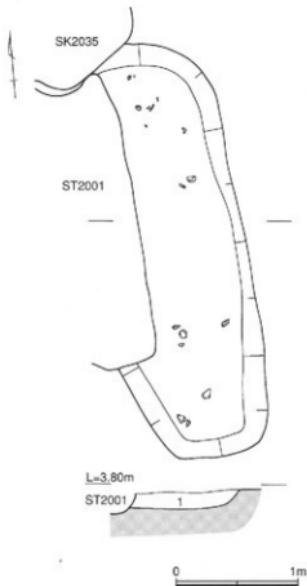
### 出土遺物（第343図）

724は土師器小皿である。口径8.0cm、器高1.4cm、底径5.2cmで、口縁部内彎ぎみにゆるやかに立ち上がり端部丸くおさめる。内外面回転台ナデ調整で、底部はナデである。

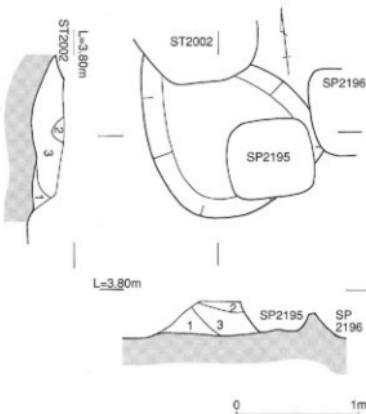
t 192は鉄器である。器種は刀子である。



第343図 ST2002出土遺物実測図



1. 暗色 10YR 4/4 シルト  
第344図 ST2002実測図



第345図 ST2003実測図

1. 灰青褐色 10YR 5/2 シルト 2~3mm大の土器較少し  
1mm大の炭化物少量含む
2. 暗灰色 10YR 5/1 シルト
3. 灰黄褐色 10YR 4/2 シルト 5~10mm大の土器片含む  
2mm大の炭化物少量含む

### 土壤墓 ST2003（第345図）

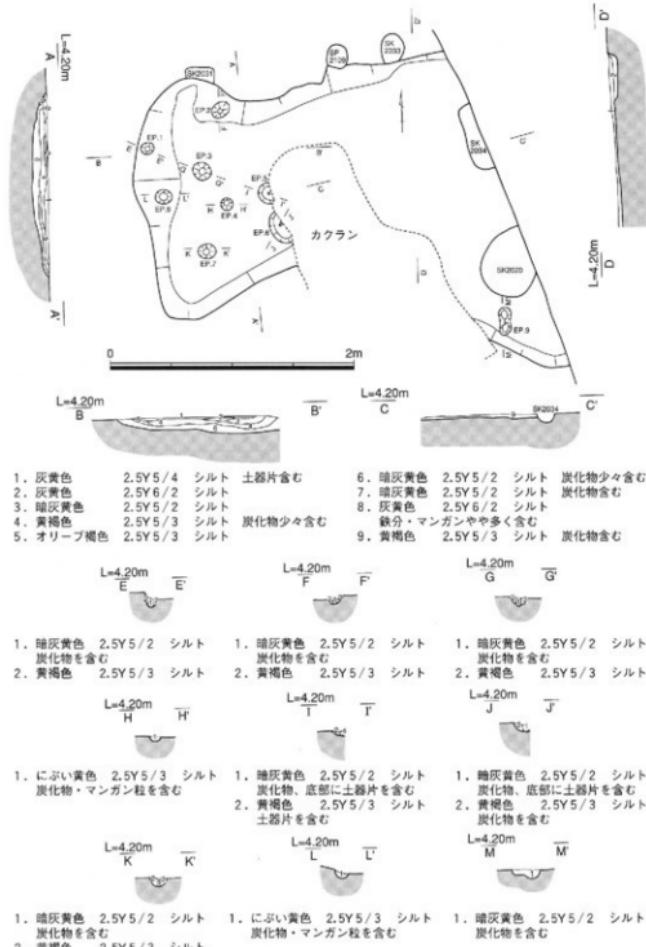
01年度3区の中央部、H-9グリッドで検出された土壤墓である。ST2002, SP2195, SP2196が上に重なる。規模は長軸156cm, 短軸128cm, 深さ28cmを測り、平面形が梢円形を呈する。造構内埋土は炭化物を含む灰黄褐色シルト、褐灰色シルト、炭化物を含む灰黄褐色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルト、炭化物を含む灰黄色シルトからなる。

出土遺物は土師器、黒色土器等であるが、実測可能なものはなかった。

## 不明遺構

不明遺構 SX2001 (第346図)

01年度3区の南東部、F-10, G-9・10グリッドで検出された遺構である。長軸770cm、短軸300cm、深さ28cmを測り、平面形は不整形である。遺構内遺構をEP-1～EP-10まで10基伴う。埋土は黄灰色シルト、灰黄色シルト、暗灰黄色シルト、炭化物を含む黄褐色シルト、オリーブ褐色シルト、炭化物を含む暗灰黄色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、陶磁器等である。



第346図 SX2001実測図

#### 出土遺物（第347図）

726, 727は土師器杯である。726は体部外上方に立ち上がる。同じく内外面は回転台ナデ調整で底部は回転ヘラ切である。727は口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面は回転台ナデ調整で底部は回転ヘラ切である。

725は土師器小皿である。口径6.4cm, 底径5.2cmで、口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。

728は土師器鍋である。口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は尖りぎみにおさめる。外面ハケ調整である。

729は土師器土鍋である。口径28.8cm、口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部手前で「く」の字状に外反する。先端は方形形状を呈し、下方に拡張する。外面ハケ調整である。

743は土師質鉢状土錘である。穿孔径は0.4cmである。

730, 731は須恵器こね鉢である。730は口径25.6cmで体部外上方に直線的に立ち上がり、端部は上方に拡張する。731は口縁部外上方に立ち上がり、端部方形形状でやや上方に拡張する。注ぎ口あり。

732, 733は瓦器小皿である。732は同様に口縁部内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。口径8.4cm, 底径6.0cmを測る。733は口径7.4cmで内外面回転ナデ調整で、口縁部やや内彎ぎみにゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。

734は瓦器高台付皿である。体部外上方にゆるやかに立ち上がり、薄い断面逆三角形状の高台が貼り付けられている。内面はヘラミガキ調整である。

735～741は瓦器椀である。735は口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。736は口縁部ゆるやかに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。737はやや内彎ぎみに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。738, 739は同様に口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、端部丸くおさめる。内面はミガキ調整である。740は口縁部やや内彎ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。内面はヘラミガキである。741は体部やや内彎ぎみに立ち上がり、内面はミガキ調整である。いずれも口径は10cm～13cm前後である。738～741のものは内面がミガキ調整である。

742は縁釉陶器碗である。底径は5.5cmを測り、体部やや内彎ぎみに立ち上がる。にぶい黄緑色の釉がかかる。

t 193～t 204は鉄器である。器種は、t 193とt 194が釘、t 195～t 204がすべて鉄滓・スラッグとなっている。t 193の釘は長さが74.0mm, t 194の釘は長さが27.0mmである。スラッグはt 195のものが幅43.0mmでやや大きめだが、その他は10mm前後である。

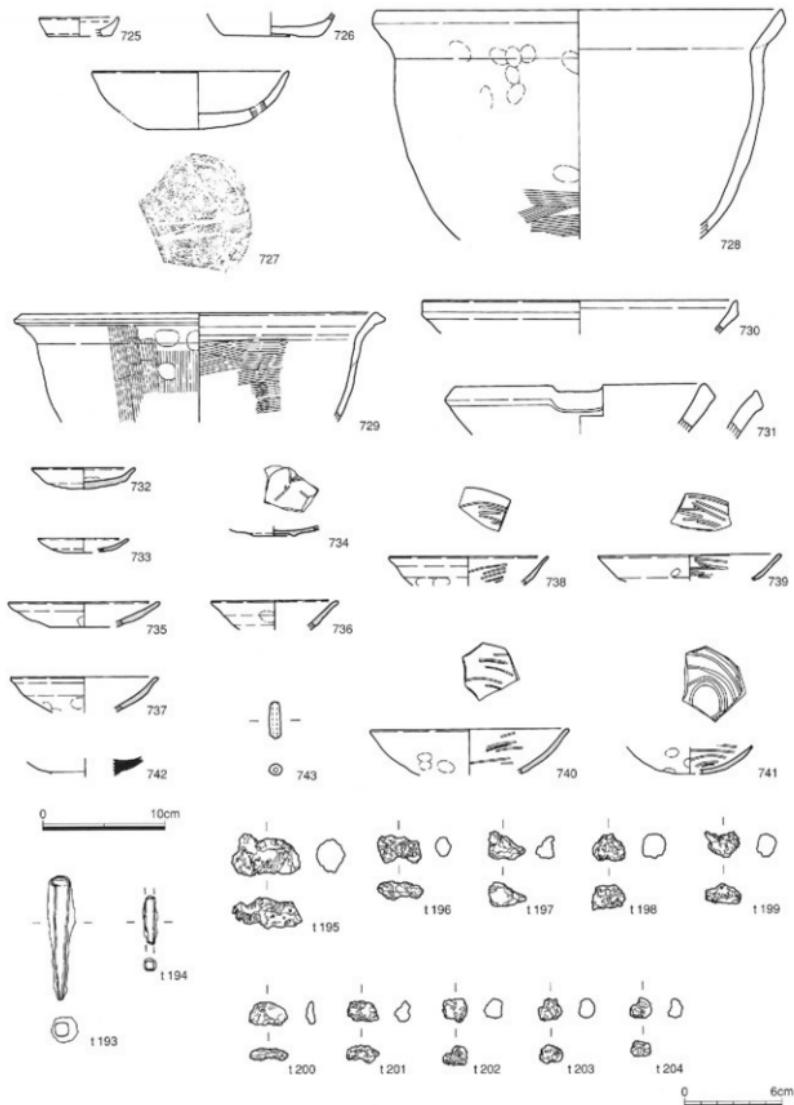
#### 不明遺構 SX2002（第348図）

01年度3区の南東部、H-9・10, I-9・10グリッドで検出された遺構である。長軸430cm, 短軸220cm, 深さ12cmを測り、平面形は不整形である。埋土はオリーブ褐色シルト1層のみである。

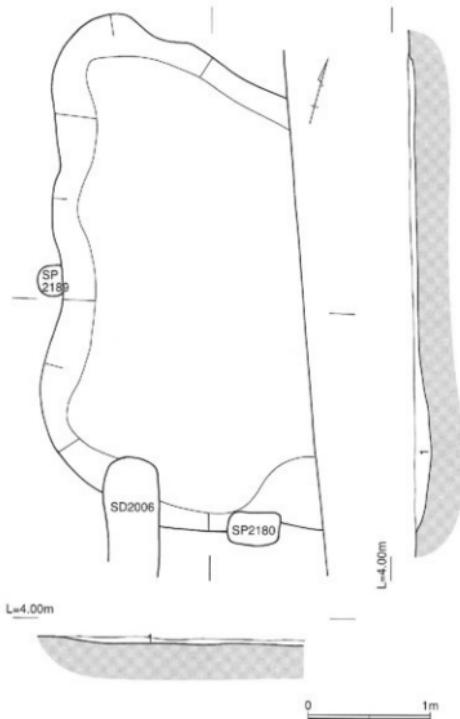
出土遺物は土師器、黒色土器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、土製品、瓦、鉄器、炭化物等であるが、いずれも細片ばかりで実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物（第349図）

t 205～t 207は鉄器である。器種は、t 205が鉄鎌である。欠損しているが、茎幅、茎厚はともに4.5mmである。t 206とt 207は鉄滓・スラッグである。

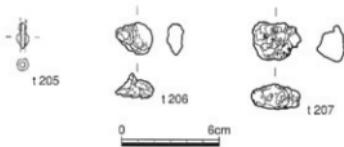


第347図 SX2001出土遺物実測図



1. オリーブ褐色 2.5Y 4 / 4 シルト  
土器小片若干含む

第348図 SX2002実測図

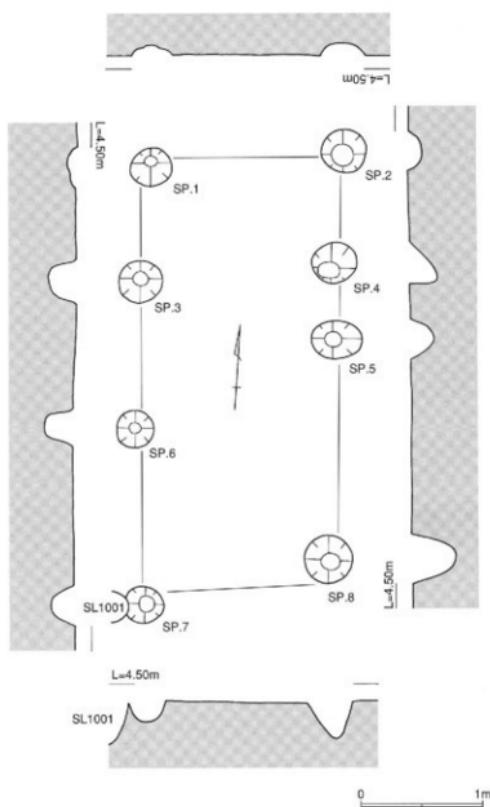


第349図 SX2002出土遺物実測図

### (3) 室町時代の遺構と遺物

#### 掘立柱建物

掘立柱建物 SA1001 (第350図)



第350図 SA1001実測図

01年度3区、第1遺構面の北部に位置し、8基の柱穴から構成される。規模は桁行2間×梁間1間(3.5m×1.7m)、床面積5.95m<sup>2</sup>を測り、棟方向はN-3°-Wである。

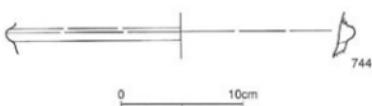
各柱穴は円形、梢円形を呈し、直径18~38cm、深さ12~30cmを測り、形状はそれほど複雑なものではない。埋土は炭化物を含む暗灰黄色シルト、マンガン粒を含む黄褐色シルトを基調としている。

柱穴SP1008からは土師器羽釜が出土している。その他の柱穴からも土師器、須恵器等が数点出土しているが、実測可能なものはなかった。

#### 出土遺物 (第351図)

744はSP1008の出土遺物である。

744は土師器羽釜である。体部は直線的に立ち上がり、断面U字形状の鋲がめぐる。鋲の径は28.6cmである。胎土は石英、長石、雲母であり、外面調整はナデで、ススが付着している。



第351図 SA1001柱穴出土遺物実測図

## 溝

### 溝 SD1001 (第353図)

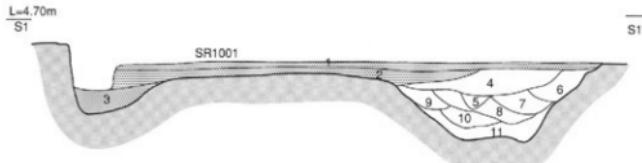
SD1001は01年度2区の第1邊構面を継断する南北方向の溝である。残存長32m、幅1.3~2.4m、深さ62cmを測る。断面は逆台形状であり、南端は調査区外にかかる。埋土は灰オーリーブシルト、オーリーブ黄シルト、黄褐色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器、金属器等であるが、実測可能な遺物は鉄器のみである。

### 出土遺物 (第352図)

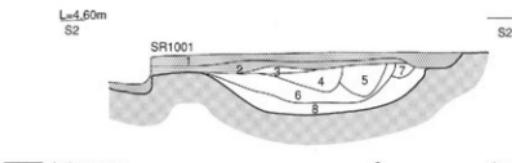
t208は鉄器である。器種は釘で、長さ13.0mmである。

### 溝 SD1002 (第354図)

SD1002は01年度3区の北西部に位置する、南北方向の溝である。SL1001に添うように走る。残存長6m、幅30~50cm、深さ20cmを測る。断面はU字形状であり、北端は調査区外に 第352図 SD1001出土遺物実測図かかる。埋土は炭化物を含む灰オーリーブシルト、マンガン粒を含む暗灰黄シルト、マンガン粒を含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、鉄器である。



- |            |         |     |                |
|------------|---------|-----|----------------|
| 1. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 2. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 3. 灰オーリーブ色 | 5Y6/2   | シルト | 2層より鉄分多い       |
| 4. 灰オーリーブ色 | 5Y5/3   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 5. 灰色      | 5Y5/1   | シルト | 鉄分・マンガン少量含む    |
| 6. 灰オーリーブ色 | 5Y5/3   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少し含む |
| 7. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |
| 8. 灰黄色     | 2.5Y6/2 | シルト |                |
| 9. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |
| 10. 暗灰黄色   | 2.5Y5/2 | シルト |                |
| 11. 黄褐色    | 2.5Y5/3 | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |

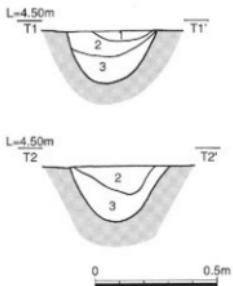


- |            |         |     |                |
|------------|---------|-----|----------------|
| 1. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 2. 灰オーリーブ色 | 5Y5/3   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 3. オリーブ黄色  | 5Y6/3   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 4. オリーブ黄色  | 5Y6/3   | シルト | 鉄分・マンガン大粒で少し含む |
| 5. 灰オーリーブ色 | 5Y5/2   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |
| 6. 灰オーリーブ色 | 5Y5/3   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |
| 7. 灰オーリーブ色 | 5Y5/3   | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |
| 8. 黄褐色     | 2.5Y5/3 | シルト | 鉄分・マンガン小粒で少量含む |

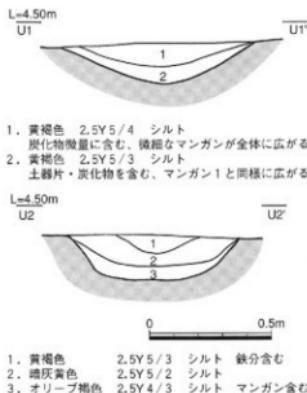
第353図 SD1001土層断面実測図

### 出土遺物（第355図）

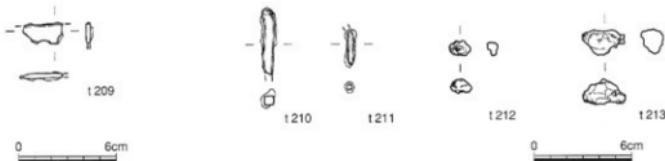
t 209は鉄器である。器種は板状鉄板で、長さ24.0mmである。



第354図 SD1002土層断面実測図

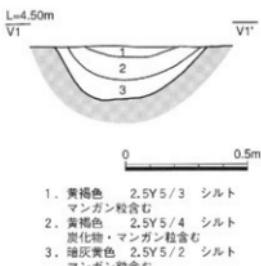


第356図 SD1003土層断面実測図



第355図 SD1002出土遺物実測図

第357図 SD1003出土遺物実測図



第358図 SD1004土層断面実測図

### 溝SD1003（第356図）

01年度3区の北部に位置する、東西方向の溝である。残存長12m、幅60~80cm、深さ20cmを測る。断面は逆台形状であり、東端は調査区外にかかる。埋土は炭化物、マンガンを含む黄褐色シルト、暗灰黄色シルト、オリーブ褐色シルトを基調としている。出土遺物は上部器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、鉄器等であるが、実測可能なものは鉄器である。

#### 出土遺物（第357図）

出土遺物は鉄器である。t 210, t 211は釘である。(t 210は長さ39.0mm) t 212, t 213は鉄滓・スラッグである。

#### 溝 SD1004 (第358図)

01年度3区の中央西部に位置する、東西方向の溝である。残存長3.4m、幅50~60cm、深さ22cmを測る。断面は逆台形状であり、西端は調査区外にかかる。埋土はマンガン粒、炭化物を含む黄褐色シルト、マンガン粒を含む暗灰黄色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器であるが実測可能なものはなかった。

#### 溝 SD1005 (第359図)

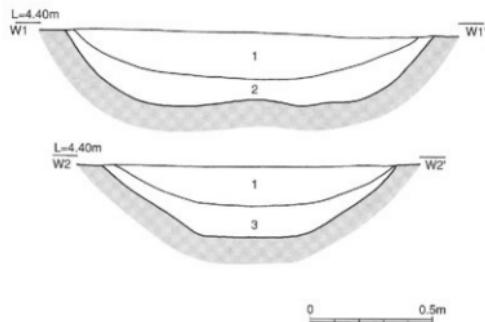
01年度3区の南部に位置する、東西方向の溝である。残存長12.5m、幅110~180cm、深さ30cmを測る。断面は逆台形状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土はマンガンを含んだ黄褐色シルト、マンガン、炭化物を含むオリーブ褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、土製品、鉄器等である。

#### 出土遺物 (第360図)

746~748は土師質の紡錘状土錘である。穿孔径はいずれも0.3~0.5cmである。

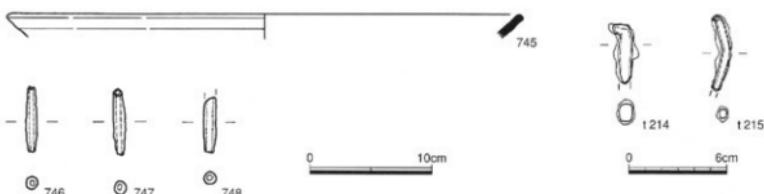
745は灰釉陶器鉢である。口径41.9cmで、口縁部ほぼ直線的にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。内外面回転台ナデ調整である。

t214, t215は鉄器である。器種はともに釘である。



- |           |          |                          |
|-----------|----------|--------------------------|
| 1. 黄褐色    | 2.5Y 5/3 | シルト 微細なマンガンが全体に広がる       |
| 2. オリーブ褐色 | 2.5Y 4/3 | シルト 炭化物含む、微細なマンガンが全体に広がる |
| 3. 黄褐色    | 2.5Y 5/3 | シルト 土器片含む、微細なマンガンが全体に広がる |

第359図 SD1005土層断面実測図



第360図 SD1005出土遺物実測図

### 溝 SD1006（第361図）

01年度3区の南部に位置する、SD1005とほぼ平行に並ぶ東西方向の溝である。残存長13m、幅50～120cm、深さ14cmを測る。断面はレンズ状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土はマンガンを含む黄褐色シルト、マンガンを含むオリーブ褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器であるが、実測可能なものはほとんどなかった。

### 出土遺物（第362図）

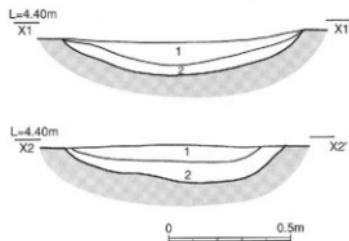
749は瓦質の銷または釜の脚部である。断面円形状を呈する。

### 溝 SD1008（第363図）

01年度3工区の北部に位置する、東西方向の溝である。残存長5.2m、幅40～50cm、深さ14cmを測る。断面は逆台形状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土はマンガン粒を含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器、鉄滓等である。

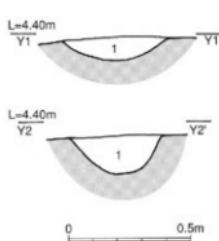
### 出土遺物（第364図）

t216は鉄滓・スラッガである。幅は53.5mmである。



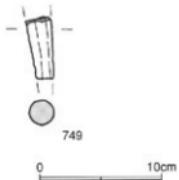
1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト 微細なマンガンを全体に含む  
2. オリーブ褐色 2.5Y 4/3 シルト 微細なマンガンを全体に含む

第361図 SD1006土層断面実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
微細なマンガン粒含む

第363図 SD1008土層断面実測図



第362図 SD1006出土遺物実測図



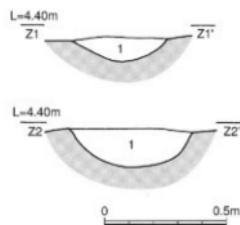
第364図 SD1008出土遺物実測図

### 溝 SD1009（第365図）

01年度4区の南部に位置する、東西方向の溝である。残存長5.0m、幅40～60cm、深さ16cmを測る。断面はレンズ状であり、東端、西端は調査区外にかかる。埋土はマンガン粒を含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器、瓦質土器であるが、実測可能なものはなかった。

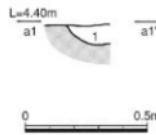
### 溝 SD1010（第366図）

01年度4区の東側側溝に添って位置する、南北方向の溝である。SD1008, SD1009とはほぼ垂直に交わる。残存長14.5m, 幅20~30cm, 深さ8cmを測る。断面は半U字形状であり、南端は調査区外にかかる。埋土はマンガン粒、炭化物を含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器であるが、実測可能なものはなかった。



1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
微細なマンガン粒含む

第365図 SD1009土層断面実測図



1. 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト  
微細なマンガン粒・炭化物を含む

第366図 SD1010土層断面実測図

### 土坑

#### 土坑 SK1001（第369図）

01年度区3区の北西部、H-7グリッドで検出された遺構である。長軸126cm、短軸70cm、深さ24cmを測り、平面形が隅丸長方形を呈する。埋土はマンガン粒、炭化物、鉄分、焼土（褐色）、骨片を含む灰オリーブシルトを基調としている。炭化物、焼土の広がりが見られる。出土遺物は土師器、瓦質土器、鉄器等であるが、実測可能なものは鉄器のみであった。

#### 出土遺物（第367図）

t 217は鉄器である。器種は釘である。

#### 土坑 SK1002（第370図）

01年度区3区の北東部、I-9, J-9グリッドで検出された遺構である。長軸220cm、短軸90cm、深さ40cmを測り、平面形が三角形を呈する。埋土はマンガン粒を含む灰黄色シルトを基調としている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器である。

#### 出土遺物（第368図）

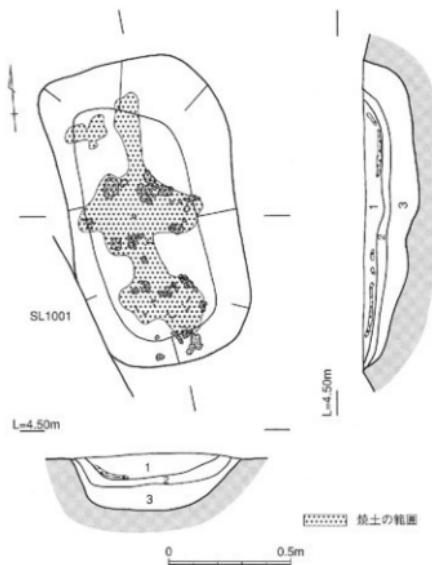
750は白磁の八角皿である。体部内縁に立ち上がり、断面方形状の高台が貼り付けられている。内外面に白色の釉を施している。



第367図 SK1001出土遺物実測図

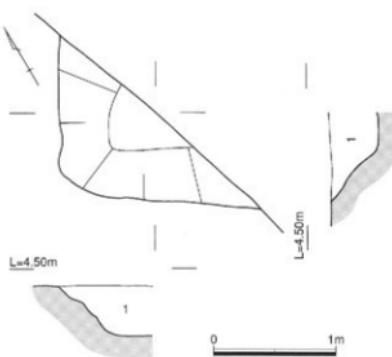


第368図 SK1002出土遺物実測図



1. 灰オリーブ色 5Y5/2 シルト  
塊粒のマンガン粒、鉄分・骨片、底部に炭化物(1.5cm位)を含む。  
粘土(褐色 7.5YR 4/4)を約30%程含む
2. 灰オリーブ色 5Y5/2 シルト  
炭化物を微量に含む、マンガン・鉄分を含む
3. 灰オリーブ色 5Y4/2 シルト マンガン・鉄分を含む

第369図 SK1001実測図

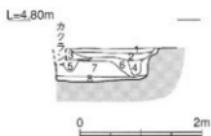
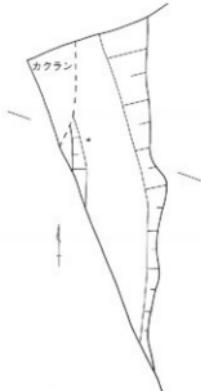


1. 灰黄色 2.5Y6/2 シルト 1~3mmの大マニガン粒を含む

第370図 SK1002実測図

### 池・沼状遺構

池・沼 SL1001 (第371図)



1. にぶい黄褐色 10YR 5 / 4 シルト 塗物を含む
2. 褐色 10YR 4 / 4 シルト 塗物・炭化物を含む
3. 黄褐色 2.5Y 5 / 4 シルト
4. 褐色 10YR 4 / 6 シルト 塗物・焼土を含む
5. にぶい黄褐色 10YR 5 / 4 シルト 塗物を少量含む
6. にぶい黄褐色 10YR 5 / 4 シルト
7. にぶい黄褐色 10YR 5 / 4 シルト
8. にぶい黄褐色 10YR 6 / 3 粘質土

第371図 SL1001実測図

### 柱穴

柱穴 SP1004 (第373図)

01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸20cm、短軸20cm、深さ16cmを測り、平面形は円形を呈する。埋土はマンガン、鉄分を含む灰オリーブシルト、マンガン粒を含む暗灰黄色シルトである。出土遺物は土師器である。

### 出土遺物 (第374図)

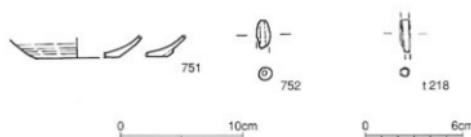
753は土師器杯である。体部外上方に立ち上がり、内外面はナデである。

### 柱穴 SP1009 (第375図)

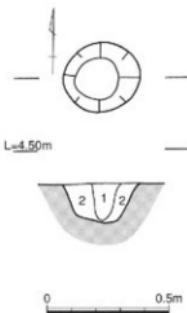
01年度3区の北西部、I-7グリッドで検出された遺構である。長軸30cm、短軸30cm、深さ20cmを測り、平面形は円形を呈する。埋土はマンガン粒を含むオリーブ褐色シルト、マンガンを含む黄褐色シルトである。出土遺物は土師器である。

### 出土遺物 (第376図)

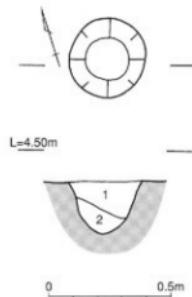
754は土師器釜である。口径27.4cmで、口縁部僅かに内彎ぎみに立ち上がり端部は平坦でやや凹面状、先端は内外面に拡張する。



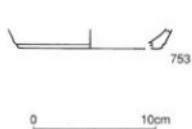
第372図 SL1001出土遺物実測図



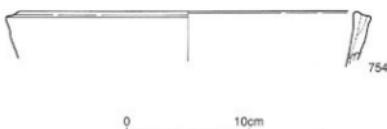
第373図 SP1004実測図



第375図 SP1009実測図



第374図 SP1004出土遺物実測図



第376図 SP1009出土遺物実測図

#### 柱穴 SP1014（第377図）

01年度3区の北東部、J-9グリッドで検出された遺構である。長軸80cm、短軸70cm、深さ34cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土はマンガン粒を含むにぶい黄色シルト、マンガン粒を含む灰黄色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器である。

#### 出土遺物（第379図）

755は土師器杯である。体部外上方に立ち上がる。内外面は回転台ナデ調整で、底部は回転ヘラ切である。

#### 柱穴 SP1018（第378図）

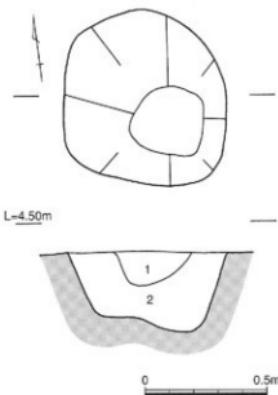
01年度3区の中央西部、H-7・8グリッドで検出された遺構である。長軸50cm、短軸40cm、深さ28cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土はマンガン粒を含むオリーブ褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器、土製品、種子等である。

#### 出土遺物（第380図）

756は土師質の錐状土錐である。厚さは3.2cmであり、断面円形状を呈する。外面はナデで、ススが付着している。

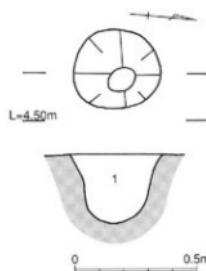
757は土師質の錐状土錐である。長さ4.6cm、穿孔径は0.4cmである。

t 219～t 222は鉄器である。t 219は器種は釘であり、長さは31.0mmである。t 220, t 221, t 222は鉄滓・スラッグである。



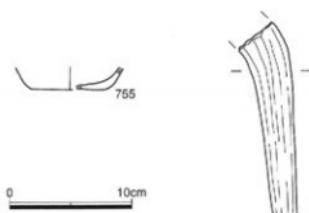
1. にぶい黄色 2.5Y 6/3 シルト  
1 mm大のマンガン粒を含む  
2. 灰黄色 2.5Y 6/2 シルト  
1 mm~3 mm大のマンガン粒を含む

第377図 SP1014実測図

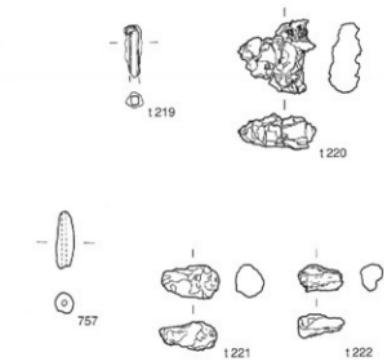


1. オリーブ褐色 2.5Y 4/4 シルト  
マンガン粒含む

第378図 SP1018実測図



第379図 SP1014出土遺物実測図



第380図 SP1018出土遺物実測図

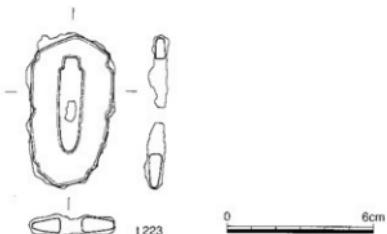
#### (4) 遺構外出土の遺物

ここでは01年度包含層より出土した遺物の中から、重要な遺物のみを紹介する。

##### 古代包含層（第3包含層）出土遺物（第381図）

01年度調査区の古代包含層である第3包含層から出土した、重要な遺物のみを紹介する。

t223は鉄器の鐔である。2区のT-4グリッドより出土した。長さ61.0mm、幅33.5mm、厚さ6.0mm、重量42.5gを測る。



第381図 第3包含層出土遺物実測図

##### 遺構出土遺物の追加

###### 溝 SD3017出土遺物・石帯

758は石帯である。3区のH-8グリッドより出土した。完形で丸綱であり、形状は半円形である。潜り穴式の3孔であり、長さ25.85mm、幅42mm、厚さ8.20mm、重量18.80gを測る。片側表面に縦方向、片側表面には斜め方向の研磨痕がみられる。全体の色は深緑色であり、石帯の石材は緑色片岩であると思われる。（カラー図版1 参照）

00年度の調査区において出土した石帯に統いて、01年度調査区でも石帯が出土した。二つの石帯の出土場所はそれほど離れているわけではなく、15mほどの近さである。また、潜り穴方式というものが共通している。石帯の出土は徳島県下でもそれほど多くはなく、2001年現在25点ほどが出土しているにすぎない。その中でも、金属製（主に銅製）のものが9点、石製のものが16点であり、石製の方がやや多い。今回出土した2点の石帯も、いずれも石製であった。石帯は全出土点数の約1/3、8点が国府近辺から出土している。今回の石帯は、断言はできないが、古町遺跡が国府と何らかの関連があったことを示すものであるのかもしれない。

この2つの石帯は、官衙、都衙等との関わりを研究する上において、貴重な資料になると思われる。



SD3017出土遺物・石帯実測図

### 中世包含層（第2包含層）出土遺物（第382図）

01年度調査区の中世包含層である第2包含層から出土した、重要な遺物のみを紹介する。

t224は金属器で、柄頭である。4区のB-10グリッドより出土した。長さ32.5mm、幅31.0mm、厚さ15.0mm、重量23.949gを測り、鉄の部分を中心にして内外面の回りを銅板で巻いてある。中央の花菱文の部分は銀製で、銅板の上に貼り付けられている（「かぶせ」の技法）と思われる。内部には木片が付着していた。

この遺物に関しては、蛍光X線分析法による材質調査を実施した。その結果、柄頭の本体表面部分では鉄、銅、錫を検出し、装飾部分では鉄、銅、錫、銀、金、ヒ素などを検出した。装飾部分の表面を覆う綠青をメス等で除去すると、銀色の被膜が表出する。被膜は、微量の金を含有する銀と思われ、鍍銀による装飾と考えてよいだろう。ヒ素は青銅に含まれる微量元素と思われる。

これらのことから、この柄頭は鉄芯に青銅の薄板が張られ、花菱文部分は鍍銀による装飾が施されていると考えられる。（カラー図版1 参照）

t225は銅製の鉢である。3区のJ-9グリッドより出土した。長さは21.5mm、頭部の幅、厚さ共に8.5mm、脚部の幅は4.2mm、脚部の厚さは3mmで重量は1.51gである。頭部に金箔の痕跡が見られる。

t226は銭貨である。4区のB-11グリッドより出土した。銅銭の皇宋通寶であり、初鑄年は1038年、北宋時代のものである。直径2.40mm、重量2.64gである。



第382図 第2包含層出土遺物実測図

### 3.まとめ

本遺跡の概要については主な遺構と遺物の項で順次述べてきたが、ここでは遺跡全体から見た遺構や遺物の特色を、近隣の他遺跡の類例等とも比較しながら述べてみたい。なお、本遺跡は古代の遺構、遺物を主体としているため、これらに重点を置きつつ述べてみたい。

今回の調査により、古代の溝によって区画された居住区の一端、および中世の居住区のいくつかが明らかにされ、当該期の集落構造を解明する上で興味深い。

今回の調査で、本遺跡は平安時代初期～室町時代初頭にかけて存続した古代～中世の集落および中世の土壙墓であることが確認された。第1遺構面では掘立柱建物跡が1棟検出され、第2遺構面では掘立柱建物が9棟と、土壙墓が3基検出された。居住区の広がりが推測される。第3遺構面では掘立柱建物跡が3棟、条里制に関係すると思われる溝が4条検出された。

第1遺構面では掘立柱建物跡が1棟検出されたが、それほど規模の大きなものではない。出土遺物については、主に15～16世紀頃の土師器、瓦器、陶器等の中世土器を検出している。また、3区と4区においてほぼ平行に並ぶ5条の溝が検出された。平行して並ぶSD1003～SD1005間、SD1008～SD1009間はそれぞれ約10m間隔で構築されている。

第2遺構面では、主屋と思われる掘立柱建物跡、それらに付属する納屋と思われる掘立柱建物跡があわせて9棟検出された。その規模、構成等は当該期の集落の在り方を検討する上で興味深い。出土遺物については、主に13世紀頃の土師器、瓦器、東播系須恵器、備前陶器等を検出している。また、土壙墓も検出されている。

第3遺構面では、やや大型の掘立柱建物跡が1棟、それより小さめの掘立柱建物跡が2棟検出された。また、00年度調査区におけるほぼ平行に並ぶ南北方向の溝SD3001とSD3003、および01年度2区における南北方向の溝SD3010とSD3012は残存長約30mを測り、主軸方向はおよそN-10°～Wを示す。これは条里制に伴うものと思われる。その2条の溝に直交するように、東西方向の溝がほぼ平行に00年度が7条、01年度2区が5条検出された。

また出土遺物については、主に9～10世紀頃の土師器、赤色塗彩土器、須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、黒色土器等の皿、杯、椀、鍋、釜、環状土鍤等が検出された。

#### (1) 遺構

本遺跡は集落遺跡と位置付けることができそうであるが、出土遺物から見ると普通の集落ではなく、やや官衙、郡衙の性格があるのではないかと思われる。ここでは、すでに述べた遺構の特色を種類ごとに総括するとともに、遺跡全体の集落景観を考えてみたい。

##### 掘立柱建物跡（SA）について

掘立柱建物については、遺構面の検出段階でとらえたものと、整理作業の段階で捉えたものの両方が存在する。第3遺構面の掘立柱建物はすべて遺構面の検出段階でとらえたものである。整理作業の段階でとらえたものは主に第2、第1遺構面のものであり、各ピットの断面、深さ、位置関係、遺物の出土状況、建物の規模や構成等を勘案しながら実測図面上で決定したものである。

そうして、古代の造構面において3棟、中世の造構面において10棟の造構を見つけることができた。しかしながら、ピットや土坑の数から見れば建物は他にもいくつか存在していた可能性は大いにあるが、現状ではこれが精一杯の検討の結果である。時代的には、出土遺物等から判断して古代のものは平安時代頃、中世のものは第2造構面のものが鎌倉時代、第1造構面のものが室町時代頃という時期を考えることができると考える。

#### 溝（SD）について

溝は主に調査区を南北方向に貫くものと、それらと直交し調査区を東西方向に貫くものが検出された。第1次調査区・第3造構面における南北方向の2条の溝（SD3001, SD3003）は残存長約30mを測り、主軸方向はN-10°-Wを示す。同様に、第2次調査区・2区の第3造構面において検出された南北方向の2条の溝（SD3010, SD3012）の主軸方向も、おおよそN-10°-Wを示す。これは条里制に伴うものと思われる。また南北方向の溝からは、東西方向の溝に比べ、より多くの土器片が検出された。水利に関わると同時に地割区画の機能も持つ、この2条の溝と条里の関係についてふれておきたい。

板野町周辺の条里の方向については、服部昌之氏の「阿波条里の復元的研究」（1966）によれば、磁北より9°-10°西へ傾くといわれている。この2条の溝は、まさにその傾きの角度と合致している。よって、古代の時期にはこの地域にもN-10°-Wの統一条里がなされていた可能性がある。

#### 土坑（SK）について

既述のように、本遺跡には第1造構面10個、第2造構面50個、第3造構面87個の土坑が存在する。いくつかの上坑を例にとり、出土状況図を参考にしながら、詳細な検討を加えてみたい。まず、第3造構面の古代を中心とした時代の87個の土坑であるが、南東隅のSK3001は土坑墓の可能性がある。ここからは、とくに多くの遺物が出土した。その他の土坑も、土師器、須恵器、黒色土器等を中心に遺物が出土している。

第2造構面においても多くの土坑が検出され、中には造構内造構（EP）を伴うものもある。土坑は単独で存在するものもあるが、第1次調査区第2造構面中央部では平面約3.5×0.7m、深さ約0.4mを測る長方形の土坑が、長辺側を捕えて5基並ぶという造構配置が認められる。土坑列の主軸はN-5°-WからN-3°-Wを示している。

第1造構面では、数は少ないもののほとんどの土坑から土師器、須恵器を中心に出土遺物が見られる。ただし、実測可能なものは多くない。

#### 池・沼（SL）について

01年度3工区の第1造構面北西部、H-7, I-7, J-7グリッドで検出された唯一の造構である。長軸6m、短軸1.4m、深さ56cmを測り、断面形が長方形状を呈する。出土遺物は土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、陶磁器等である。調査区外に延びるため、全貌は不明である。

#### 柱穴（SP）群について

約690個近くのピットを考古学的にどう捉えたらよいかは難しい問題である。各ピットの遺物や実測図から13棟の掘立柱建物を見つけ出すことができたが、とくに中世の造構面に関する掘立柱建物は、ピッ

トの断面などからある程度の確信はあるものの、規模や建物の構成等で、担当者が違えば多少結論を異なる可能性はあるかもしれない。

全体的に見て、第1次調査区第2遺構面中央部のピットの集中した地区は、同じ場所に頻繁に建物の建て替えが行われた場所と捉えることができると考えている。

前述のように、狭い面積に小規模の建物が集まり、集村化の傾向が強まって來たものと考えられ、何度も建て替えが行われたことが本遺跡のピット群・土坑群を形成したのではないだろうか。

#### 土壤墓（ST）について

第2次調査（01年度）3区の第3遺構面および第2遺構面において、古代および中世の土壤墓が検出された。

時期的には、出土遺物等から第3遺構面のものが9世紀頃、第2遺構面のものが13世紀末から14世紀頃にかけてのものであろうと思われる。埋葬方法は土葬であり、埋葬形態は北頭位仰臥屈葬である。

第2遺構面のST2001からは遺構内埋土中より瓦器碗が5点、そのほかに土師器杯が5点、土師器小皿が4点、青磁碗が2点、須恵器甕、須恵器こね鉢が各1点出土している。瓦器碗については、薄手であり口縁部内彎ぎみに立ち上がり、外上方に延びる。

同じくST2002、ST2003については、土師器、黒色土器、瓦質土器、須恵器等が出土しているが、網片のみで、実測可能なものはST2002の土師器小皿1点のみであった。

第3遺構面のST3001、ST3002については、それぞれ人骨と思われる骨片が出土したが、埋葬形態等、詳しいことは不明である。ST3001からは完形に近い土師器甕が1点出土している。この甕の内部からも骨片が出ており、当初から甕の中に骨片を入れて埋められた可能性がある。

#### 不明遺構（SX）について

第2次調査区の3区第2遺構面において、比較的範囲の広いSXが検出されている。出土状況図からわかるように、SXからは遺物が比較的多く出土した。遺構内にもピット等が存在し、当時の人々の生活に深く関わっていた場所であると考えられる。

#### 古町遺跡の集落景観

本遺跡の周辺は、弥生時代から人々の生活が連続と行われてきた場所で、板野町の歴史を調査していく上で、考古学上たいへん重要な地域である。今回の調査では、平安時代から室町時代にかけての集落の広がりが明らかになり、大きな意義があると考えている。律令政治が解体し、武士が農民を直接支配する封建時代へと入ってくるわけだが、それにつれて農村は集村化の傾向を示すようになる。郡頭駅周辺が政治上・交通上重要な拠点となり、古町にも多くの人々が移り住むようになってきたと考えられるのである。

このような状況の中で、11～13世紀に本遺跡周辺には多くの家が建てられ、集落が広がっていったのだろう。本遺跡の周辺では集村化が加速し、大規模な集落が存在していた可能性がある。また、ほぼ同時期の遺跡と考えられる、近くの黒谷川宮ノ前遺跡では平安時代中期～後期の遺構・遺物が検出され、周辺地域には郡衙の存在が予想される。また、近くの古城遺跡においては12～13世紀頃の遺構や遺物が検出されている。それら周辺の遺跡と関連して考察していけば、本遺跡の位置付けもより一層深まるであろう。

## (2) 遺物

本遺跡の出土遺物は、総点数は多いが実測可能なものはそう多くなく、全出土遺物総数の23%程度である。また、遺構遺物が少なくて包含層遺物が非常に多い。したがって、遺物の検討は実測可能なものを中心に進めてきた。

出土遺物の製作時期は、古代・平安時代を中心にして中世の鎌倉時代、室町時代のおおよそ3期に分けることができる。ここでは、他遺跡出土の類例も参考にしながらこの分類に従って述べていきたい。

### 古代の遺物について

本遺跡からの出土遺物の中で古代のものはもっとも多い割合で含まれている。よって、古代にもこの地で人々の生活が営まれていたことが想像される。遺物から年代を確定できたのは、土師器、須恵器、黒色土器等からで主に9~10世紀頃という年代を導き出すことができた。

### 石帯について

石帯は、腰帯具に取り付けた部品の一つである。今回出土した石帯は潜り穴方式と呼ばれるもので、二つの穴を開けてそれを右の内部でつなげるという方式である。00年度調査区より出土の石帯の石の材質は石英片岩であり、01年度調査区より出土の石帯の石の材質は、緑色片岩であると思われる。

腰帯は役人の身分に関係するものであり、身分の応じてその材質、形や大きさが違うものであったらしい。石帯の石も、石の種類、サイズ等が色々あったようである。今回の石帯の潜り穴方式は、技術の進歩によりなされた、比較的新しい装着方法であるようだ。時代的には8~10世紀頃のものであると思われる。徳島県内では2001年現在、石帯を含め腰帯具関係の出土遺物は、徳島市觀音寺遺跡、矢野遺跡その他全部で20数例しかない。

今回の調査で、古町遺跡から2点の石帯が出土した。古町遺跡は場所的に考えると板野郡駅と国府との間にあたる場所である。郡駅は南海道の拠点ともなっており、交通の要所であった。それで古町の近くには、阿波国のメインストリートがあったと考えられる。よって役人の住まい、あるいは役人が公に集まるような場所等もあったかも知れない。ただ、古町遺跡の遺構から官衙が存在したと即断定することはできないので、とりあえず、役人と関係のある何らかの場所が存在していたのではないかと推測するにとどめておくものとする。

### 金属器について

本遺跡からは、多量の金属器が出土している。そのほとんどすべてが鉄製品であり(一部は銅製品)、その中でも釘のような明確に器種がわかるものも多い。器種の種類としては、釘が圧倒的に多いが、ほかに鉄鎌、タガネ、楔、刀子、柄頭、錠前、銭貨等があった。

また、製鉄の際にできたと思われる鉄の塊、いわゆる鉄滓・スラッグが非常に多かった。このスラッグの多さから考えても、近くに製鉄関係の施設があったことは、十分考えられることである。

### 中世の遺物について

すでに見てきたように、実測できた遺物の3分の1程度は中世のものである。第2遺構面からは、主に13世紀頃の土師器、瓦器、東播系須恵器、備前陶器等を検出している。また、第1遺構面からは主に

15～16世紀頃の土師器、瓦器、陶器等の中世土器を検出している。

#### 出土遺物の様相

以上のように、本遺跡出土の遺物を概観してきたわけであるが、既述の事項をさらにまとめて次の2点に集約化できると考える。

第一に、本遺跡周辺は古代から中世に至るまでの長い間、人々の生活の拠点であったということである。特に平安時代を中心とする古代に属する遺物が多く見られ、当時この地が繁栄していたことを物語っているといえる。

第二に、とくに古代の遺構面より銅鏡、石帶、赤色塗彩土器が出土したこと、比較的大型の掘立柱建物の存在が確認されたことから、官衙と極めて関連の強い遺跡と判断することができる。今回の調査で明らかになったことは、当地域での古代の社会情勢を研究していく上で貴重な資料になると思われる。

本遺跡の調査成果は、板野町の歴史において古町が古くから重要な位置を占めていたことが明らかにされるための、その一端を担ったものであると結論づけたい。

#### （参考文献）

- 岡山真知子「庄遺跡Ⅲ」 徳島県埋蔵文化財センター 1999  
日下 正剛「石井城ノ内遺跡 石井・神山線地区」 徳島県埋蔵文化財センター 1999  
福良 敏「マチ遺跡」 徳島県埋蔵文化財センター 2000  
大西浩正他「黒谷川宮ノ前遺跡」 徳島県教育委員会 1993  
早瀬 隆人「黒谷川宮ノ前遺跡」 徳島県埋蔵文化財センター 1994  
原 劳伸「古城遺跡」 徳島県埋蔵文化財センター 1994  
福家清司他「上成前田遺跡」 徳島県教育委員会 1989  
皆原康夫他「名東遺跡」 徳島県埋蔵文化財センター 1995  
湯浅利彦他「桜ノ岡遺跡Ⅰ・Ⅲ」 徳島県埋蔵文化財センター  
斎藤 忠『日本考古学用語事典』 学生社 1998  
水野 清一・小林 行雄『図解 考古学事典』 東京創元社 1959  
鈴木道之助『石器入門事典』 柏書房 1991  
坪井 清足『日本美術全集1 土器と埴輪』 学習研究社 1980  
東京国立博物館『須恵器集成I (近畿編)』 便利堂 1994  
岡村 道雄『石器の盛衰・歴史発掘1』 講談社 1998  
泰成 秀穂『古代の装い・歴史発掘4』 講談社 1997  
岩永 省三『金属器登場・歴史発掘7』 講談社 1997  
菱田 香郎『須恵器の系譜・歴史発掘10』 講談社 1996  
『日本の歴史博物館・史跡4 奈良・平安時代』 あかね書房 1999  
『日本の歴史博物館・史跡4 錦倉・南北朝・室町時代』 あかね書房 1999  
小和田哲男『日本の歴史3 奈良』 岩崎書店 2000  
小和田哲男『日本の歴史4 平安』 岩崎書店 2000  
小和田哲男『日本の歴史5 錦倉』 岩崎書店 2000  
小和田哲男『日本の歴史6 南北朝・室町・戦国』 岩崎書店 2000  
白石太一郎『古墳時代の工芸』 講談社 1990  
金子 裕之『古代の都と村』 講談社 1989

- 川原 純之『古代から中世へ』 講談社 1992
- 長谷部泰爾・今井 敦『中国の陶磁12 日本出土の中国陶磁』 平凡社 1995
- 網野哲彦他『よみがえる中世8』 平凡社 1994
- 久保駿美朗「吉野川中流域における中世遺跡について」『真朱創刊号』徳島県埋蔵文化財センター 1992
- 森 郁夫『古代の土器1 都城の土器集成』 古代の土器研究会 1992
- 森 郁夫『古代の土器2 都城の土器集成Ⅱ』 古代の土器研究会 1993
- 森 郁夫『古代の土器3 都城の土器集成Ⅲ』 古代の土器研究会 1994
- 『中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会 1996
- 田中 広明『腰帶具の変遷と諸問題』 奈良国立文化財研究所 2000
- 木原 克司『古代吉野川下流域の条里と交通路』 鳴門教育大学研究紀要第13巻 1998
- 服部 吕之『律令国家の歴史地理学的研究』 大明堂 1983



## IV 考察



# 古代の条里・交通路と古町遺跡

## 1 はじめに

律令期の日本には条里制という方格プランがあった。これは、すべての水田・耕地を国家的に支し掌握するための公的な土地表示の様式として採用され、全国各地の平野部で施行された方格プランである。すなわち、1町（約109m）方格の条里地割を基本として、6町方格の里区画を設定し、その内部に1坪～36坪の坪番号を付して数える条里地番法、あるいは条里呼称法を用いて国家的な土地の管理と支配を目指した制度であり、その分布は、北は秋田市近郊<sup>1)</sup>から南は鹿児島県国分<sup>2)</sup>に至る全国的主要平野に広く及んでいる。

阿波国においてもこうした条里地割は郡単位で広く分布している。ただし、阿波条里の分布形態を一言でいえば、断片的散在的で広範囲の連続条里は見いだせない。阿波条里施行の時期は、おおよそ6世紀以降と推定されている。ところで、旧名方郡（名西・名東郡）の鮎喰川流域には矢野遺跡・名東遺跡などの大集落遺跡や気延山古墳群などがあり、弥生時代から古墳時代の全期間を通じて、この地域は阿波国の政治的・文化的中心地を形成してきた。こうした趨勢は律令期にも継承され、国府町付近に阿波国府、国分寺や国分尼寺など当時の政治的・文化的施設が造営された。

都を起点として日本各地に向けて建設された幹線道路（駅路）の1つである南海道の四国内の道筋は、「統日本紀」養老2年（718）5月7日条の「土左国言す。公私の使直に土左を指せども、その道伊予国を経、行程迂遠にして、山谷険難なり。但し阿波国は、郷土相接して、往還甚だ易し。請うらくはこの國に就いて、以て通路と為んと、之を許す」の記事から、養老2年以前には阿波から讃岐、伊予を経て、四国西部を巡って土佐国府に至る道筋（南海道本路）が存在し、養老2年以降『日本後紀』延暦16年（797）正月27日条の「阿波国駅家口、伊予国十一、土佐国十二を廃して、新たに土佐国阿舟川二駅を置く」に見られる旧駅家の廢止まで、奈良時代を通じて阿波から直接土佐に至るもう一つの道筋（南海道支路）があったことが判明する。

いずれにしても、駅路が都と諸国の国府の連絡道路という機能を有するものであることを考えれば、奈良時代あるいはそれ以降も、南海道本路から阿波国府に至る支路が存在しなければならず、さらに、国府と阿波国内の各郡に設置された都衢とを結ぶ交通路としての伝馬路（伝路）もあったはずである。しかし、伝路に関する研究事例はきわめて少なく、参考史料等の検討を通して南海道支路や伝路の道筋を明らかにする必要があるものと思われる。

## 2 板野郡の条里と南海道

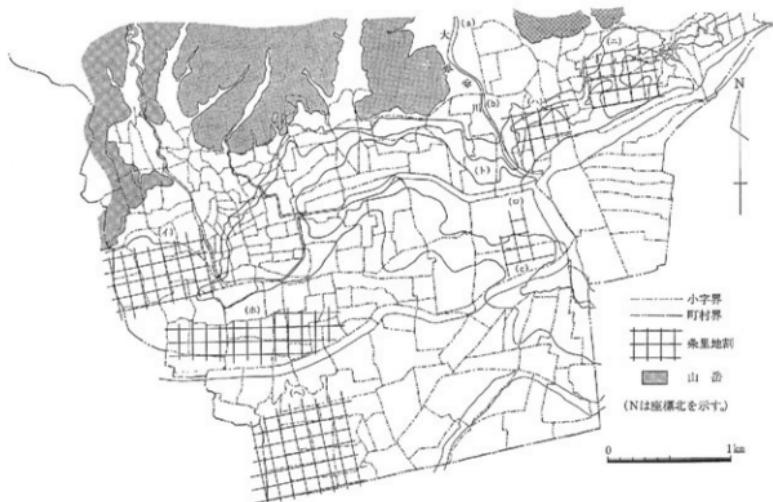
郡内には板野町と上板町を中心にして散在的に条里地割が存在する。分布形態として、板野郡の位置する吉野川下流平野には、正南北方位に対して西に10度傾いた地割（N-10°-W）が存在する。この、畿内諸国に見られるような正南北方位とは異なるN-10°-Wの方位をとることについて、その理由として「古代の灌漑工事としてその最も容易な土地に、応じた地割がなされた」「技術的に簡便な、平坦部から見通し可能な山頂や孤立丘陵を目標に選び、土地の傾斜に即した測量法を採用して方位を決定したため」などの意見があるようだ。やはり、いちばん大きな理由は地形的な条件であろう。条里地割の施行は水利系統を抜きにしては考えられず、水利系統は土地の傾斜を無視しては整備できないことを考

えると、いちおう納得ができる。

そして、条里施行の中心地が政治都市であった国府町付近であったため、名方郡全域には国府町付近の条里を踏襲したN-10°-Wの条里が展開されていると考えられる。

条里地割の分布状況は、図3に示したとおり、東部の旧吉野川や西部の宮川内谷川と阿讃山脈との間の平野部にN-10°-Wの方位を示す地割（イ～ニ）と正方位地割（ホ）が認められ、東南部の上板町との町境に接してN-10°-Wの地割（ヘ）が西に延びている。しかし、これらN-10°-Wの地割は、方向の同一性は見られるものの、地割の連続性は認められない。また、宮川内谷川北岸の正方位地割（ホ）については、郡内の黒谷川下流域での一連の発掘調査でも埋没条里として検出されており、出土遺物等から13世紀前後の時期と推定されている。更に、同じ地域での発掘調査では、（ロ・ハ）に連続する坪界溝なども検出され、10世紀前後の施行年代が想定されている。

鳴門市から板野町に至る南海道の道筋は、日野尚忠氏の条里地割内の余剰帯に基づく考察<sup>3)</sup>によれば、鳴門市木津（石隅駅）から鳴門市大麻町の姫田・池ノ谷を経て非条里地域を直進し、白鳳期の金光明寺廃寺（吉金泉寺）から大字大寺に至る道筋とされており、南海道本路は図3の(b)から(a)の直線ルートを経て大坂峠から讃岐国引田駅に至ったとされる<sup>4)</sup>。また、阿波國に向かう支路に関しては、(b)から(c)を経てまっすぐに条里的余剰帯を南下する道筋を想定している。しかし(c)地割付近には余剰帯は認められない。そこで木原克司氏の考察<sup>5)</sup>では、郡頭駅を図3の(f)の小字郡頭付近に比定しておくものである。小字郡頭の南端は黒谷川に面しており、その名称（郡津）からして水駅としての機能も兼ね備えた駅家と考えられる。ここから水路旧吉野川を通り、そして南北直線古道（名西・名東郡界）に沿つ



第383図 板野郡板野町の小字界と条里

て南下して国府に至ったと考える。また、当該地域の旧吉野川のルートも現在のようなものではなかつたと考えられる。

丸山幸彦氏は、板野郡と、国府が所在する名方郡という吉野川下流域の豊かな二つの地域を結びつける陸上交通路が、阿波の東西を結ぶ水上交通路である吉野川と交差する地点に所在することから、この港を阿波の国府外港とみなしている<sup>6)</sup>。

### 3 古町遺跡と条里との関係

板野町の古町遺跡において、00年度の第1次調査区での古代第3遺構面より検出された南北方向の2条の溝（SD3001, SD3003）は、残存長30mを測るものであるが、その主軸方向はN-10°-Wを示す。これは条里制にともなうものと思われる。掘立柱建物 SA3001もその角度にそって建てられている。水利に関わると同時に地割区画の機能も持つこの2条の溝と条里の関係についてふれておきたい。

板野町周辺の条里の方向については、服部昌之氏の「阿波条里の復元的研究」（1966）によれば、磁北より9~10°西へ傾くといわれている。この2条の溝は、まさにその傾きの角度と合致している。同様のこととは、黒谷川を挟み北側に隣接する黒谷川宮ノ前遺跡において検出された溝状遺構でも見出されている。ここでは、10世紀頃の時期とされるSD1007・SD1016において、磁北より9~10°西へ傾いている。

条里については、板野町古城地区の微高地周辺部の唐園・高樹・大寺地区において条里の区画が一部存在している。古町遺跡周辺の地域は条里制が未確認の地域であるが、今回の第3遺構面の様子を、SDや建物の方向性等を中心に全体的に見れば、古代この地域もN-10°-Wの統一条里が施行されていた可能性が高いのではないかと思われる。ただ、この地割は中世の第2遺構面ではほぼ南北正方位に沿った区画に変換されていることから、古代から中世にかけての間に、何らかの理由で地割の変革がなされたのではなかろうかということが推測される。

そのことについては、早測隆人氏によると13世紀段階において正方位に沿った区画の改変があったためであると考えられている<sup>7)</sup>。文献史料（葦頂要略 築倉道文1974・2970・4687）によれば、この時期に当該地域において大規模な開発、開墾を示唆する記述が見られる。当該地域は板西荘の一角に含まれており、また年貢に関する記事では、1222年から1234年の12年間で米、麦等の石高が2倍以上に増加しており、この時期に大規模な荘園の拡大および生産力の向上があったと推測できる。

これらのことから、中世（13世紀）段階において条里方向の変化が生じたものと推測されている<sup>8)</sup>。変化の要因としては、旧条里が埋没した後の再区画あるいは補修改築によるものと考えられる。他府県においても、顕在する条里遺構と重なり合うもの、あるいは全く異なる方向を示す事例が報告されている。

古町遺跡周辺の条里については早測隆人氏の論考<sup>9)</sup>があるが、それによると当該地域の一部において条里地割が施行されたと考えられるものの、条里区画が踏襲されず改変されていることが認められた。このことについては、洪水等による放棄後の再開発を示すものとも考えられるが、しかしまた社会的な背景、たとえば開発に関わる開発主体を含めた広い視野に立った検討をも加えなければならないとしている。

今回の古町遺跡における調査においては、発掘面積の制約から水系や坪並を明らかにすることはできなかった。しかし検出された遺構は徳島県における条里研究に役立つものであることは間違いないなく、今後諸分析の結果および周辺の遺跡との関連、文献、古図など様々な角度から考察していく必要があると思われる。

## 4 古町遺跡の土壙墓について

### (1) 土壙墓の様相

第2次調査（01年度）3区の第3遺構面および第2遺構面において、古代および中世の土壙墓が検出された。

時期的には、出土遺物等から第3遺構面のものが9世紀頃、第2遺構面のものが13世紀末から14世紀頃にかけてのものであろうと思われる。埋葬方法は土葬であり、埋葬形態は北頭位仰臥屈葬である。

第2遺構面のST2001からは遺構内埋土中より瓦器碗が5点、そのほかに土師器杯が5点、土師器小皿が4点、青磁碗が2点、須恵器甕、須恵器こね鉢が各1点出土している。人骨についての所見であるが、高齢（60歳ぐらい）の男性で、自然死したものと推測される。また、骨より算定した身長は153～155cm前後であり、きれいな歯ではなく、生存中にほとんどの歯は脱落していたものと思われる。

同じくST2002、ST2003については、土師器、黒色土器、瓦質土器、須恵器等が出土しているが、細片のみで、実測可能なものはST2002の土師器小皿1点のみであった。

第3遺構面のST3001、ST3002については、それぞれ人骨と思われる骨片が出土したが、埋葬形態等、詳しいことは不明である。ST3001からは完形に近い土師器甕が1点出土している。この甕の内部からも骨片が出てきており、当初から甕の中に骨片を入れて埋められた可能性がある。

#### ①遺構の形態

土壙墓は隅丸長方形、長辺円形を呈する。このような土壙の形態は土葬で木棺を使用するか、あるいは脚を折り曲げた形で葬る屈葬であることを示すものと考えられる。

規模は長軸120～160cm、短軸54～120cmの範囲におさまる。人間の背丈から考えてやや小さめの感があるが、これは埋葬する際に屈葬形態が一般的であったことを示唆するものであろう。

土壙の方向については、長軸は北に方位（南北）をとるように構築されている。墓の方位は北を意識したものばかりでなく、屋敷地、建物の方向、条里の方位あるいは土地の形状等の状況も、墓の方向といううるものに大きく影響を与える要素であると考えられる。

土壙墓の形態については、土壙墓を作る集団（村落の構成集団）が主体的にその形態を選択することにより、葬送墓制の地域色を成立させる要因となったと想定できよう。

#### ②副葬品の埋納形態

ST2001は副葬品として床面より瓦器碗が5点、土師器杯が5点、土師器小皿が4点ほど出土している。いずれも被葬者の頭部付近に並べて置かれている。

ST2002は遺構内埋土中より土師器小皿が出土している。出土層位は遺構内埋土1層中であることから、埋葬時の儀式に使用した物を埋置あるいは廃棄した可能性が高い。

ST2003は遺構内埋土中より土師器、黒色土器が出土している。出土層位は遺構内埋土3層のうち第1層と第3層であることから、埋葬時の儀式に使用した物を埋置あるいは廃棄した可能性が高い。

ST3001は遺構内埋土中より土師器甕が出土している。出土層位は遺構内埋土3層のうち第2層であることから、埋葬時の儀式に使用した物を埋置あるいは廃棄した可能性が高い。

ST3002はとくに主だった出土遺物はみられない。

### (2) 副葬品（供獻土器）の器種構成

墓、特に単独で造立された土壙墓で普遍的に埋納されているのは、椀、小皿等の供膳具形態が主体である。これらの遺物が土壙墓（土葬墓）に収められる背景には、それらに何らかの意義があるものと考えられる。これらの供膳具は基本的に日々の食事に用いられていることから、日常的に人間と接触する、きわめて身近な品物（愛用品）であるという点に集約される。つまり、中世（前期）においては土壙墓（土葬墓）に収められる品物は、被葬者が生前に使用した、身体に最も近い品物であったと考えることができよう。それらが葬送儀礼の過程で用いられ、死者（被葬者）とともに土壙墓（土葬墓）に収められたのである。ただし供膳具はひとつの土壙墓（土葬墓）でも複数の位置から出土する場合があり、さらに多様な構成をもって出土することから、葬送儀礼に関連する墓前祭祀あるいは別の用途も考えられる。

古町遺跡においては、供献される椀形態に瓦器椀を用い、土師質の小皿を数点をもって供献行為を行ったものと考えられる。こうした葬送儀礼に関与する人物たちは、おそらく聖と呼ばれた遊行の僧たちであろう。当時の庶民の葬送には、仏教が次第に影響力をもって浸透していくものと考えられ、仏教以前の伝統的な葬法・習慣といったものを習合しながら定着していったのである。土壙墓から出土する品物の形態はおそらく、こうした共通する作法に則り、死者の縁者に命じて供献に必要な品々を集めさせた結果と考えられる。また、椀形態以外の土師質土器小皿などの数量は、死者に関連する人々の数あるいは祭祀行為の優劣の差によるものと思われる。

13世紀代になると輸入陶磁器が村落（集落）一定のブランド価値をもって流通するようになってくる。すると、耐久性に優れた陶磁器が土器に変わり、死者と共に土壙墓（土葬墓）に収められるようになるとなる。しかしながら、古町遺跡においてはいずれの土壙墓からも輸入陶磁器は出土していない。このことは、階層や性別による差異による結果とは考えにくく、他の要因としては当該期、当該地域（吉野川下流域）における葬送墓制上の習慣の相違と考えられ、地域性を示すものであると捉えられよう。

### (3) 墓域の形成（変容）

古町遺跡の墳物群は、中世のものに関してはその規模等から、掘立小屋のような簡略な構築物であったと思われる。そして、河川の氾濫等が原因での集落の発達後、墓域（小規模集団墓地）として変化していったのではないかと思われる。そのことは、集落を構成する集団の性格や階層性を示すものもある。

小規模な集団墓地は平安時代末期に出現すると考えられているが、本格的な集団墓地の形成は鎌倉時代前期以降のことである。中世集団墓地が形成される以前は、特定の支配階層が造墓を行っていたと考えられている。鎌倉時代から南北朝時代における墓地の増加は、淨土信仰の普及とあいまって、古代的な制度や思想の崩壊から生み出された中世的な論理構造によって、初めて可能になったといえよう。新しい墓地の出現は、平安時代の整った墓地が貴族や僧侶などの限られた人々のものであったのと比較すれば、大きく被葬者の層が拡大されるようになったと考えられる。それは庶民の墓とは必ずしも断言できないにしても、墓地の増加と被葬者層の拡大は、庶民の墓が成立する延長線上にあると考えてよいだろう。

古町遺跡の土壙墓群は、造墓権が拡散し、富裕農民層（有力名主・在地武士層）の台頭とそれらの地縁的・懇親的結合により、新興の小領域支配者が一定共通の墓域を設定し、集団化（悲墓）するようにな

る前段階頃と捉えられるのではないだろうか。

以上、古町遺跡01年度調査区を中心にして主に13世紀頃の供膳具形態および土壙墓群からみた本遺跡の葬送墓制の様相について予察的に述べてきた。しかしながら、このような状況は限られた遺跡、限られた地域、限られた時期に行われたものの一端であるかもしれないため、当該期の様相を総合的に示すものではない。

また、集団墓地のもつ意味、つまり民衆の精神的背景については言及できなかっただし、当該期の吉野川の水運等の地理的条件等、まだまだ今後の発掘調査により明らかにされなければならない課題が多いが、古町遺跡の成果が、古代から中世への土器様相の成立過程および葬送墓制上における中世社会構造を解明していくための一助となれば幸いである。

## 5 おわりに

条里制度を中心にして古町遺跡を考察してきたが、この遺跡の場所は北東約300mに古城遺跡、約700mには黒谷川郡頭遺跡、また北西約800mに黒谷川宮ノ前遺跡、約700mの地点には板西城跡が所在する板野町内でも有数の遺跡集中地帯の一角を占める。そしてこれまで述べたように、郡頭駅が近くにあり交通の要所に近く、南海道の支路のコースに近いことなど、古町遺跡近辺は古くから地域の人々にとって重要な地域であったと考えられる。

出土遺物からは石笛や銅鏡、赤色塗彩上器等、役人に関係するものも見られ、また比較的大型の掘立柱建物の存在が確認されたことなどから、この地域が古代当時に官衙または郡衙に關係する、あるいは役人に關係するような何らかの施設があったのではないかと推測される。今回の調査では官衙の確定とまではいかなかったものの、それに関連の強い遺跡であることが示されたのではないかと思われる。今後、古代の社会情勢を研究していく上で貴重な資料になると思われる。

### (注)

- 1) 虎雄 優哉「秋田市近郊の条里製造構一条單制施行の北限設定の試みー」 日本上古史研究4巻3号 1960
- 2) 米倉 二郎「条里的南限—肥後及び大隅の条里ー」 史学研究66
- 3) 日野 尚志「南海道の駅路—阿波・讃岐・伊予・土佐四国の場合」 歴史地理学紀要20 1978
- 4) 日野尚志氏は郡頭駅を図3の(a)~(b)間に位置すると推定している。
- 5) 木原 克司「古代吉野川下流域の条里と交通路」 鳴門教育大学研究紀要第13巻 1998
- 6) 丸山 幸彦「古代の大河川下流域に於ける開発と交易の進展—阿波国新島庄をめぐって」 徳島大学総合科学部紀要2 1989
- 7) 早瀬 隆人「吉野川下流域における条里地割の継続性について 一黒谷川宮ノ前遺跡に見られる区画溝を中心としてー」 徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.2 1991
- 8) 注4)
- 9) 注4)

(参考文献)

- 1) 原 芳伸「古城遺跡」 德島県埋蔵文化財センター 1994
- 2) 木原 克司『古代吉野川下流域の条里と交通路』 崇文教育大学研究紀要第13巻 1998
- 3) 服部 昌之『律令国家の歴史地理学的研究』 大明堂 1983



出土遺構一覽表  
出土遺物觀察表



# 第1次（2000年度）調査 奈良・平安時代 遺構一覧表

第1表 据立柱建物一覧表

遺構名	検出地点	規 模			面積 (m <sup>2</sup> )	棟方向	出 土 遺 物
		間数	梁間(m)	桁行(m)			
SA3001	J-6・7・8 K-6・7・8	2 × 3	4.80	7.70	36.96	N-82°-E	土師器、須恵器、黑色土器

第2表 溝状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			断面形	出 土 遺 物	
		長さ	幅	深さ			
SD3001	L-6, M-6, N-6 O-6, P-5-6 Q-5, R-5	3100	90	22	逆台形	土師器、須恵器、黑色土器、陶磁器、土製品 銅鏡片	
SD3002	Q-4・5・6	1200	90	24	レンズ状	土師器、須恵器、黑色土器、陶磁器	
SD3003	L-7, M-7, N-7 O-6・7, P-6 Q-6, R-6	2900	120	20	レンズ状	土師器、須恵器、黑色土器、陶磁器、土製品 鉄器	
SD3004	P-4・5・6・7	1200	80	22	レンズ状	土師器、須恵器	
SD3005	欠番						
SD3006	L-6, M-6, N-6	950	80	24	レンズ状	土師器、須恵器、瓦質土器	
SD3007	J-6, K-6, L-6 M-6, N-6	1700	70	16	レンズ状	土師器、須恵器、黑色土器、鉄器	
SD3008	M-5, M-6 M-7・8, N-7・8	1200	90	24	逆台形	土師器、須恵器、土製品	
SD3009	M-5・6・7・8	1250	70	26	逆台形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器	
SD3010	M-5・6・7・8	1250	60	20	逆台形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、土製品	
SD3011	L-6・7・8	1250	50	30	U字状	土師器、須恵器、瓦質土器、土製品	
SD3012	K-6・7 L-6・7・8	1200	70	22	レンズ状	土師器、須恵器、土製品	

第3表 土坑状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平 面 形	出 土 遺 物	
		長軸	短軸	深さ			
SK3001	J-9, K-9	(130)	(110)	54	半椭円形	土師器、須恵器、石幣	
SK3002	K-8・9	(110)	(86)	38	半椭円形	土師器、須恵器、黑色土器	
SK3003	K-8・9	96	(26)	40	半椭円形	土師器、須恵器、陶磁器	
SK3004	J-8	104	(74)	20	半椭丸方形	土師器、須恵器	
SK3005	J-7, K-7	170	34	24	椭円形	土師器、黑色土器	
SK3006	欠番						
SK3007	L-7	132	46	12	椭円形	土師器、須恵器	
SK3008	M-6	100	68	30	椭円形	土師器、須恵器	
SK3009	M-8	140	44	20	椭円形		
SK3010	L-8	84	82	20	円形	土師器	
SK3011	L-6	114	84	20	椭円形	土師器、須恵器	

第4表 柱穴遺構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平 面 形	出 土 遺 物	
		長軸	短軸	深さ			
SP3001	Q-5	36	34	24	円形	土師器	
SP3002	Q-6	50	46	40	円形	土師器、須恵器	
SP3003	P-6	34	30	8	円形		
SP3004	P-7	34	(22)	26	半円形		
SP3005	P-6・7	40	38	18	円形	土師器、須恵器	
SP3006	P-6	46	38	22	椭円形		
SP3007	P-5	68	68	48	円形	土師器	
SP3008	P-6	26	26	42	円形		

第5表 柱穴造構一覧表(2)

造構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP3009	P - 6	44	34	36	楕円形	土師器、須恵器
SP3010	P - 6	50	40	34	楕円形	土師器
SP3011	O - 7	82	58	22	楕円形	土師器、須恵器
SP3012	O - 6	90	56	32	楕円形	土師器、須恵器
SP3013	O - 5	56	44	52	楕円形	土師器
SP3014	N - 5, O - 5	48	38	28	楕円形	土師器
SP3015	欠番					
SP3016	N - 7	30	28	24	円形	
SP3017	N - 7	82	36	10	楕円形	
SP3018	M - 6	40	38	20	円形	須恵器
SP3019	M - 7	52	40	32	楕円形	土師器
SP3020	M - 6	50	46	26	円形	土師器
SP3021	O - 6	40	38	26	円形	
SP3022	M - 7	40	30	12	楕円形	
SP3023	M - 7	34	28	18	楕円形	土師器
SP3024	欠番					
SP3025	M - 6	38	36	18	円形	土師器
SP3026	L - 6	50	42	16	楕円形	土師器
SP3027	L - 6	56	54	38	円形	土師器、須恵器
SP3028	L - 6	74	50	36	楕円形	土師器
SP3029	L - 8, M - 8	36	32	26	円形	
SP3030	L - 8, M - 8	56	56	52	円形	土師器、須恵器
SP3031	L - 7	44	36	26	楕円形	
SP3032	L - 7	36	26	22	楕円形	
SP3033	L - 7 - 8	66	56	26	楕円形	土師器
SP3034	L - 8	46	36	26	楕円形	土師器
SP3035	L - 6 - 7	66	50	52	楕円形	土師器、須恵器
SP3036	L - 7	20	20	20	円形	
SP3037	L - 7	46	40	16	楕円形	土師器
SP3038	L - 7	30	28	22	円形	
SP3039	L - 7	44	30	10	楕円形	
SP3040	L - 7	36	24	6	楕円形	
SP3041	L - 7	32	26	10	楕円形	
SP3042	欠番					
SP3043	L - 7 - 8	42	40	28	円形	
SP3044	K - 7, L - 7	40	32	16	楕円形	土師器
SP3045	L - 6	40	34	16	楕円形	土師器
SP3046	K - 8	78	72	46	隅丸方形	土師器、須恵器
SP3047	K - 8	24	24	20	円形	
SP3048	K - 8	36	26	16	楕円形	須恵器
SP3049	K - 8	48	46	38	円形	土師器、須恵器、黒色土器
SP3050	K - 7	70	60	50	隅丸方形	土師器、須恵器、陶磁器
SP3051	K - 7 - 8	34	26	18	楕円形	土師器
SP3052	K - 7	56	40	40	楕円形	土師器、須恵器
SP3053	K - 7	54	52	36	隅丸方形	土師器、須恵器、黒色土器
SP3054	K - 7	48	32	24	楕円形	土師器、黒色土器
SP3055	K - 7	48	36	40	楕円形	土師器、須恵器
SP3056	K - 7	40	36	16	円形	土師器、黒色土器
SP3057	K - 6	68	56	38	隅丸長方形	土師器
SP3058	K - 6	44	38	14	隅丸方形	
SP3059	K - 7 - 8	96	30	20	楕円形	土師器
SP3060	K - 8	80	74	50	楕円形	土師器、須恵器
SP3061	欠番					

第6表 柱穴遺構一覧表(3)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP3062	K-7	22	22	38	円形	
SP3063	K-6	80	64	48	隅丸長方形	土師器、須恵器
SP3064	K-8	48	40	18	楕円形	土師器
SP3065	K-7	36	28	20	楕円形	土師器
SP3066	J-7	80	70	74	隅丸方形	土師器、須恵器、黒色土器
SP3067	J-7	70	56	42	楕円形	土師器、須恵器
SP3068	J-6・7	70	54	36	隅丸長方形	土師器、須恵器、黒色土器
SP3069	J-7	38	36	28	円形	
SP3070	J-7・8	66	60	40	隅丸方形	土師器、須恵器
SP3071	J-7	34	28	28	楕円形	土師器
SP3072	L-7	52	34	34	楕円形	土師器
SP3073	L-6	62	52	20	楕円形	土師器
SP3074	K-6, L-6	76	64	12	楕円形	土師器、須恵器
SP3075	K-6	40	34	20	円形	
SP3076	K-8	36	34	46	円形	土師器
SP3077	R-4・5	(36)	36	14	円形	土師器
SP3078	Q-4	44	36	26	楕円形	土師器
SP3079	Q-4	20	18	14	円形	
SP3080	P-5	34	32	14	円形	土師器
SP3081	O-5	116	54	36	楕円形	土師器、須恵器
SP3082	K-7	36	26	32	楕円形	土師器
SP3083	J-7・8	30	24	16	楕円形	
SP3084	K-7	72	66	30	隅丸方形	
SP3085	J-8, K-8	76	74	42	隅丸方形	土師器、須恵器
SP3086	J-7	30	30	25	円形	土師器

# 第1次（2000年度）調査 鎌倉時代 遺構一覧表

第7表 挖立柱建物一覧表

遺構名	検出地点	規 模			面積 (m <sup>2</sup> )	棟方向	出土 遺物
		間数	基闊(m)	桁行(m)			
SA2001	M-5, N-5, O-5	1×3以上	(2.70)	9.50	25.65以上	N-10°-W	土師器、須恵器
SA2002	K-6・7, L-6・7	2×3	5.00	6.00	30.00	N-80°-E	土師器、須恵器、瓦質上器、石器
SA2003	K-6・7 L-6・7	2×2	4.50	4.70	21.15	N-85°-E	土師器、須恵器、黒色土器
SA2004	K-6・7 L-6・7	1×2	2.20	4.60	10.12	N-90°-E	土師器、須恵器、瓦質土器、石器
SA2005	L-6・7	1×2	2.00	4.50	9.00	N-70°-E	土師器、須恵器、瓦質土器、石器

第8表 溝状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			断面形	出土 遺物
		長さ	幅	深さ		
SD2002	M-5・6・7	860	50	10	逆台形	土師器
SD2003	L-7・8	490	88	12	レンズ状	土師器

第9表 土坑状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平 面 形	出土 遺物
		長軸	短軸	深さ		
SK1001	N-7	90	80	20	円形	
SK2001	O-6	370	60	20	長方形	土師器、瓦質土器
SK2002	N-6	340	94	30	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器
SK2003	M-6, N-6	370	76	22	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SK2004	L-6, M-6	336	94	40	長方形	土師器、須恵器
SK2005	K-6, L-6	(318)	78	26	長方形	土師器、須恵器
SK2006	M-5, N-5	120	42	32	隅丸長方形	土師器
SK2007	M-7, N-7	376	84	18	長梢円形	土師器、黒色土器
SK2008	M-7, M-8	180	46	8	長方形	
SK2009	L-7	274	68	30	長方形	土師器、黒色土器、須恵器
SK2010	K-6・7, L-6・7	260	70	34	長方形	土師器、須恵器、陶磁器、土鍤
SK2011	K-8	120	78	14	隅丸長方形	土師器、瓦質土器
SK2012	L-7	354	92	24	隅丸長方形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦質土器
SK2013	K-6, K-7	220	96	14	橢円形	土師器、黒色土器、陶磁器
SK2014	J-7, K-7	296	66	26	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器

第10表 柱穴遺構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平 面 形	出土 遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP2001	Q-6	32	30	22	円形	
SP2002	P-6	24	24	24	円形	土師器
SP2003	Q-5	34	24	12	橢円形	
SP2004	P-5, Q-5	30	24	20	円形	
SP2005	P-5	30	28	18	円形	
SP2006	P-5	26	26	20	円形	
SP2007	P-6	28	26	12	円形	
SP2008	P-5・6	26	26	10	円形	
SP2009	P-5	22	18	8	円形	
SP2010	P-6	32	28	20	円形	
SP2011	P-4	40	34	24	円形	
SP2012	O-5	32	24	14	橢円形	
SP2013	O-5	28	26	14	円形	
SP2014	L-7	(34)	(28)	42	隅丸方形	

第11表 柱穴遺構一覧表(2)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP2015	O-5	42	40	26	隅丸方形	須恵器
SP2016	O-5	44	42	20	円形	
SP2017	O-5	46	44	32	円形	
SP2018	O-5	20	20	8	円形	
SP2019	O-6	28	24	16	円形	土師器、須恵器
SP2020	O-6	36	34	30	円形	土師器
SP2021	O-7	28	24	16	円形	
SP2022	O-6	26	26	16	円形	
SP2023	O-7	40	38	22	円形	
SP2024	O-7	62	44	22	楕円形	
SP2025	O-7	34	30	10	隅丸方形	土師器
SP2026	O-6	30	28	10	円形	
SP2027	N-6	28	26	12	円形	
SP2028	N-5	48	48	32	円形	
SP2029	N-5	36	36	10	円形	
SP2030	N-5	26	24	10	円形	
SP2031	N-5	38	32	10	円形	
SP2032	N-5	40	36	30	隅丸方形	土師器
SP2033	N-6	36	36	20	円形	
SP2034	N-6	36	32	16	円形	
SP2035	N-6・7	36	30	12	円形	
SP2036	M-6, N-6	42	30	26	隅丸方形	土師器、須恵器
SP2037	M-5	40	36	28	円形	土師器
SP2038	M-6	22	20	10	円形	
SP2039	M-7	36	28	14	楕円形	
SP2040	M-8	44	42	20	隅丸方形	
SP2041	M-8	34	26	10	楕円形	
SP2042	M-8	38	36	16	円形	土師器、炭化物
SP2043	M-7	28	28	34	円形	土師器
SP2044	M-7	46	42	14	隅丸方形	
SP2045	M-7	32	28	12	隅丸方形	土師器
SP2046	M-6	36	36	24	隅丸方形	土師器、須恵器
SP2047	L-6, M-5・6	52	(22)	24	半椭円形	
SP2048	L-6	20	20	20	円形	土師器
SP2049	L-6	28	24	20	円形	土師器
SP2050	L-6	36	30	56	方形	土師器
SP2051	L-6	24	24	18	円形	
SP2052	L-6	20	20	12	円形	
SP2053	L-6	42	32	20	楕円形	
SP2054	L-6	32	32	24	円形	土師器、須恵器
SP2055	L-6・7	28	26	22	円形	
SP2056	L-6・7	38	32	26	円形	土師器
SP2057	L-7	40	38	26	円形	土師器
SP2058	L-7	(24)	20	20	半椭円形	
SP2059	L-7	(28)	24	28	円形	
SP2060	L-7	24	22	30	円形	土師器
SP2061	L-7, M-7	42	40	36	円形	土師器、須恵器
SP2062	L-7	38	38	34	円形	土師器
SP2063	L-8	36	26	22	楕円形	
SP2064	L-8	34	28	46	楕円形	土師器、黒色土器
SP2065	L-7, L-8	46	44	14	円形	
SP2066	L-7	32	32	14	円形	土師器、瓦質土器
SP2067	L-7	32	30	10	円形	土師器

第12表 柱穴遺構一覧表(3)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP2068	L-7	34	32	30	隅丸方形	
SP2069	L-6	80	36	14	三角形	
SP2070	L-6	24	20	16	楕円形	
SP2071	L-6	28	22	18	楕円形	土師器
SP2072	L-6	32	24	18	楕円形	土師器
SP2073	L-6	20	20	14	円形	
SP2074	L-6	24	24	10	円形	土師器
SP2075	L-6	50	30	44	楕円形	土師器、黒色土器
SP2076	L-6	60	40	36	楕円形	土師器、須恵器
SP2077	L-6	40	34	24	円形	土師器、黒色土器
SP2078	L-6	36	22	14	楕円形	
SP2079	L-6	26	26	8	円形	
SP2080	L-6	36	34	34	円形	
SP2081	L-7	46	36	26	楕円形	土師器
SP2082	K-6	36	30	20	楕円形	
SP2083	K-6	24	24	24	円形	
SP2084	K-6	40	30	34	楕円形	土師器
SP2085	K-6	40	26	18	楕円形	
SP2086	K-6	34	30	46	円形	土師器、須恵器
SP2087	K-6	36	(20)	14	半円形	
SP2088	K-6	56	38	40	楕円形	土師器、陶器
SP2089	K-7, L-7	50	34	32	楕円形	土師器
SP2090	K-7	50	48	54	円形	土師器、須恵器
SP2091	K-6	30	22	10	楕円形	土師器、須恵器
SP2092	K-7	44	44	66	円形	土師器
SP2093	K-7	32	30	20	隅丸三角形	土師器、瓦質土器
SP2094	K-7	50	36	26	楕円形	土師器
SP2095	K-7	36	26	36	楕円形	
SP2096	K-7	32	22	26	楕円形	
SP2097	K-7	64	46	46	隅丸方形	
SP2098	K-7	22	22	12	円形	
SP2099	K-7, L-7	28	20	10	楕円形	
SP2100	L-7	28	26	8	円形	
SP2101	L-7	40	36	12	円形	
SP2102	L-8	34	34	18	円形	
SP2103	L-8	56	32	12	楕円形	
SP2104	L-8	56	50	10	円形	土師器
SP2105	L-7	50	50	6	円形	
SP2106	K-7	28	24	10	円形	
SP2107	K-7	30	22	10	楕円形	土師器
SP2108	L-8	48	46	12	円形	土師器
SP2109	K-8, L-8	60	60	14	円形	土師器
SP2110	K-8	38	28	10	楕円形	
SP2111	K-7	36	24	16	楕円形	
SP2112	K-7	36	30	10	円形	
SP2113	K-6	18	18	8	円形	
SP2114	K-7	32	24	10	楕円形	
SP2115	K-7	28	22	10	楕円形	
SP2116	K-8	54	50	16	円形	土師器、瓦質土器
SP2117	K-8	30	26	20	楕円形	
SP2118	K-8	54	50	10	円形	土師器
SP2119	K-7	24	24	20	円形	土師器、瓦質土器
SP2120	K-6	20	18	16	円形	

第13表 柱穴遺構一覧表(4)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP2121	J-6, K-6	36	34	16	円形	
SP2122	J-6	30	18	14	楕円形	土師器
SP2123	J-6	32	22	12	楕円形	
SP2124	J-7, K-7	34	26	10	楕円形	土師器
SP2125	K-8	34	32	14	隅丸方形	土師器、須恵器
SP2126	J-8, K-8	30	28	16	円形	土師器
SP2127	J-8	36	34	14	円形	土師器、須恵器
SP2128	J-8, K-8	(102)	36	12	楕円形	
SP2129	J-8	24	22	8	円形	
SP2130	J-8	(30)	26	12	円形	
SP2131	J-8	30	28	14	円形	
SP2132	J-8	20	18	4	円形	
SP2133	J-8	34	30	6	円形	土師器
SP2134	J-8	24	(16)	4	半円形	
SP2135	J-7	20	18	8	円形	
SP2136	J-7	36	24	12	楕円形	
SP2137	J-7	24	22	18	円形	
SP2138	J-6	22	22	12	円形	瓦質土器
SP2139	J-6	30	30	16	円形	
SP2140	J-6	22	16	14	楕円形	須恵器
SP2141	J-6, J-7	20	20	10	円形	
SP2142	J-7	26	18	8	楕円形	
SP2143	J-7	24	20	14	円形	
SP2144	J-7	28	26	16	円形	土師器
SP2145	J-7	26	26	16	円形	土師器
SP2146	J-7	20	18	16	円形	
SP2147	J-7	22	20	18	円形	土師器、黒色土器
SP2148	J-7	32	30	16	円形	土師器
SP2149	J-6・7	48	34	26	楕円形	土師器
SP2150	J-7	22	22	12	円形	
SP2151	L-7	36	26	20	楕円形	
SP2152	L-7	24	22	12	円形	
SP2153	L-7	32	26	12	隅丸方形	
SP2154	L-7	32	22	16	隅丸長方形	
SP2155	L-7	22	20	30	円形	瓦質土器
SP2156	L-7	22	22	12	円形	
SP2157	J-7	36	22	10	長方形	
SP2158	M-5	24	22	46	円形	土師器
SP2159	M-6	28	24	18	円形	
SP2160	L-6	46	36	38	隅丸方形	
SP2161	L-8	28	26	14	円形	土師器
SP2162	K-8	38	28	4	楕円形	
SP2163	L-7	18	16	28	円形	
SP2164	J-8, K-8	30	28	16	円形	

# 第1次（2000年度）調査 室町時代 遺構一覧表

第14表 土坑状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SK1001	N-7	142	88	54	隅丸方形	土師器、須恵器、陶磁器
SK1002	M-6	198	134	10	隅丸方形	土師器、須恵器
SK1003	L-6, M-5・6	(230)	(200)	20	半楕円形	土師器、須恵器、金属器
SK1004	L-7, M-7	236	126	28	不整方形	土師器、須恵器、陶磁器、金属器
SK1005	L-7	(296)	(80)	16	半楕円形	土師器、須恵器、金属器
SK1006	K-7	(90)	(36)	14	半楕円形	土師器
SK1007	L-7	58	46	56	楕円形	土師器、瓦質土器、陶磁器、鉄器
SK1008	K-7・8	312	110	56	隅丸方形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、金属器

第15表 柱穴遺構一覧表

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP1001	Q-5	72	66	14	円形	
SP1002	Q-5	80	64	8	楕円形	
SP1003	P-4	40	38	12	円形	
SP1004	P-5	38	34	6	円形	土師器
SP1005	P-6	44	40	10	円形	土師器
SP1006	P-5	52	40	10	楕円形	土師器
SP1007	Q-6	(50)	(24)	18	半円形	
SP1008	P-6	50	42	10	楕円形	土師器
SP1009	P-6・7	38	26	10	楕円形	
SP1010	P-7	(30)	(20)	16	半円形	
SP1011	O-5	36	28	6	楕円形	
SP1012	O-5	44	44	10	円形	
SP1013	O-6	42	38	10	楕円形	
SP1014	O-6・7	36	36	10	円形	
SP1015	N-5	30	30	12	円形	
SP1016	N-5	50	22	16	楕円形	鉄器
SP1017	N-5	34	26	24	楕円形	土師器
SP1018	N-6	40	38	16	円形	
SP1019	N-6	42	40	8	円形	
SP1020	N-6	40	40	12	円形	
SP1021	N-6	32	32	10	円形	
SP1022	N-6	44	44	12	円形	土師器
SP1023	N-6	20	20	8	円形	
SP1024	N-6	32	28	10	円形	
SP1025	N-6	96	38	14	楕円形	土師器、鉄器
SP1026	M-6	52	36	20	楕円形	土師器
SP1027	M-6	24	22	12	円形	
SP1028	M-6	40	36	22	円形	
SP1029	K-7	36	36	26	円形	
SP1030	L-6, M-6	32	30	8	円形	
SP1031	M-7	28	23	10	楕円形	土師器
SP1032	M-7	30	30	10	円形	土師器

## 第2次（2001年度）調査 奈良・平安時代 遺構一覧表

第16表 捩立柱建物一覧表

遺構名	検出地点	規 模			面積 (m <sup>2</sup> )	棟方向	出 土 遺 物
		間数	渠間(m)	幅行(m)			
SA3001	Z-2・3 AA-2・3	2×3	3.70	5.70	21.09	N-85°-E	土師器、黒色土器
SA3002	X-3, Y-3	2×3	3.10	5.0	15.50	N-15°-W	土師器

第17表 溝状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			断面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SD3001	Z-2, AA-2, AB-2	840	60	8	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器
SD3002	Z-2	270	40	10	レンズ状	土師器、須恵器
SD3003	Z-2・3, AA-2	360	40	6	レンズ状	土師器、須恵器
SD3004	Z-2, AA-2	505	45	10	レンズ状	土師器、須恵器
SD3005	X-2, Y-1・2, Z-1・2	1125	50	(14)	半レンズ状	土師器、須恵器
SD3006	欠番					
SD3007	Y-2, Z-2・3	890	60	16	U字形	土師器、黒色土器、須恵器
SD3008	欠番					
SD3009	X-2・3, W-2・3	1580	75	22	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器、骨、土製品
SD3010	T-3, U-3, V-3 W-3, X-2, Y-2 Z-2	3250	120	18	逆台形	土師器、黒色土器、須恵器、鉄器、土製品
SD3011	V-3・4	445	40	15	レンズ状	
SD3012	T-4, U-4, V-3・4 W-3・4, X-3	2150	85	16	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器
SD3013	V-2・3	300	45	15	レンズ状	
SD3014	I-8, J-8・9	1080	120	24	U字形	土師器、須恵器、黒色土器、陶器、石器、骨 土製品、炭化物
SD3015	I-7・8・9	910	80	26	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器、陶磁器
SD3016	H-9, I-9, J-9	950	94	24	U字形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦質土器、陶磁器
SD3017	H-7・8・9, I-9	1350	80	24	U字形	土師器、黒色土器、須恵器、陶磁器、鉄器、土 製品、炭化物
SD3018	G-9・10, H-10	410	78	15	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器、陶磁器
SD3019	F-10, G-10	190	48	14	U字形	土師器、須恵器
SD3020	F-8・9・10・11	1270	50	20	U字形	土師器、黒色土器、須恵器
SD3021	G-9・10	176	54	20	U字形	土師器、須恵器、鉄器、骨
SD3022	H-9, I-9, J-10 G-10, H-10	1000	100	22	逆台形	土師器、須恵器、鉄器
SD3023	H-9・10	500	100	32	U字形	土師器、須恵器、陶磁器、土製品
SD3024	欠番					
SD3025	A B-1・2・3	670	100	40	U字形	

第18表 土坑状遺構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平 面 形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SK3001	A B-2	50	(40)	8	不整形	
SK3002	A B-2	70	45	30	楕円形	土師器、須恵器、黒色土器
SK3003	A A-3, A B-3	(110)	90	12	半楕円形	
SK3004	A A-2	105	65	42	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3005	A A-2	120	40	10	楕円形	土師器、須恵器
SK3006	A A-2	(45)	40	12	楕円形	土師器
SK3007	A A-2	155	120	10	長方形	土師器、須恵器
SK3008	A A-2・3	80	50	10	楕円形	土師器
SK3009	A A-1・2	145	(75)	20	半楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3010	Z-2	70	40	48	楕円形	土師器、須恵器

第19表 土坑状遺構一覧表(2)

遺構名	検出地点	規 模(cm)			平 面 形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SK3011	Z-3, AA-3	85	50	60	楕円形	土師器、須恵器
SK3012	Z-2	165	75	10	楕円形	土師器、黒色土器、鉄器
SK3013	Z-2	250	55	10	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3014	Z-2・3	200	135	12	隅丸長方形	土師器、瓦質土器
SK3015	Y-2	(110)	40	8	半楕円形	
SK3016	Y-3	80	55	12	隅丸長方形	土師器
SK3017	X-2, Y-2	45	30	16	楕円形	
SK3018	X-3	70	40	43	楕円形	土師器
SK3019	W-2, X-2	340	270	38	不整形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦質土器、鉄器、骨
SK3020	X-3	55	(30)	8	半楕円形	土師器
SK3021	X-4	100	55	6	楕円形	
SK3022	W-3	50	35	8	楕円形	
SK3023	V-3	90	45	12	楕円形	
SK3024	T-4	70	45	8	楕円形	
SK3025	Z-2, AA-2	70	45	52	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3026	Y-2	65	35	19	楕円形	
SK3027	欠番					
SK3028	Z-1・2	65	40	16	不整形	土師器
SK3029	X-2	145	25	12	不整形	
SK3030	J-9	(260)	150	30	不整形	土師器、須恵器、黒色土器、陶磁器、炭化物、骨
SK3031	欠番					
SK3032	J-8	130	60	12	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3033	J-8	160	76	20	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器、陶磁器、鉄器
SK3034	I-8, J-8	46	(30)	22	半楕円形	土師器、土製品
SK3035	I-8, J-8	72	68	20	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3036	I-7	(112)	72	8	半楕円形	土師器、須恵器
SK3037	I-7	100	70	44	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦、鉄器、土製品
SK3038	I-7・8	136	56	26	楕円形	土師器、須恵器
SK3039	I-8	62	58	38	楕円形	土師器
SK3040	I-8	(72)	62	64	半楕円形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦
SK3041	I-8	(70)	40	56	半楕円形	土師器、須恵器
SK3042	H-7・8, I-7・8	270	114	22	長方形	土師器、黒色土器、須恵器、陶磁器、鉄器
SK3043	H-8・9	130	70	20	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3044	H-7	180	(120)	20	半長方形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3045	H-7・8	270	160	24	不整形	土師器、須恵器
SK3046	欠番					
SK3047	G-7	52	(34)	28	半楕円形	土師器
SK3048	G-8	100	24	9	楕円形	土師器
SK3049	G-8, H-8	98	50	10	楕円形	土師器、須恵器
SK3050	G-8	84	74	20	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3051	H-8・9	76	54	12	隅丸長方形	土師器、須恵器、土製品
SK3052	H-8・9	400	200	28	長方形	土師器、黒色土器、須恵器、鉄器
SK3053	H-8	190	60	16	楕円形	土師器、須恵器
SK3054	H-8	62	42	18	楕円形	土師器、須恵器
SK3055	H-8・9, I-8・9	140	130	32	隅丸長方形	土師器、黒色土器、須恵器、土製品、鉄器
SK3056	I-9	86	46	16	楕円形	土師器
SK3057	H-9, I-9	138	100	16	楕円形	土師器、須恵器
SK3058	H-9・10	(160)	100	28	半楕円形	土師器、須恵器、陶磁器
SK3059	G-9	80	80	22	隅丸方形	土師器、須恵器
SK3060	G-9	200	148	30	隅丸長方形	土師器、須恵器、瓦器、土製品
SK3061	欠番					
SK3062	F-8, G-8	(190)	96	20	半楕円形	土師器、鉄器
SK3063	G-10	120	90	24	楕円形	土師器、須恵器、骨

第20表 土坑状造構一覧表(3)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SK3064	F-10	144	110	18	長方形	土師器、須恵器、瓦器
SK3065	F-10・11	(120)	(60)	20	半椭円形	土師器、須恵器
SK3066	F-10	150	(120)	22	半長方形	土師器、黒色土器、須恵器
SK3067	G-8	106	(100)	12	半椭円形	土師器、須恵器
SK3068	G-9	(80)	30	18	半椭円形	
SK3069	H-7	38	30	16	不整形	土師器、土製品
SK3070	欠番					
SK3071	J-8・9	120	(52)	39	半椭円形	土師器、須恵器
SK3072	J-8・9	160	90	10	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器、土製品、鉄器
SK3073	H-9	80	78	11	楕円形	土師器、須恵器
SK3074	F-9・10	280	(170)	24	半長方形	土師器、須恵器
SK3075	H-8	44	42	16	隅丸方形	土師器、須恵器
SK3076	H-9	56	(34)	16	半椭円形	土師器、須恵器
SK3077	A B-2	100	50	24	長方形	
SK3078	E-9・10	120	(60)	12	半椭円形	
SK3079	D-9, E-9	(130)	100	6	不整形	
SK3080	D-10	100	50	12	楕円形	須恵器
SK3081	A B-2・3	170	40	24	長方形	

第21表 柱穴造構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP3001	AA-2	25	25	12	円形	
SP3002	AA-2	40	(35)	24	半円形	土師器
SP3003	AA-1・2	60	(45)	8	半円形	
SP3004	AA-1・2	45	45	58	円形	土師器、黒色土器、須恵器
SP3005	AA-2・3	35	35	14	円形	土師器
SP3006	AA-3	60	35	44	楕円形	土師器、須恵器
SP3007	AA-3	55	55	34	円形	
SP3008	AA-2	40	(35)	8	半円形	土師器、黒色土器
SP3009	AA-2	32	30	14	円形	
SP3010	AA-2	(30)	30	12	半椭円形	土師器、黒色土器、須恵器、瓦質土器、陶器
SP3011	AA-3	50	46	50	楕円形	土師器、陶磁器
SP3012	AA-2	30	25	18	楕円形	土師器、陶磁器、土製品
SP3013	Z-2	50	(25)	12	半円形	土師器
SP3014	Z-2	37	35	40	円形	土師器、黒色土器、須恵器
SP3015	Z-2	40	36	18	楕円形	土師器、須恵器
SP3016	Y-2	35	35	20	円形	
SP3017	Y-2・3	47	(35)	14	半椭円形	
SP3018	Y-3	35	35	34	円形	
SP3019	Y-3	35	30	40	楕円形	土師器、須恵器
SP3020	Y-3	37	35	12	円形	
SP3021	Y-2	33	30	18	円形	土師器、鐵器
SP3022	Y-3	25	25	22	円形	
SP3023	Y-3	40	28	10	楕円形	
SP3024	Y-3	37	37	10	円形	
SP3025	Y-2	32	30	18	円形	土師器、須恵器、陶器
SP3026	Y-2	30	30	20	円形	土師器、須恵器、土製品
SP3027	X-2	(40)	30	18	半椭円形	
SP3028	X-3	50	40	8	楕円形	
SP3029	X-3	36	30	20	楕円形	
SP3030	Y-3	22	20	8	円形	
SP3031	X-3	55	36	20	楕円形	土師器

第22表 柱穴遺構一覧表(2)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP3032	X-3	30	30	6	円形	須恵器
SP3033	X-3	30	(20)	6	半楕円形	
SP3034	X-3・4	40	36	22	楕円形	土師器
SP3035	W-2	30	28	18	円形	
SP3036	W-3・4, X-3・4	40	30	10	楕円形	
SP3037	W-3	30	30	8	円形	
SP3038	W-4	25	25	8	円形	
SP3039	W-4	30	30	8	円形	土師器
SP3040	W-4	45	30	12	楕円形	
SP3041	V-4	25	26	6	円形	
SP3042	V-4, W-4	30	28	14	円形	
SP3043	W-2	30	25	10	楕円形	土師器
SP3044	V-2	37	35	16	円形	
SP3045	V-2	35	(20)	18	半楕円形	
SP3046	V-3・4	30	(25)	6	半楕円形	土師器
SP3047	V-4	30	(15)	8	半楕円形	
SP3048	V-4	40	35	12	楕円形	
SP3049	A A-2	25	25	28	円形	土師器、瓦質土器
SP3050	Y-3	20	20	6	円形	
SP3051	Y-3	27	20	10	楕円形	
SP3052	Y-2	25	18	10	楕円形	
SP3053	X-2, Y-2	40	40	10	円形	
SP3054	Y-2	35	30	14	楕円形	
SP3055	V-3	20	20	16	円形	
SP3056	X-2	25	25	12	円形	土師器
SP3057	X-2	40	35	16	楕円形	
SP3058	X-2	(40)	40	16	半楕円形	土師器
SP3059	X-2	35	35	8	円形	
SP3060	X-2	50	(25)	10	半楕円形	
SP3061	X-2	37	35	8	円形	土師器
SP3062	X-2	25	(15)	10	半円形	土師器
SP3063	X-2	35	(25)	11	半楕円形	
SP3064	W-2	(35)	35	12	半楕円形	
SP3065	W-2	(45)	35	18	半楕円形	
SP3066	X-2	30	(25)	10	半楕円形	
SP3067	Y-3	35	35	42	円形	土師器
SP3068	Y-3	30	30	40	円形	土師器、瓦質土器
SP3069	A B-3	45	(25)	34	半円形	土師器
SP3070	I-7	24	(12)	18	半楕円形	石
SP3071	I-7	26	26	16	円形	
SP3072	I-7	40	28	30	楕円形	土師器、須恵器
SP3073	I-7, J-7	36	36	24	円形	土師器、土製品
SP3074	J-7	38	36	30	円形	
SP3075	I-7, J-7	36	36	14	円形	土師器
SP3076	I-7	30	28	30	円形	土師器、瓦質土器
SP3077	J-7	40	(26)	26	半円形	鉄器
SP3078	I-8	28	22	14	楕円形	土師器
SP3079	I-8, J-8	40	34	22	楕円形	土師器
SP3080	J-8	46	46	68	円形	土師器
SP3081	J-8	46	26	12	楕円形	
SP3082	I-8	54	48	15	楕円形	
SP3083	I-8	34	(18)	18	半楕円形	
SP3084	I-8・9	48	34	12	楕円形	

第23表 柱穴造構一覧表(3)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP3085	I-7	56	42	43	楕円形	
SP3086	I-7	28	28	18	円形	
SP3087	I-7	66	56	40	円形	土師器、黒色土器、須恵器、土製品
SP3088	I-8	32	24	38	楕円形	土師器、須恵器
SP3089	I-8	40	34	25	楕円形	土師器、陶磁器
SP3090	I-8	26	20	8	楕円形	土師器
SP3091	I-8	26	26	26	円形	土師器
SP3092	H-7	50	48	50	円形	土師器、須恵器、黒色土器、鉄器
SP3093	H-7	38	36	8	円形	土師器
SP3094	H-8	14	14	8	円形	
SP3095	H-8	30	28	10	円形	
SP3096	欠番					
SP3097	H-8	34	22	9	楕円形	土師器
SP3098	H-8	30	26	10	楕円形	
SP3099	H-8	56	38	30	楕円形	土師器、黒色土器、鉄器
SP3100	H-10	28	22	15	楕円形	
SP3101	欠番					
SP3102	H-7	38	28	26	楕円形	土師器
SP3103	G-7, H-7	26	20	20	楕円形	
SP3104	H-8	64	50	20	楕円形	土師器
SP3105	H-8	60	36	17	楕円形	土師器、須恵器
SP3106	H-8	62	60	46	円形	土師器、須恵器
SP3107	H-8	42	42	12	円形	土師器
SP3108	H-8	30	28	26	円形	土師器
SP3109	I-8	42	34	16	楕円形	
SP3110	I-9	36	34	14	円形	土師器
SP3111	I-9	30	26	16	楕円形	土師器
SP3112	I-9	52	36	12	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SP3113	I-9	70	58	18	楕円形	土師器、須恵器、土製品
SP3114	I-9	36	34	14	円形	土師器
SP3115	I-9	36	32	20	楕円形	土師器
SP3116	I-9	24	21	10	円形	
SP3117	I-9	34	30	14	楕円形	土師器、須恵器
SP3118	I-9	24	24	10	円形	
SP3119	I-9	42	40	14	円形	
SP3120	I-9	22	20	12	円形	土師器
SP3121	H-9	40	40	30	円形	土師器、須恵器、瓦質土器、土製品
SP3122	H-9・10 I-9・10	64	(50)	24	半楕円形	土師器、須恵器
SP3123	H-9	40	30	14	楕円形	土師器
SP3124	H-9	54	36	38	楕円形	土師器、須恵器
SP3125	欠番					
SP3126	H-9	32	32	16	円形	土師器
SP3127	H-9	70	44	30	楕円形	土師器、須恵器
SP3128	H-9	68	(30)	20	半楕円形	土師器、須恵器
SP3129	H-9	36	(34)	16	半楕円形	土師器、須恵器
SP3130	H-9	60	46	50	楕円形	土師器、須恵器、鉄器
SP3131	H-10	40	20	18	楕円形	土師器
SP3132	G-9, H-9	40	30	22	楕円形	土師器、須恵器
SP3133	G-9	38	34	12	隅丸長方形	土師器、須恵器
SP3134	G-9	40	32	36	隅丸長方形	土師器、須恵器
SP3135	H-9	30	30	20	円形	土師器、須恵器
SP3136	H-8	40	20	14	楕円形	土師器
SP3137	H-8	36	(22)	16	半円形	

第24表 柱穴遺構一覧表(4)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP3138	G-8, H-8	40	36	16	円形	土師器
SP3139	G-8	30	30	14	円形	土師器
SP3140	G-8	24	24	8	円形	土師器
SP3141	G-8	32	30	14	円形	土師器
SP3142	G-8	26	26	10	円形	土師器
SP3143	G-8	28	24	6	円形	土師器
SP3144	G-8	46	34	16	椭円形	土師器
SP3145	G-8	24	22	14	円形	土師器
SP3146	F-8	(22)	20	14	半椭円形	
SP3147	F-8	60	40	17	椭円形	土師器
SP3148	F-8	30	30	14	円形	
SP3149	F-9	40	40	26	円形	土師器
SP3150	F-9	38	36	14	円形	上師器
SP3151	G-9	24	24	16	円形	
SP3152	F-9, G-9	64	50	22	椭円形	
SP3153	G-9	26	24	8	円形	土師器
SP3154	G-9	32	28	16	椭円形	
SP3155	G-9	40	32	44	椭円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP3156	G-9	40	40	22	円形	土師器
SP3157	G-9	50	46	18	円形	土師器、須恵器
SP3158	F-9	40	38	8	円形	
SP3159	F-9	44	40	24	椭円形	土師器、黒色土器、瓦質土器
SP3160	F-9	52	52	16	円形	
SP3161	F-9	42	40	50	隔丸方形	上師器、黒色土器
SP3162	F-10	30	28	28	円形	土師器
SP3163	F-10	30	30	16	円形	土師器
SP3164	F-10	44	40	34	円形	土師器
SP3165	F-10	40	36	9	円形	土師器
SP3166	G-10	28	22	24	椭円形	土師器、須恵器
SP3167	H-8	42	36	16	椭円形	土師器、須恵器
SP3168	I-9	34	32	16	円形	土師器
SP3169	G-9, H-9	40	40	14	円形	須恵器、須恵器、陶器
SP3170	H-8	30	30	10	円形	上師器、鉄器、土製品
SP3171	H-8	24	(10)	8	半円形	土師器、須恵器
SP3172	F-9	34	16	8	椭円形	土師器、須恵器
SP3173	J-9	34	34	30	円形	土師器、瓦質土器
SP3174	F-8	50	34	22	椭円形	
SP3175	G-10	20	20	32	円形	土師器、黒色土器、須恵器
SP3176	J-9	32	30	18	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP3177	G-7	50	40	32	椭円形	土師器、黒色土器、陶磁器、鉄器
SP3178	H-8	42	36	16	椭円形	土師器、黒色土器
SP3179	I-8	58	(26)	22	半椭円形	
SP3180	I-7	50	(20)	36	半椭円形	土師器
SP3181	欠番					
SP3182	H-8	46	40	14	椭円形	土師器
SP3183	H-8	26	22	13	椭円形	土師器、黒色土器
SP3184	H-8	50	46	22	椭円形	土師器、須恵器
SP3185	H-8	46	(26)	8	半円形	土師器、瓦質土器
SP3186	欠番					
SP3187	欠番					
SP3188	I-9	40	40	15	円形	
SP3189	E-10	70	40	10	椭円形	
SP3190	D-10	60	30	10	椭円形	
SP3191	D-10	20	15	16	椭円形	

第25表 柱穴遺構一覧表(5)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP3192	D-11	20	20	18	円形	
SP3193	C-10	20	18	16	円形	
SP3194	C-11	10	10	10	円形	
SP3195	欠番					
SP3196	C-11	10	10	12	円形	
SP3197	C-11	10	10	12	円形	
SP3198	E-10	(40)	45	12	半椭円形	

第26表 流路遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			断面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SR3001	B-10・11 C-10・11	500	484	270	レンズ状	土師器、黒色土器、須恵器、瓦器、陶磁器、土製品

第27表 土壙墓遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
ST3001	H-9	100	54	28	半椭円形	土師器、須恵器、陶磁器、骨片
ST3002	F-10・11	(90)	56	16	半長方形	骨片

## 第2次（2001年度）調査 鎌倉時代 遺構一覧表

第28表 挖立柱建物一覧表

遺構名	検出地点	規模			面積 (m <sup>2</sup> )	棟方向	出土遺物
		間数	采問(m)	桁行(m)			
SA2001	I - 8	1×1	2.20	2.30	5.06	N-30°-W	土師器
SA2002	I - 9, J - 9	2×2以上	1.65	(3.00)	4.95以上	N-30°-W	土師器、須恵器、瓦質土器
SA2003	I - 7	1×2以上	(1.90)	(3.60)	6.84以上	N-15°-E	土師器、須恵器、瓦質土器
SA2004	H - 7	1×2以上	(1.52)	(1.82)	2.77以上	N-25°-E	土師器、瓦質土器

第29表 溝状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規模(cm)			断面形	出土遺物	
		長軸	短軸	深さ			
SD2001	T - 3・4・5, U - 5	1200	60	14	レンズ状	土師器、須恵器、瓦質土器	
SD2002	S - 3・4, T - 4・5	1100	60	12	レンズ状	土師器	
SD2003	欠番						
SD2004	H - 7・8	190	36	10	レンズ状	土師器、須恵器	
SD2005	C - 10・11	520	110	20	U字形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器	
SD2006	H - 9	286	44	14	逆三角形	土師器	

第30表 土坑状遺構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規模(cm)			平面形	出土遺物	
		長軸	短軸	深さ			
SK2001	U - 4	68	54	8	楕円形		
SK2002	T - 5	130	20	12	楕円形		
SK2003	J - 9	216	50	14	長方形	土師器、黒色土器、瓦質土器	
SK2004	J - 9	130	80	14	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器	
SK2005	I - 7, J - 7	(86)	66	10	半楕丸 長方形	土師器、須恵器	
SK2006	I - 7	44	(10)	30	半楕円形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、骨	
SK2007	H - 7・8	200	84	54	長楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器、金属器	
SK2007-EPI	H - 8	46	20	26	楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器	
SK2008	H - 8	194	60	28	長方形	土師器、瓦質土器、鉄器、土製品	
SK2009	H - 8	50	34	44	隅丸長方形	土師器、須恵器、瓦質土器	
SK2010	H - 8	52	34	10	隅丸長方形	土師器、須恵器	
SK2011	H - 8・9	60	40	16	楕円形	土師器	
SK2012	H - 8	40	26	44	半楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器、黒色土器	
SK2013	H - 8	100	40	10	楕円形	土師器、陶磁器	
SK2014	H - 7	(50)	(36)	12	半楕円形	土師器、瓦質土器	
SK2015	H - 7・8	74	44	24	楕円形	土師器、瓦質土器	
SK2016	H - 8・9	65	45	14	隅丸長方形	土師器、瓦質土器、陶磁器	
SK2017	H - 9	300	150	24	不整形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、陶磁器、鉄器、石器、土製品、骨	
SK2017-EPI	H - 9	32	32	15	円形		
SK2017-EPI	H - 9	30	20	6	楕円形		
SK2018	F - 8	54	(50)	10	半楕円形	土師器	
SK2019	F - 8	40	(30)	16	半楕円形	土師器、瓦質土器	
SK2020	G - 10	(110)	90	16	半楕円形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、骨、炭化物	
SK2021	欠番						
SK2022	H - 7	96	(40)	8	半長方形	土師器 瓦質土器	
SK2023	J - 8	(160)	60	10	半長方形	土師器	
SK2024	J - 8	244	60	10	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器	
SK2025	I - 7	110	(80)	あり	半楕丸方形	土師器、瓦質土器	
SK2026	I - 7	110	46	10	長方形	土師器	
SK2027	E - 9	64	(40)	20	半楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器	

第31表 土坑状造構一覧表(2)

造構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SK2028	E・9	124	(28)	14	半椭円形	土師器
SK2029	H・9	50	16	24	半椭円形	土師器
SK2030	I・7・8	180	80	32	不整形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器
SK2031	G・9	46	20	20	隅丸長方形	土師器、須恵器、
SK2032	I・9	150	110	14	隅丸長方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SK2032-E1	I・9	22	22	6	円形	
SK2032-E2	I・9	12	12	6	円形	土師器、須恵器
SK2032-E3	I・9	20	20	18	円形	土師器
SK2032-E4	I・9	20	18	10	円形	土師器、瓦質土器、陶磁器
SK2033	G・10, H・10	48	36	28	楕円形	土師器、須恵器
SK2034	G・10	110	(30)	14	半長方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SK2035	H・9	110	56	18	半椭円形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器
SK2036	H・9, I・9	124	60	14	楕円形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、陶磁器
SK2037	H・10	60	30	24	楕円形	土師器、須恵器、黑色土器

第32表 柱穴造構一覧表(1)

造構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP2001	V・4	50	44	10	円形	土師器
SP2002	V・4	26	26	10	円形	
SP2003	W・4	40	34	8	楕円形	
SP2004	V・4	28	28	8	円形	瓦質土器
SP2005	V・4	32	30	8	円形	
SP2006	V・4	30	30	8	円形	
SP2007	U・4, V・4	28	28	6	円形	土師器
SP2008	U・4	30	28	6	円形	土師器
SP2009	V・3	32	32	6	円形	
SP2010	V・3	36	36	10	円形	
SP2011	V・3	34	34	6	円形	土師器
SP2012	U・3	30	28	38	円形	土師器
SP2013	U・3	30	26	6	円形	土師器
SP2014	U・3	28	28	10	円形	
SP2015	U・4	30	28	8	円形	
SP2016	T・4	28	28	10	円形	土師器
SP2017	U・4	36	32	10	円形	
SP2018	U・4	32	32	6	円形	土師器
SP2019	U・4	36	36	6	円形	
SP2020	U・4, 5	36	36	8	円形	
SP2021	U・4	42	40	10	円形	土師器
SP2022	U・5	32	32	10	円形	
SP2023	T・5	24	22	6	円形	
SP2024	T・5	34	32	14	円形	
SP2025	T・5	36	30	12	楕円形	
SP2026	T・5	24	24	12	円形	
SP2027	T・3	32	32	10	円形	土師器、瓦質土器
SP2028	J・7	34	(20)	14	半円形	土師器
SP2029	J・7	34	30	6	楕円形	
SP2030	J・8	30	26	6	円形	土師器
SP2031	J・8	34	30	26	隅丸方形	土師器
SP2032	J・8	30	26	14	隅丸方形	土師器、須恵器
SP2033	J・8	36	36	28	隅丸方形	土師器
SP2034	J・8, 9	30	26	12	円形	土師器、瓦質土器
SP2035	J・9	30	26	16	円形	土師器

第33表 柱穴遺構一覧表(2)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			半圆形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP2036	J-9	34	34	10	円形	土師器、瓦質土器
SP2037	J-9	36	24	26	隅丸方形	土師器
SP2038	J-9	24	24	10	円形	
SP2039	J-9	26	24	12	隅丸方形	
SP2040	I-9, J-9	38	30	8	長方形	土師器、瓦質土器
SP2041	J-9	24	24	30	正方形	土師器、瓦質土器、土製品
SP2042	J-9	40	24	16	長方形	
SP2043	I-7	26	26	6	円形	土師器、瓦質土器
SP2044	I-7	30	(14)	28	半円形	土師器
SP2045	I-7	32	30	10	不整形	土師器、須恵器、土製品
SP2046	I-7	30	30	10	円形	土師器
SP2047	I-7	24	24	4	円形	土師器
SP2048	I-7・8	34	24	14	隅丸方形	土師器、瓦質土器
SP2049	I-7	54	30	8	楕円形	土師器
SP2050	I-7	30	26	16	隅丸方形	土師器、瓦質土器
SP2051	I-7	30	26	8	隅丸方形	土師器
SP2052	I-7	30	28	14	円形	土師器
SP2053	I-8	32	24	4	楕円形	土師器、瓦質土器
SP2054	I-8	30	20	4	楕円形	土師器
SP2055	I-8	26	26	4	円形	土師器、瓦質土器
SP2056	I-8	30	30	16	円形	土師器、瓦質土器
SP2057	I-8	26	22	10	楕円形	土師器
SP2058	I-8, J-8	28	24	8	隅丸方形	土師器
SP2059	I-8	36	24	32	楕円形	土師器、須恵器、金属器
SP2060	I-9	30	30	20	円形	土師器
SP2061	I-9	28	26	8	円形	土師器
SP2062	I-9	40	40	8	円形	土師器
SP2063	I-9	22	22	12	円形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器
SP2064	I-9	(34)	34	14	半楕円形	土師器
SP2065	I-9	28	28	12	円形	土師器、陶磁器
SP2066	H-7	26	(20)	12	半隅丸方形	土師器
SP2067	H-7	32	24	12	隅丸方形	土師器、瓦質土器
SP2068	H-7	30	(22)	8	半円形	土師器
SP2069	H-7	38	38	20	隅丸方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2070	H-7	24	24	12	円形	土師器
SP2071	H-7・8	30	30	4	円形	土師器、石器
SP2072	H-7	24	22	8	円形	瓦質土器
SP2073	H-7	24	24	16	円形	
SP2074	H-7	28	28	10	円形	土師器
SP2075	H-7	34	32	12	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2076	H-8	46	42	40	円形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器
SP2077	H-8	24	22	6	円形	
SP2078	H-8	24	20	44	楕円形	土師器
SP2079	H-8	24	24	10	円形	土師器
SP2080	H-8	30	30	22	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2081	H-8・9	26	24	10	円形	土師器
SP2082	H-9	50	26	12	楕円形	土師器
SP2083	H-9	38	26	18	楕円形	土師器
SP2084	H-9	26	(20)	10	半円形	土師器、瓦質土器
SP2085	H-9	24	20	10	楕円形	土師器
SP2086	H-9	28	28	32	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2087	H-9	26	26	12	円形	土師器、瓦質土器
SP2088	H-9	20	20	16	円形	

第34表 柱穴遺構一覧表(3)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺物
		長軸	短軸	深さ		
SP2089	H-10	32	32	12	円形	土師器、瓦質土器
SP2090	G-8	50	30	10	楕円形	土師器、瓦質土器
SP2091	G-8	28	28	14	円形	土師器
SP2092	G-8, H-8	40	36	22	円形	土師器
SP2093	G-8	38	30	4	隅丸方形	
SP2094	G-8	40	34	12	隅丸方形	土師器
SP2095	G-8	42	30	16	楕円形	土師器
SP2096	G-8	18	18	12	円形	
SP2097	G-9	28	26	20	円形	土師器、瓦質土器
SP2098	G-9	40	32	12	楕円形	土師器、須恵器
SP2099	G-9	34	32	30	隅丸方形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器
SP2100	G-9	28	26	6	円形	土師器
SP2101	G-9	26	24	6	円形	土師器
SP2102	G-9	20	20	8	円形	土師器、瓦質土器
SP2103	G-9	14	14	4	円形	土師器
SP2104	G-9	24	22	16	円形	
SP2105	G-9	28	24	16	円形	土師器、須恵器
SP2106	G-9	28	28	20	円形	土師器
SP2107	G-9	26	26	20	隅丸方形	土師器
SP2108	G-9	58	40	10	楕円形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器
SP2109	G-10	36	34	32	円形	土師器、須恵器
SP2110	G-10	24	22	18	円形	土師器
SP2111	G-10	18	18	22	円形	土師器
SP2112	F-8, G-8	36	(30)	12	半円形	土師器
SP2113	F-8	30	26	6	円形	須恵器
SP2114	F-8	14	(8)	20	半円形	土師器、金属器
SP2115	F-9	30	28	12	隅丸方形	土師器
SP2116	F-9	28	26	10	円形	土師器
SP2117	F-9, G-9	40	36	20	楕円形	土師器
SP2118	F-9	48	42	20	楕円形	
SP2119	F-9	36	26	18	楕円形	土師器、須恵器
SP2120	F-9	32	30	36	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2121	F-9	26	24	14	円形	
SP2122	F-9	44	42	16	円形	土師器、黒色土器、瓦質土器
SP2123	F-9	54	(16)	18	半楕円形	土師器
SP2124	F-10	64	50	28	楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石器
SP2125	F-10	24	22	22	円形	土師器
SP2126	E-9	28	(20)	10	半楕円形	土師器
SP2127	E-9	36	(22)	16	半円形	
SP2128	E-9	24	24	20	円形	
SP2129	E-10	28	28	14	円形	土師器
SP2130	D-10	32	(16)	8	半円形	
SP2131	D-10	30	24	8	楕円形	土師器
SP2132	D-10	24	20	20	楕円形	
SP2133	C-10・11 D-10・11	38	34	12	楕円形	土師器、瓦質土器
SP2134	C-10	22	22	14	円形	土師器
SP2135	C-10	44	30	10	楕円形	土師器
SP2136	C-10	20	20	6	円形	
SP2137	C-10	26	24	10	円形	瓦質土器
SP2138	B-10	20	20	10	円形	
SP2139	B-11	24	24	8	円形	
SP2140	B-10	22	22	8	円形	

第35表 柱穴遺構一覧表(4)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP2141	B-11	24	24	6	円形	
SP2142	B-11	34	(20)	10	半楕円形	
SP2143	I-9	24	22	12	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2144	I-7	50	36	16	隅丸方形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器
SP2145	I-7	50	30	14	楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2146	H-9	40	35	10	円形	土師器、須恵器、炭化物
SP2147	I-8	32	32	8	円形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2148	I-8	30	28	16	円形	土師器、須恵器
SP2149	I-8・9	26	24	20	円形	土師器
SP2150	G-10, H-10	24	22	10	円形	土師器、須恵器
SP2151	G-10	28	26	40	円形	
SP2152	G-10	36	32	10	楕円形	土師器、須恵器
SP2153	G-10	22	20	16	円形	土師器、瓦質土器
SP2154	欠番					
SP2155	J-9	30	30	14	円形	土師器
SP2156	G-9, H-9	26	24	32	円形	土師器、黒色土器
SP2157	H-9	30	28	24	円形	土師器
SP2158	F-10	24	24	14	円形	土師器、瓦質土器
SP2159	F-10	34	28	22	楕円形	土師器
SP2160	H-9	30	30	14	円形	土師器
SP2161	H-9	30	30	20	円形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器
SP2162	I-9	34	(18)	16	半隅丸方形	土師器
SP2163	I-9	34	22	16	隅丸長方形	土師器、黒色土器
SP2164	I-9	30	26	20	楕円形	
SP2165	I-9	30	20	10	楕円形	土師器
SP2166	I-9	30	30	12	円形	土師器
SP2167	I-9	26	24	8	円形	土師器、黒色土器、瓦質土器、鉄器
SP2168	I-9	28	24	30	楕円形	土師器
SP2169	I-9	40	34	14	楕円形	土師器
SP2170	I-9	34	24	10	楕円形	土師器
SP2171	I-9	20	14	4	楕円形	土師器
SP2172	H-8	40	26	30	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器
SP2173	H-9	22	20	6	円形	土師器
SP2174	H-9	40	38	20	円形	土師器
SP2175	H-9	34	30	8	円形	土師器、土製品、鉄器
SP2176	H-9	46	(34)	18	半円形	土師器
SP2177	H-9	44	30	18	隅丸長方形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器
SP2178	H-9	20	20	10	円形	土師器、須恵器
SP2179	H-9	20	20	16	円形	
SP2180	H-9・10	40	24	14	長方形	土師器、須恵器
SP2181	H-9	36	30	22	隅丸方形	土師器、黒色土器、須恵器
SP2182	H-9	24	24	4	円形	土師器、鉄器
SP2183	H-10	30	(10)	24	半長方形	土師器
SP2184	H-10	36	(24)	28	半楕円形	土師器、須恵器
SP2185	H-10	46	36	40	楕円形	土師器、黒色土器、須恵器、鉄器、石器
SP2186	H-10	24	24	18	円形	土師器、須恵器、鉄器
SP2187	G-10, H-10	36	(22)	18	半円形	土師器
SP2188	G-10	34	28	10	楕円形	土師器
SP2189	I-9	26	(20)	14	半円形	土師器
SP2190	H-10	60	30	8	楕円形	土師器、瓦質土器
SP2191	I-9	16	16	16	円形	土師器
SP2192	H-9	28	24	20	長方形	土師器、黒色土器、須恵器
SP2193	H-9	26	26	20	方形	土師器、黒色土器

第36表 柱穴遺構一覧表(5)

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP2194	H-9	34	26	16	長方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2195	H-9	70	66	24	正方形	土師器、須恵器
SP2196	H-9	70	70	16	隅丸方形	土師器、須恵器、瓦質土器
SP2197	H-9	43	35	18	隅丸長方形	土師器、黑色土器

第37表 土壙墓遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
ST2001	H-9	120	62	8	稍円形	土師器、黑色土器、須恵器、瓦質土器、鉄器 炭化物、骨
ST2002	H-9	344	120	16	椭円形	土師器、黑色土器、須恵器、瓦質土器
ST2003	H-9	156	128	28	橢円形	土師器、黑色土器

第38表 不明遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SX2001	F-10, G-9・10	770	300	28	不整形	土師器、須恵器、黑色土器、瓦質土器、陶磁器 鉄器、金屬器、土製品、炭化物
SX2001-EP1	G-9	20	20	14	円形	土師器、須恵器
SX2001-EP2	G-9	30	22	8	稍円形	土師器、黑色土器
SX2001-EP3	矢番					
SX2001-EP4	G-9	30	28	12	円形	土師器、黑色土器
SX2001-EP5	G-9	20	20	10	円形	土師器
SX2001-EP6	G-9	34	(20)	6	半円形	土師器、黑色土器
SX2001-EP7	G-9	56	(24)	10	半椭円形	土師器、黑色土器、須恵器
SX2001-EP8	G-9	30	25	14	椭円形	土師器、瓦質土器
SX2001-EP9	G-9	26	25	10	円形	土師器、須恵器
SX2001-EP10	G-10	44	20	10	橢円形	七筒器、須恵器
SX2002	H-9・10 I-9・10	430	220	12	不整形	土師器、黑色土器、須恵器、瓦質土器、陶磁器 土製品、瓦、鉄器、炭化物

## 第2次(2001年度)調査 室町時代 遺構一覧表

第39表 堀立柱建物一覧表

遺構名	検出地点	規 模			面積(m <sup>2</sup> )	棟方向	出 土 遺 物
		間数	兼間(m)	幅行(m)			
SA1001	I-7, J-7	1×2	1.70	3.50	5.95	N-3°-W	土師器、須恵器

第40表 溝状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模(cm)			断面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SD1001	V-2・3, W-2・3, X-2・3, Y-2, Z-2, AA-2, AB-2	3200	240	62	逆台形	土師器、須恵器、陶磁器、金属器
SD1002	H-7, I-7, J-7	600	50	20	U字形	土師器、須恵器、鉄器
SD1003	I-7・8・9	1200	80	20	逆台形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、鉄器
SD1004	H-7・8	340	60	22	逆台形	土師器、須恵器
SD1005	G-8・9・10	1250	180	30	逆台形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、鉄器
SD1006	F-8・9・10	1300	120	14	レンズ状	土師器、須恵器、瓦質土器
SD1007	H-7・G-7・8	800	40	16	逆台形	土師器、炭化物
SD1008	D-9・10	520	50	14	逆台形	土師器、鉄器
SD1009	B-10・11, C-11	500	60	16	レンズ状	土師器、瓦質土器
SD1010	D-10, E-10, B-11, C-11, D-11	1450	30	8	半U字形	土師器、須恵器

第41表 土坑状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模(cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SK1001	H-7	126	70	24	隅丸長方形	土師器、瓦質土器、鉄器
SK1002	I-9, J-9	220	90	40	三角形	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器

第42表 池・沼状遺構一覧表

遺構名	検出地点	規 模(cm)			断面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SL1001	H-7, I-7, J-7	600	140	56	長方形	土師器、須恵器、黒色土器、瓦質土器、陶磁器、鉄器、土製品

第43表 柱穴遺構一覧表(1)

遺構名	検出地点	規 模(cm)			平面形	出 土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP1001	I-7, J-7	32	32	16	円形	
SP1002	I-7	32	30	24	円形	土師器
SP1003	I-7	30	28	24	円形	土師器
SP1004	I-7	20	20	16	円形	土師器
SP1005	I-7	18	18	20	円形	土師器
SP1006	J-7	36	36	10	円形	土師器
SP1007	I-7	34	31	26	円形	土師器
SP1008	I-7	40	30	12	楕円形	土師器、須恵器
SP1009	I-7	30	30	20	円形	土師器
SP1010	I-7	38	36	30	円形	土師器
SP1011	I-8	30	28	12	円形	
SP1012	I-8, J-8	20	18	20	円形	土師器
SP1013	J-8・9	36	30	12	楕円形	土師器
SP1014	J-9	80	70	34	楕円形	土師器、須恵器
SP1015	J-9	45	40	14	楕円形	土師器

第44表 柱穴造構一覧表(2)

造構名	検出地点	規 模 (cm)			平面形	出土 遺 物
		長軸	短軸	深さ		
SP1016	I - 9	40	38	14	円形	土師器
SP1017	I - 8	34	32	20	円形	土師器
SP1018	H - 7・8	50	40	28	楕円形	土師器、須恵器、瓦質土器、鉄器、土製品、種子
SP1019	H - 7	30	24	8	楕円形	土師器
SP1020	H - 7・8	52	44	20	楕円形	土師器、須恵器
SP1021	H - 7・8	30	26	22	楕円形	土師器
SP1022	H - 8	20	18	12	円形	土師器
SP1023	H - 7・8	22	20	6	円形	
SP1024	H - 8	28	28	14	円形	
SP1025	H, G - 7・8	30	28	14	円形	土師器
SP1026	G - 7・8	40	38	18	円形	土師器
SP1027	G - 7・8	44	(40)	14	半楕円形	土師器、陶磁器
SP1028	G - 8	36	34	16	円形	
SP1029	F - 8・9	40	40	16	円形	
SP1030	欠番					
SP1031	欠番					
SP1032	D - 9	40	30	30	楕円形	
SP1033	D - 10	36	34	18	円形	
SP1034	D - 10, E - 10	84	60	16	楕円形	
SP1035	D - 10	42	42	12	円形	
SP1036	D - 10, E - 10	52	52	14	円形	土師器
SP1037	D - 10	30	26	12	円形	
SP1038	D - 10	64	34	14	楕円形	
SP1039	C - 10, D - 10	26	24	8	円形	
SP1040	B - 10・11	24	24	8	円形	
SP1041	C - 11	44	42	6	円形	
SP1042	C - 11	42	40	6	円形	
SP1043	欠番					
SP1044	欠番					
SP1045	B - 11	30	30	8	円形	
SP1046	B - 11	34	30	6	円形	
SP1047	B - 11	32	28	14	円形	
SP1048	欠番					

第45表 第1次（2000年度）調査・出土遺物観察表（土器・土製品）1

番号	遺構名	器種名	法量(cm)	形 范 の 特徴	技 法・ 溝 締	色 調	胎 土	備 考
1	SA3001 SP3046	土器器皿	口径 20.2 高さ (2.6)	口縁部外方に内唇ぎみに立ち上がり、端部やかに外反し丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: にぶい穂 内: にぶい穂 赤色透彩: 明赤褐色	石英・長石 雲母	内外面: 赤色透彩
2	SA3001 SP3046	土器器皿	口径 11.8	口縁部外方に内唇ぎみに立ち上がり、端部やや外反し丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: 底黄褐色 内: 底黄褐色	石英・長石 雲母	
3	SA3001 SP3050	土器器皿	底径 7.4	体部外方にゆるやかに立ち上がる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切後ナデ	外: 棕 内: 浅黄褐色	石英・長石 雲母 赤色透彩 粘晶片岩	
4	SA3001 SP3050	土器器皿 椀	口径 12.4 高さ 3.2 底径 7.0	口縁部内唇ぎみに外上方へ立ち上がり、端部やや外反し丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: ナデ	外: 底黄褐色 内: にぶい穂	石英・長石 雲母 赤色透彩	
5	SA3001 SP3053	土器器皿	口径 13.8 高さ 2.2 底径 6.0	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切後ナデ	外: 棕 内: 棕	長石・雲母 赤色透彩	完形
6	SA3001 SP3053	土器器皿 皿	口径 15.0 高さ 1.7 底径 9.7	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切	外: 浅黄褐色 内: 淡棕 赤色透彩: 棕	石英・雲母 赤色透彩	内面: 赤色 透彩
7	SA3001 SP3053	土器器皿 椀	高さ 8.8	体部外上方にやや内唇ぎみに立ち上がる。[ハ]の字形にして、断面平行四辺形状の、やや高めの高台がつく。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切後ナデ	外: 棕 内: 棕 赤色透彩: 棕	石英・雲母 赤色透彩	内外面: 赤色透彩 斜付高台
8	SA3001 SP3053	土器器皿	底径 8.0	口縁部外方にゆるやかに立ち上がる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切	外: にぶい穂 内: にぶい穂 赤色透彩: 棕	石英・長石 雲母	内外面: 赤色透彩
9	SA3001 SP3053	土器器皿 甕	口径 29.4	口縁部外方に近く立ち上がり、端部上方につまみ上げる。	外: ヨコナデ 内: ハケ(9cm) 後ヨコナデ	外: にぶい穂 内: にぶい穂	石英・長石 雲母 赤色透彩	
10	SA3001 SP3053	黑色土器A 碗	口径 17.8	口縁部外上方にやや内唇ぎみに立ち上がり、端部やや外反する。	外: ヨコナデ 内: ミガサ(闊2.5mm)	外: 底黄褐色 内: 黒	長石・雲母 赤色透彩	
11	SA3001 SP3053	黑色土器B 杯	口径 13.8	口縁部外上方に立ち上がり、端部やや外反する。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: 灰 内: 灰	長石・雲母	
12	SA3001 SP3053	須恵器 椀	底径 5.1	体部外上方にやや内唇ぎみに立ち上がる。割り出しの高台がつく。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転糸切	外: 灰 内: 灰	石英・雲母	
13	SA3001 SP3053	土器器皿 台付甕	上部 22.3 径 22.4 脚台 22.4 底部	外縁部は外方に立ち上がる。台部「ハ」の字状に窓き、端部方形形状におさめ。断面斜方形状の脚状部があり。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハケ(8条/2cm) ヨコナデ 底: 回転ヘラ切	外: 棕 内: 棕	石英・長石 雲母 赤色透彩	
14	SA3001 SP3057	土器器皿 杯	口径 14.0	口縁部若干内唇ぎみに外上方へ立ち上がり、端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: にぶい穂 内: にぶい穂	長石・雲母 赤色透彩	
15	SA3001 SP3060	土器器皿	口径 12.8 高さ 1.6 底径 6.2	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、やや外反して端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切	外: にぶい穂 内: 浅黄褐色	石英・雲母 赤色透彩	
16	SA3001 SP3060	土器器皿 羽釜	口径 23.8	口縁部内唇ぎみに近く立ち上がり、端部断面は方形形状を呈する。断面上に断面斜方形状の跡がめぐる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: 棕 内: にぶい穂	石英・長石 雲母	
17	SA3001 SP3066	土器器皿 杯	口径 12.9	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: にぶい穂 内: 底黄褐色	石英・雲母 赤色透彩	
18	SA3001 SP3066	土器器皿 高台付杯	高台 8.3 底径	体部外方に立ち上がる。断面斜方形状の厚めの高台がつく。	外: ヨコナデ、粘土模 内: ヨコナデ 底: 回転ヘラ切	外: にぶい穂 内: 底白	石英・雲母 内面に黒斑有	
19	SA3001 SP3066	土器器皿 甕	口径 19.6	口縁部内唇ぎみに立ち上がり、端部やや尖りぎみに丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: 棕 内: 棕	石英・長石 雲母 赤色透彩	内外面に黒斑有
20	SA3001 SP3066	土器器皿 製塼土器	口径 38.2	口縁部外方に近く立ち上がり、端部方形状で、上方につまみ上げる。	外: ハケ(8条/1.9cm)、 ナデ 内: ハケ(9条/cm)、ナデ	外: 底黄褐色 内: 棕	石英・長石 雲母 赤色透彩	
21	SA3001 SP3068	土器器皿 甕	口径 28.8 底径 27.3	口縁部外方に近く立ち上がり、端部方形状で、後に上方につまみ上げる。	外: ハケ(9条/cm)、ナデ 内: 板ナデ、ナデ	外: にぶい穂 内: 明褐	石英・長石 雲母	外面にスス付着
22	SA3001 SP3068	土器器皿 製塼土器	厚さ 1.4		外: ヨコナデ後ナデ 内: 布目痕	外: 浅黄褐色 内: にぶい穂	石英・長石	
23	SA3001 SP3068	須恵器 高台付杯	口径 13.8 高さ 2.7 高台 8.4 底部	口縁部外方に立ち上がり、端部やかに外反し、丸くおさめる。断面斜方形状の高台がつく。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 底: 不明(欠損)	外: 灰 内: 灰	石英・長石 雲母	
24	SA3001 SP3085	土器器皿 椀	口径 13.0	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	外: 棕 内: 棕	石英・雲母 赤色透彩	

第46表 出土遺物観察表（土器・土製品）2

番号	遺物名	器種名	法量(cm)	形態の特徴	技法・調査	色 液	胎 土	備考
25	SA3001 石器 SP3085	須恵器 杯	口径 13.0	口縁部外方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:青灰 内:青灰	石英・長石 雲母	
26	SD3001	土器 皿	口径 12.7 器高 2.6 底径 6.8	口縁部ゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ヨコナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜	長石 赤色斑粒	
27	SD3001	土器 鍋	口径 22.5	口縁部外方に立ち上がり、端部方形状で、わずかに上下に拡張する。	外:ユビオサエ後ハケ (7条/cm) 内:ヨコハケ(6条/cm) 後ナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜	石英・長石 雲母	
28	SD3001	土製品 土鍤	長さ 4.9 幅 1.2 厚さ 1.2 重量 6.3g	紡錘状土鍤	外:ナデ	にぶい黄根	石英・長石 雲母 赤色斑粒	完形 穿孔径 3.0mm
29	SD3001	土製品 土鍤	長さ 5.1 幅 1.1 厚さ 1.2 重量 6.2g	紡錘状土鍤	外:ナデ	明黄褐	長石・雲母	完形 穿孔径 3.9mm
30	SD3001	土製品 土鍤	長さ 5.5 幅 1.2 厚さ 1.2 重量 7.0g	紡錘状土鍤	外:ナデ	浅黄	石英・雲母	完形 穿孔径 4.0mm
31	SD3001	土製品 土鍤	長さ 5.5 幅 1.1 厚さ 1.2 重量 5.5g	紡錘状土鍤	外:ナデ	檜	長石	完形 穿孔径 3.5mm
32	SD3001	土製品 土鍤	長さ 3.3 幅 1.7 厚さ 1.3 重量 7.2g	有孔土鍤	外:ナデ	にぶい檜	雲母・長石	穿孔径 3.5mm
33	SD3002	縄輪陶器 碗	口径 18.8	口縁部外方に立ち上がり、端部外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 内外面:施釉	釉:うすい黄緑 胎上:灰白	板密	内外面: 施釉
34	SD3003	土器器 杯	口径 12.4 器高 3.3 底径 8.2	口縁部外方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ハラ切後ナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜 赤色斑粒:赤	石英・長石 雲母	内外面: 赤色斑彩
35	SD3003	土器器 杯	口径 12.0 器高 3.1 底径 8.0	口縁部外方に立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にぶい黄根 内:にぶい黄根 赤色斑粒	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
36	SD3003	土器器 杯	口径 13.0 器高 2.7 底径 8.0	口縁部外方に立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にぶい黄根 内:にぶい黄根 赤色斑粒	長石 赤色斑粒	
37	SD3003	土器器 皿	口径 11.8 器高 1.8 底径 6.3	口縁部外方に浅く立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ハラ切後ナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜	長石 赤色斑粒	
38	SD3003	土器器 皿	口径 12.6 器高 3.1 底径 7.0	口縁部外方に浅く立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ハラ切	外:にぶい檜 内:にぶい檜	赤色斑粒	
39	SD3003	土器器 皿	口径 14.7 器高 2.1 底径 11.2	口縁部外方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ナデ 内:ナデ 底:回転ハラ切	外:灰白 内:灰白	石英・長石 雲母	内面に黒斑 有
40	SD3003	土器器 皿	口径 15.7	口縁部外方に浅く立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい黄根 内:浅黄根	石英・雲母	
41	SD3003	土器器 高台付皿	口径 17.5 器高 3.0 高台 9.5 底径	口縁部外方に丸くおさめるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。「フ」の字型で断面U字状の、窓めの高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:板 内:檜	雲母 赤色斑化土粒	貼付高台
42	SD3003	土器器 碗	高台部 8.2	体部外上方へ立ち上がる。 「ハ」の字型で断面U字形状の、縦縫の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:淡青 内:灰	雲母 赤色斑粒	貼付高台 内面黑色
43	SD3003	土器器 碗	高台部 7.6 底径	体部若干内側をぎみに外方に立ち上がり、端部上方に微につまみ上げ、方形状におさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ハラ切後ナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜 赤色斑彩;にぶい檜	石英・長石 雲母 赤色斑粒 結晶片岩	貼付高台 内外面; 赤色斑彩
44	SD3003	土器器 壺	口径 23.6	口縁部外上方に短く立ち上がり、端部尖りぎみにおさめる。	外:ハケ(7条/cm) 後ナデ 内:ハケ(5条/cm) 後ナデ	外:にぶい檜 内:にぶい檜	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
45	SD3003	黒色土器A 椀	口径 17.0	口縁部内側をぎみに立ち上がり、端部尖りぎみにおさめる。	外:ユビオサエ後ナデ 内:ナデ	外:にぶい檜 内:黑	石英・雲母	大和型
46	SD3003	須恵器 高台付杯	口径 11.6 器高 3.8 高台 8.2 底径	口縁部外方に立ち上がり、端部丸くおさめる。断面方錐形状の、低い高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:灰白 内:灰白	石英・長石 雲母	貼付高台

第47表 出土遺物観察表（土器・土製品）3

番号	遺物名	器種名	法量(cm)	形・態の特徴	技法・調査	色・面	施上	備考
47	SD3003	須恵器 杯	底径 7.2	体部外上方へ立ち上がる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ヨコナデ	外:灰白 内:灰白	石英・長石 雲母 赤色斑粒	外面に黒斑 有
48	SD3003	須恵器 杯	器高 1.3	断面倒平な連台形状のつまみがつく。	外:ナデ 内:ナデ	外:灰 内:灰	良石・雲母 赤色斑粒	
49	SD3003	須恵器 杯	口径 14.4	口縁端部は下方に抵張し、丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:灰 内:灰	良石・雲母 赤色斑粒	
50	SD3003	須恵器 盃	体部 17.3 高台 8.8	体部下部、直線的に立ち上がり肩部丸みをもつ。断面方形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ヨコナデ	外:灰 内:灰	石英 貼付高台	
51	SD3003	縁輪陶器 椀	口径 16.9 器高 5.5 高台部 7.5 径 4.5g	口縁部若干内厚さみに外上方へ立ち上がり、端部丸くおさめる。削り出しの際の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外内:グレイム オリーブグレイ 胎土:灰	良石 貼石	削り出し 高台
52	SD3003	土製品 土錘	長さ 4.2 幅 1.0 厚さ 1.1 重量 4.5g	彷彿状土錘	外:ナデ	にぶい黄橙	石英・長石 雲母	ほぼ光形 穿孔径 2.8mm
53	SD3003	土製品 土錘	長さ 5.6 幅 1.1 厚さ 1.2 重量 5.4g	彷彿状土錘	外:ナデ	灰黄	良石・雲母	穿孔径 3.0mm
54	SD3003	土製品 土錘	長さ 6.0 幅 1.1 厚さ 1.1 重量 6.7g	彷彿状土錘	外:ナデ	棕	石英・長石 雲母	完形 穿孔径 3.5mm
55	SD3003	土製品 土錘	長さ 5.8 幅 1.2 厚さ 1.2 重量 7.6g	彷彿状土錘	外:ナデ	にぶい黄橙	石英・長石 雲母	完形 穿孔径 3.5mm
56	SD3003	土製品 土錘	長さ 4.7 幅 3.4 厚さ (2.4) 重量 42.2g	有溝土錘	外:ナデ	にぶい褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	外面に黒斑 有
57	SD3007	土器器 椀	高台 部径 8.4	体部外上方へ立ち上がる。両面方形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:棕 内:にぶい黄橙	雲母 赤色斑粒	貼付高台
58	SD3007	土器器 羽釜	口径 33.0	口縁部直立ぎみに短く立ち上がり、端部断面は尖りぎみまとまる。その上に断面方形状の脚がめぐる。	外:ユビナデ、ユビオサエ後 内:ハケ(7条/1.1cm) 内:ハケ(9条/1.3cm)	外:にぶい棕 内:にぶい棕	石英・長石 雲母	
59	SD3007	須恵器 高台付杯	高台 9.3 部径	体部外上方へ直立ぎみに立ち上がる。断面連台形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:青灰 内:青灰	石英・長石	削り出し 高台
60	SD3010	土製品 土錘	長さ 5.7 幅 2.4 厚さ 2.5 重量 31.8g	彷彿状土錘	外:ナデ	にぶい褐	良石・雲母 赤色斑粒	完形 穿孔径 8.0mm
61	SD3011	土製品 土錘	長さ 4.7 幅 2.4 厚さ 2.3 重量 22.7g	彷彿状土錘	外:ナデ	にぶい棕	石英・長石 雲母 赤色斑粒	完形 穿孔径 7.0mm
62	SK3001	土器器 杯	口径 11.6 器高 3.5 底径 7.4	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:浅黄橙 内:灰白 赤色斑彩:棕	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面: 赤色塗彩
63	SK3001	土器器 杯	口径 13.0 器高 3.8 底径 7.3	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:浅黄橙 内:灰白 赤色斑彩:明赤褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面: 赤色塗彩
64	SK3001	土器器 杯	口径 12.6 器高 3.4 底径 6.6	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:淡棕 内:淡棕 赤色斑彩:棕	石英・雲母 赤色斑粒	内外面: 赤色塗彩
65	SK3001	土器器 杯	口径 13.1	口縁部外上方に立ち上がり、端部僅かに外反する。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:淡黄橙 内:淡黄橙 赤色斑彩:にぶい 赤褐	石英・長石 雲母	内外面: 赤色塗彩
66	SK3001	土器器 杯	底径 8.4	体部外上方に立ち上がる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:にぶい棕 内:にぶい棕 赤色斑彩:明赤褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面: 赤色塗彩
67	SK3001	土器器 皿	口径 13.2 器高 1.7 底径 9.0	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部外反し丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にぶい棕 内:にぶい棕 赤色斑彩:棕	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面: 赤色塗彩

第48表 出土遺物観察表（土器・土製品）4

番号	遺物名	器種名	法量 (cm)	形態の特徴	技法・調査	色調	胎土	備考
68	SK3001	土器器皿	口径 14.6 器高 2.7 底径 8.8	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切ナデ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	長石・雲母 赤色斑粒	
69	SK3001	土器器皿	口径 11.8	口縁部外方に立ち上がり、端部僅かに外反し、丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：にぶい黃褐色 内：にぶい黃褐色	石英・雲母 赤色斑粒	
70	SK3001	土器器皿	口径 19.0 器高 (2.8)	口縁部外方に浅く立ち上がり、端部僅かに外反し、丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：淡黄褐色 内：淡褐色	石英・長石 赤色斑粒	内外面：赤色塗形
71	SK3001	土器器皿 高台付型	口径 14.2 器高 5.2 底径 8.5	口縁部若干内壁ざみに外上方へ立ち上がり、端部丸くおさめる。 「ハ」の字形にして、断面に字形の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	石英・長石 雲母 赤色斑粒	貼付高台
72	SK3001	土器器皿 桿	口径 19.8	口縁部若干内壁ざみに外上方へ立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：淡褐色 内：淡褐色	石英・雲母 赤色斑粒	内外面：赤色塗形
73	SK3001	土器器皿 高台	高台 9.5	体部若干内壁ざみに外上方へ立ち上る。断面三角形状の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：淡青褐色 内：淡青褐色	石英・長石 雲母	貼付高台
74	SK3001	土器器皿 甕	口径 20.4	口縁部外方に近く立ち上がり、端部上方に僅かにつまみ上げ、方形状におさめる。	外：ヨコナデ・ハケ (13条; 2.7cm) 内：ユビオサエ・ハケ (13条; 2.7cm) 後ヨコナデ	外：にぶい黃褐色 内：にぶい黃褐色	石英・長石 雲母 赤色斑粒	外向に黒斑有
75	SK3001	土器器皿 甕	口径 22.2	口縁部外方に深く立ち上がり、端部上方につまみ上げる。	外：ヨコナデ=ハケ(5条/cm) 後ナデ 体部=ハケ(5条/cm) タタキ(4本/2cm) 内：ユビオサエ後ハケ (5条/cm) (5条/1.5cm)	外：明赤褐色 内：明褐色	石英・雲母赤色斑粒	
76	SK3001	土器器皿 甕	口径 25.4	口縁部外方に深く立ち上がり、端部上方に僅かにつまみ上げ、方形状におさめる。	外：ハケ(9条/2.0cm) 後ナデ 内：ハケ(6条/1.2cm)、 ナデ	外：にぶい褐色 内：にぶい褐色	石英・長石 雲母	
78	SK3002	土器器皿 甕	口径 17.8 体径 13.8	口縁部外方に深く立ち上がり、端部僅かに上方につまみ上げる。	外：ハケ(7条/1.8cm) 後ナデ 内：タタキ(5条/1.2cm) 後ナデ	外：にぶい赤褐色 内：にぶい褐色	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
79	SK3002	黑色土器A 甕	高台 9.2	体部若干内壁ざみに外上方へ立ち上る。「ハ」の字形にして、断面U字形のやや高めの高台がつく。	外：ケズリ後ナデ 内：タタキ(2條/mm) 断面ヘタ切	外：橙 内：褐灰	石英・雲母 砂岩	貼付高台
80	SK3003	土器器皿 杯	口径 13.8 器高 3.4 底径 9.0	口縁部外方に立ち上がり、端部僅かに外反する。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切	外：にぶい黃褐色 内：にぶい黃褐色	石英・長石	
81	SK3003	綠釉陶器 甕	口径 17.4 器高 4.9 底径 4.8	口縁部内壁ざみに外上方へ立ち上りがる。割り出しの高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切	釉：あさい黄 胎土：淡黃	鐵青	内外面：施釉
82	SK3004	土器器皿 桿	口径 14.9 器高 5.3 高台 8.2 底径	体部若干内壁ざみに外上方へ立ち上る。「ハ」の字形にして、断面U字形の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：小ナデ 底：不明(剥離)	外：にぶい褐色 内：にぶい黃褐色	石英・長石 雲母 赤色斑粒 砂岩	外面：赤色塗形 外向にスス付着 貼付高台
83	SK3011	須恵器 高台付杯	口径 12.0 器高 3.6 高台 8.8 底径	口縁部外方に立ち上がり、端部や縦身で深くおさめる。断面方形状の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：灰白 内：灰白	長石・雲母	貼付高台
84	SP3002	須恵器 杯	口径 13.0 器高 3.3 底径 9.0	口縁部外方にせら上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切	外：灰 内：灰	石英・長石 雲母	
85	SP3033	土器器皿 杯	口径 12.8	口縁部外方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：橙 内：橙	石英・長石 雲母	
86	SP3035	須恵器 皿	口径 14.0 器高 1.8 底径 9.8	口縁部外方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘタ切	外：灰白 内：灰白	長石・雲母	内面に黒斑有
87	SP3048	須恵器 杯蓋	口径 15.6 器高 2.9	天井部平坦。口縁部下方に若干唇曲し、端部でくおさめる。断面扁平な逆台形のつまみがつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：灰 内：青灰	石英	貼付のつまみ
88	SP3049	須恵器 蓋	頭部 8.8 体径 24.2	口縁部外反しながら立ち上る。外側部球形状を呈する。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：褐灰 内：赤灰	長石・雲母	
89	SP3067	土器器皿 製造工具	厚さ 1.3		外：ユビオサエ後ナデ 内：布目底	外：浅黃褐色 内：黃褐色	石英・長石 雲母 赤色斑粒	

第49表 出土遺物観察表（土器・土製品）5

番号	遺構名	器種名	法盤(cm)	形態の特徴	技法・調査	色調	胎土	備考
90	SP3086	土器器皿	厚さ 1.5	焚き口と思われる部分のすぐ上に断面方形状の鍋がめぐる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：にぶい褐 内：にぶい褐	石英・長石 雲母	
91	SA2001 SP2032	土器器皿	底径 8.0	体部外上方に立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸系切	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄褐	長石・雲母 赤色斑粒	
92	SA2002 SP2088	陶器器皿	底径 11.4	体部外上方に立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、指目 (7mm/2.7cm) 底：ナデ	外：グレイミの赤 内：グレイミの赤 胎土：暗赤灰	石英・雲母	
93	SA2004 SP2075	瓦器皿	口径 6.6 器高 0.7 底径 5.6	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、溝部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ミガキ (幅2mm) 底：ナデ	外：黒褐 内：黒褐	石英・雲母	
94	SK2004	土器器皿	高台部 5.6 径 5.6	体部外上方に立ち上がる。断面形状の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸ヘラ切後ナデ	外：灰白 内：灰オリーブ	石英・長石 雲母	貼付高台
95	SK2010	土器器皿	底径 7.8	体部外上方にやや内脣ぎみに立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、板ナデ 底：ナデ後製作台の板目痕	外：にぶい橙 内：にぶい橙	長石・雲母 赤色斑粒	
96	SK2010	土製品土錠	長さ 4.0 幅 1.3 厚さ 1.4 重量 6.2g	筋延状土錠	外：ナデ	橙	石英・長石 雲母	完形 穿孔径 4.0mm
97	SK2014	須恵器高台付皿	高台部 4.5 径 4.5	体部外上方にゆるやかに立ち上がる。削り出しの低い高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸ヘラ切	外：灰白 内：灰白	石英・長石 雲母	削り出し 高台
98	SP2020	土器器皿(?)	—	断面円形状を呈する。	ナデ	灰黄	石英・長石 雲母・青石	
99	SP2036	土器器皿	底径 8.6	体部外上方にやや内脣ぎみに立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸ヘラ切	外：浅黄褐 内：浅黄褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
101	SP2089	土器器皿	底径 5.6	体部外上方にゆるやかに立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：灰白 内：灰白	石英・長石 雲母	
102	SP2116	瓦質皿	口径 9.0 器高 0.8 底径 7.3	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、溝部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：灰 内：灰	石英・長石 雲母	
103	SK1001	土器器皿	口径 13.0	口縁部外上方に立ち上がり、溝部僅かに外反し丸くおさめる。	外：ナデ 内：ナデ	外：淡黄褐 内：淡黄褐 赤色斑粒：明赤褐	長石・雲母	内外面： 赤色斑彩
104	SK1001	陶器器皿	底径 28.6	体部外上方に立ち上がる。	外：ナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：にぶい赤褐 内：褐灰 胎土：青灰 にぶい赤褐	石英・長石 雲母	備前窯
105	SK1003	須恵器こね跡または擦跡	口径 25.6	口縁部直立し、溝部平凹でやや外部に低張する。	外：ナデ 内：ナデ	外：灰白 内：灰白	石英・長石 雲母	
106	SK1004	陶器天日碗	口径 9.8	口縁部内脣ぎみに外上方に立ち上がり、端部外反する。	外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄 内：にぶい黄 品名=ラウウン の累 内：こい黄みのブ ラウン 胎土：灰白	雲母	
107	SK1006	土器器皿	口径 12.0 器高 2.6 底径 7.8	口縁部外上方にやや外反ぎみに立ち上がり、溝部ではわずかに内脣し丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸ヘラ切後ケズリ	外：浅黄褐 内：浅黄褐	石英・雲母	
108	SK1008	土器器皿	口径 11.5 器高 1.3 底径 9.2	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、溝部丸くおさめる。	外：ナデ 内：ナデ	外：橙 内：橙	長石・雲母 赤色斑粒	
109	SK1008	土器器皿	口径 12.2	口縁部外上方にやや内脣ぎみに立ち上がり、溝部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：橙 内：浅黄褐	石英・長石 雲母	
110	SK1008	陶器器皿	口径 24.0	口縁部直立し、溝部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、指目(3条/cm)	外：暗紫灰 内：暗青灰 胎土：暗青灰	長石・雲母 青石	備前窯
111	SP1005	土器器皿	口径 45.4	口縁部内脣ぎみに外上方にゆるやかに立ち上がり、溝部方形形状を立てる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：黒 内：褐灰	石英・長石 雲母	外面にスス付着
112	SP1031	土器器皿	口径 11.2 器高 2.3 底径 6.6	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、溝部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：圓軸ヘラ切、製作台板目痕	外：灰白 内：灰白	雲母 赤色斑粒	ほぼ完形 底部に製作台板目痕れる。

第50表 出土遺物観察表（土器・土製品）6

番号	遺物名	径深名	法景(cm)	形 線 の 特 故	枝 法・調 整	色 調	胎 土	備 考
113 SP1031	土師器皿	口径 器高 底径	11.2 2.4 7.0	口縁部外上方に外反ぎみにゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：灰白 内：灰白	石英・雲母 赤色斑粒	
114 SP1032	土師器皿	口径 器高 底径	12.8 2.3 6.3	口縁部外上方にやや内擣ぎみに立ち上がり、滑部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転系切	外：にふい橙 内：にふい橙	石英・雲母 赤色斑粒	光形
115 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	12.6 3.4 6.4	口縁部外上方に立ち上がり、僅かに外反し端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：浅黄褐 内：灰白	石英・長石 雲母	内外面：赤色塗彩
116 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	12.4 3.1 6.6	口縁部外上方に立ちしげり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：灰白 内：灰白	長石・雲母	
117 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	13.0 3.6 7.6	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：浅黄褐 内：浅黄褐 底：ナデ	石英・長石 雲母	内外面：赤色塗彩
118 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	11.8 2.8 7.4	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：浅黄褐 内：橙	長石・雲母 赤色斑粒	
119 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	12.6 3.1 7.0	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：にふい黄褐 内：黄灰	石英・長石 雲母	内外面：赤色塗彩 外外側に凹痕あり
120 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	12.2 3.3 7.6	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：浅黄褐 内：橙	石英・長石 雲母	
121 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	11.4 (3.7) 5.2	口縁部外上方に内擣ぎみに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：橙 内：橙	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
122 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	12.9 3.6 6.0	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：浅黄褐 内：灰白 底：赤色塗彩：明赤褐	石英・長石 雲母	内外面：赤色塗彩
123 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	13.5 3.3 7.0	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：にふい黄褐 内：にふい黄褐	長石・雲母 赤色斑粒	
124 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	14.0 3.2 8.4	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：橙 内：橙 赤色塗彩：橙	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内面：赤色塗彩
125 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	14.8 6.3 8.2	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：にふい橙 内：にふい橙	石英・雲母 赤色斑粒	
126 第3包含層	土師器皿	口径	15.6	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：にふい橙 内：橙 赤色塗彩：明赤褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面：赤色塗彩
127 第3包含層	土師器皿	口径	12.9	口縁部外上方に立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：浅黄褐 内：にふい黄褐 赤色塗彩：明赤褐	長石・雲母	内外面：赤色塗彩
128 第3包含層	土師器皿	底径	6.8	体部外上方に立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：灰白 内：灰白	石英・長石 砂織	
129 第3包含層	土師器皿	底径	6.0	体部外上方にゆるやかに立ち上がる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ後文字のヘラ書き	外：浅黄褐 内：浅黄褐	石英・長石 雲母	底面裏にナ文字のヘラ書きあり
130 第3包含層	土師器皿 高台付杯	高台部 底径	7.8	体部外上方に立ち上がる。断面連三角形状の高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：浅黄褐 内：浅黄褐 赤色塗彩：橙	雲母	内外面：赤色塗彩 貼付高台
131 第3包含層	土師器皿 高台付杯	口径 器高 底径	11.8 (5.0)	口縁部外上方に立ち上がり、僅かに外反し端部丸くおさめる。「ハ」の字形にして、断面連字形状と思われる高台がつく。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：にふい橙 内：にふい橙	長石・雲母 赤色斑粒	斜行高台
132 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	— (5.1)	口縁部外上方に立ち上がり、僅かに外反し端部手前で大きく「く」の字形に内擣する。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：ナデ	外：にふい橙 内：にふい橙	石英・長石 雲母	
133 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	10.1 2.3 5.8	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：回転ヘラ切	外：橙 内：橙	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
134 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	10.9 2.2 6.0	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：四版ヘラ切	外：橙 内：橙	石英・長石 雲母 赤色斑粒	
135 第3包含層	土師器皿	口径 器高 底径	17.0 1.8 13.0	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ 底：四版ヘラ切後ナデ	外：にふい橙 内：にふい橙 赤色塗彩：にふい赤褐	石英・長石 雲母 赤色斑粒	内外面：赤色塗彩 内面に黒度あり

第51表 出土遺物観察表（土器・土製品）7

番号	遺物名	部品名	法量(cm)	形態の特徴	技法・調整	色調	胎土	備考
136	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	10.0 1.5 5.9	体部外上方にゆるやかに立ち上がり、僅かに外反し端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:橙 内:橙	辰石・赤色 斑粒	
137	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	11.8 1.0 9.4	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:にい黄 内:にい黄 底:赤色斑粒	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	
138	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	13.0 1.8 8.2	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にい橙 内:にい橙 底:赤色斑粒	辰石・雲母 赤色斑粒	外面: 赤色塗彩
139	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	13.0 1.6 8.4	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:浅黃桜 内:灰白	辰石・雲母 赤色斑粒	
140	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	13.4 1.4 9.4	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:橙 内:橙	辰石・雲母 赤色斑粒	
141	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	13.8 1.3 9.2	II縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:にい黄 内:灰白 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩
142	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	14.0 1.7 9.6	II縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:橙 内:橙 底:赤色塗彩:橙	辰石・雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩
143	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	14.4 1.6 8.6	体部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ナデ 底:回転ヘラ切	外:橙 内:橙	辰石・長石 雲母	
144	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	14.4 3.1 11.8	口縁部外上方に僅かに外反して立ち上がり、端部丸くおさめる。底部内面に施紋を施す。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:にい橙 内:浅黃桜 底:赤色塗彩:橙	辰石・長石 雲母	外面: 赤色塗彩
145	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	14.1 1.9 12.0	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部やや外反し丸くおさめる。底部内面に施紋をめぐらす。	外:ナデ 内:ナデ 底:ナデ	外:橙 内:橙	辰石・雲母 納晶片岩	内面に黒斑 あり
146	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	15.6 1.6 10.4	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:浅黃桜 内:にい橙 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・雲母 赤色斑粒	内面:赤色 塗彩
147	第3包含層 土器部皿	口径 器高 底径	16.6 3.1 12.6	II縁部外上方に僅かに外反ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。底部内面に施紋をめぐらす。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:にい黄 内:浅黃桜 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・雲母 赤色斑粒 粘晶片岩	外面: 赤色塗彩 内面に黒斑 あり
148	第3包含層 土器部皿	口径	12.4	口縁部外上方にゆるやかに立ち上がり、端部僅かに外反し丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	外:橙 内:にい橙	辰石・雲母 赤色斑粒	
149	第3包含層 土器部高台付皿	底径	7.8	体部外上方に立ち上がる。[ハ]の字形にして、断面U字形状の高台の高めの高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にい橙 内:橙	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	貼付高台
150	第3包含層 土器部皿	底径	-	底部内面にヘラ搔き。	外:ナデ 内:ナデ後ヘラ搔き	外:にい橙 内:にい橙 底:赤色塗彩:赤	辰石・雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩
151	第3包含層 土器部皿	底径	-	底部内外面にヘラ搔き。	外:ナデ後ヘラ搔き 内:ナデ後ヘラ搔き	外:にい橙 内:橙 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・雲母 赤色斑粒	外面: 赤色塗彩
152	第3包含層 土器部機	口径	15.4	口縁部外上方に内擽ぎみに立ち上がり、端部丸くおさめる。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:にい黄 内:にい黄 底:赤色斑粒	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	
153	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	6.4	体部外上方に内擽ぎみに立ち上がる。断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:橙 内:橙 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩 貼付高台
154	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	8.2	体部外上方にやや内擽ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形にして、断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:にい橙 内:にい橙 底:赤色斑粒	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩 貼付高台
155	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	9.0	体部外上方に内擽ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形にして、断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にい橙 内:にい黄 底:赤色塗彩:橙	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩 貼付高台
156	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	8.6	体部外上方に内擽ぎみに立ち上がる。断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:ナデ	外:にい橙 内:にい黄 底:赤色塗彩:赤褐	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩 貼付高台
157	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	7.0	体部外上方に内擽ぎみに立ち上がる。「ハ」の字形にして、断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切	外:浅黃桜 内:實橙	辰石・雲母 赤色斑粒	貼付高台
158	第3包含層 土器部碗	高台部 底径	8.6	体部外上方に立ち上がる。断面U字形状の高台がつく。	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ 底:回転ヘラ切後ナデ	外:にい黄 内:にい黄 底:赤色塗彩:明赤褐	辰石・長石 雲母 赤色斑粒	内面: 赤色塗彩 貼付高台